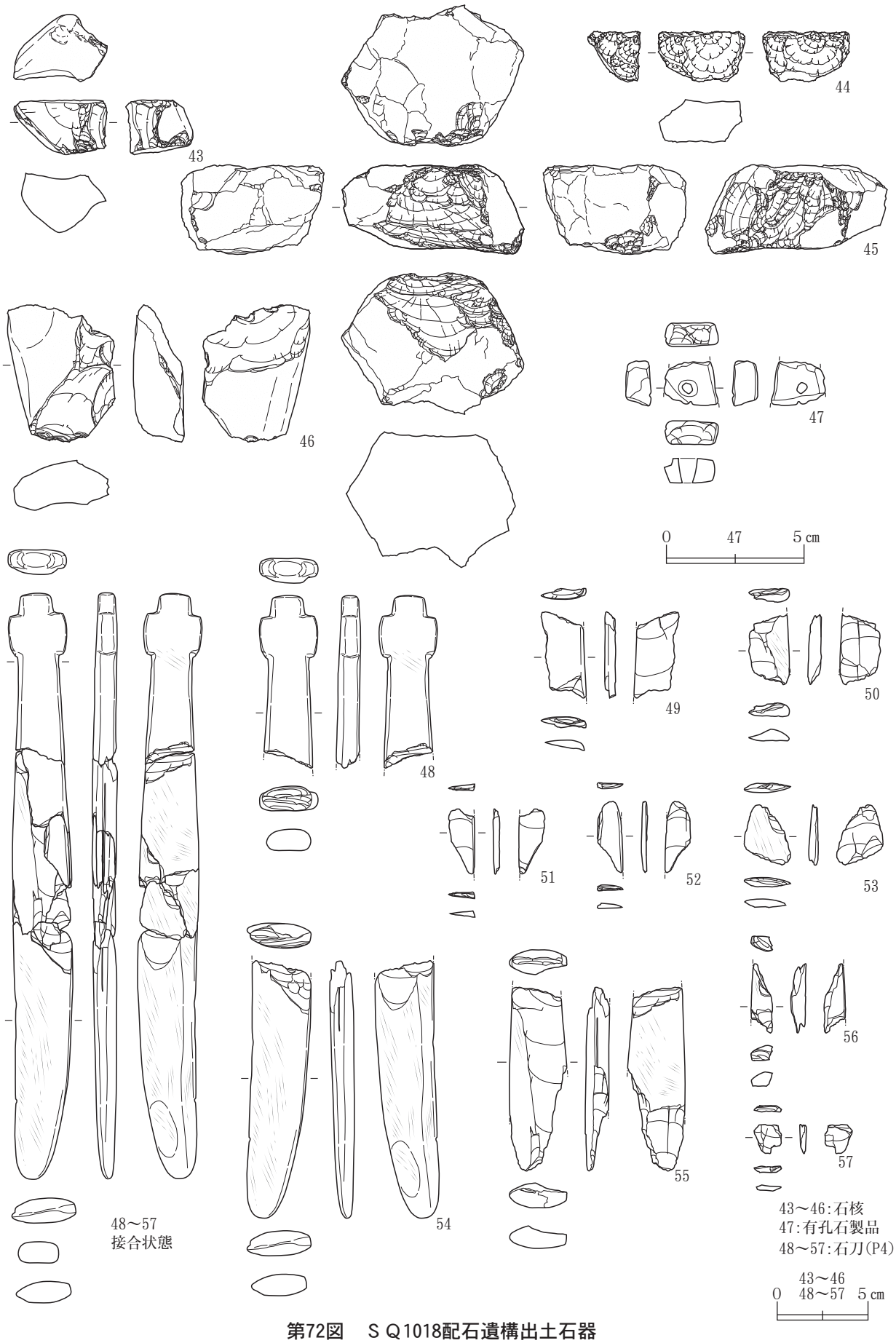
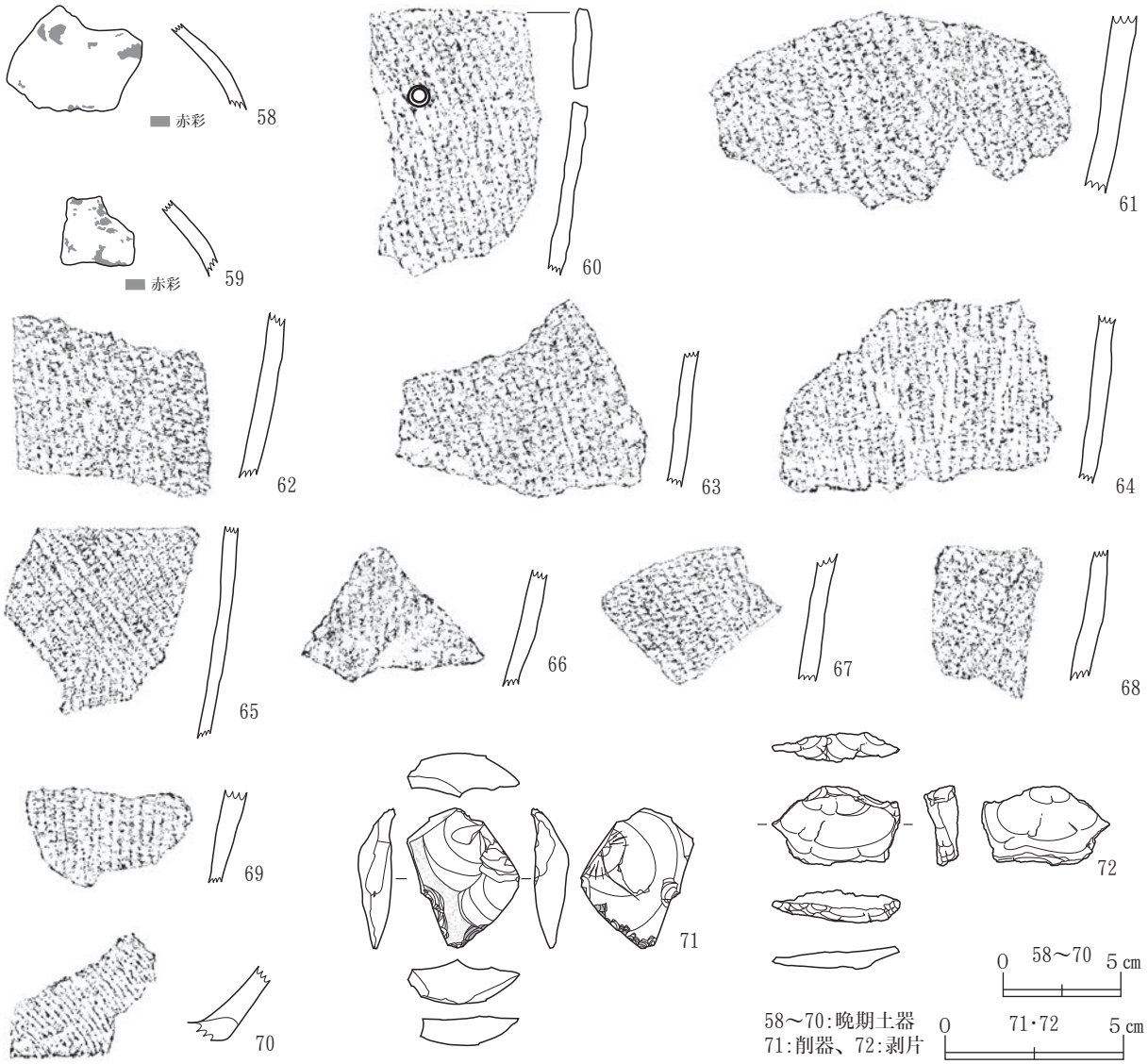
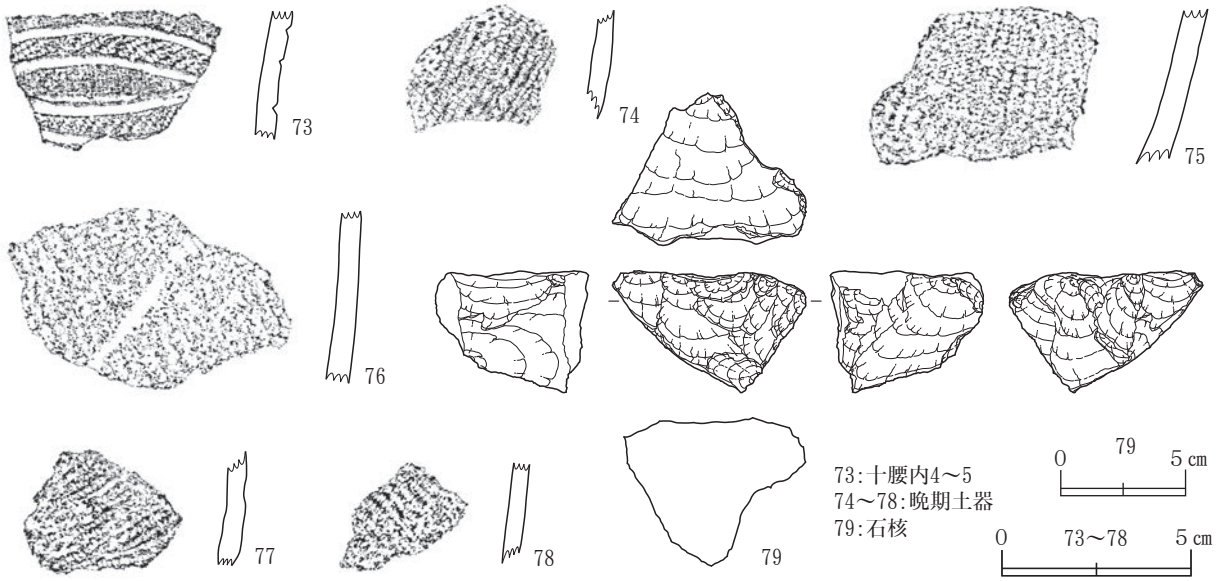


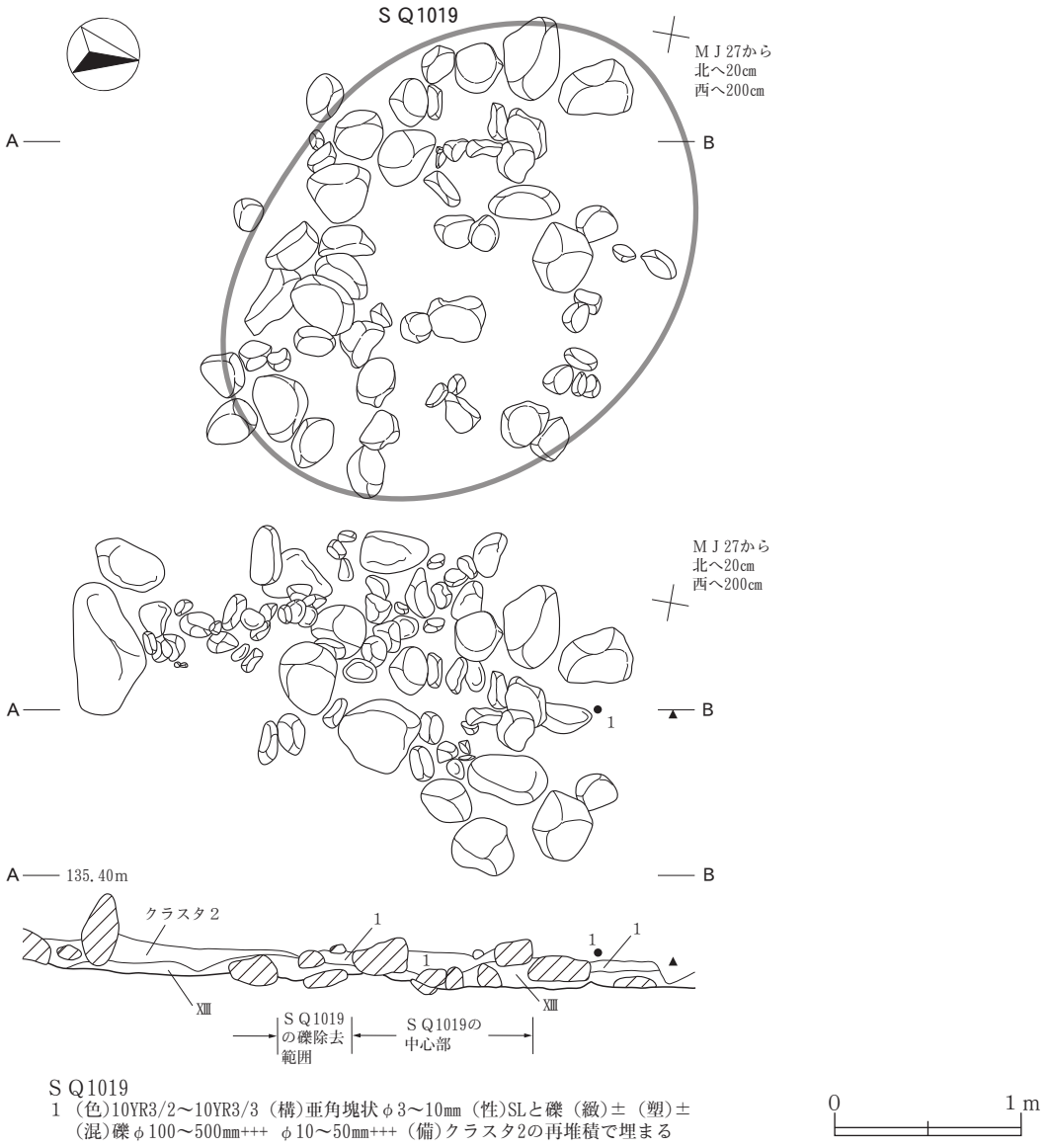
第72図　ＳＱ1018配石遺構出土石器



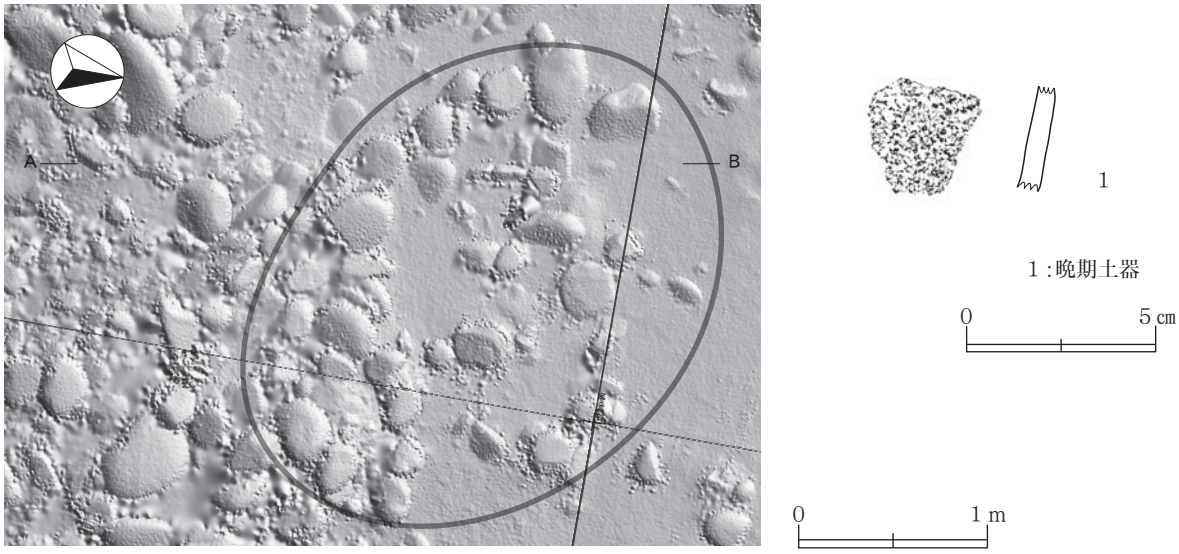
第73図　ＳＱ1018配石遺構SB1P1出土土器・石器



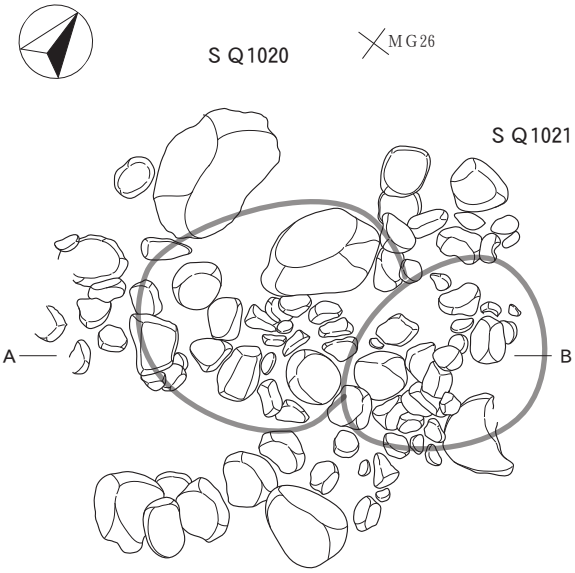
第74図　ＳＱ1018配石遺構SB1P2出土土器・石器

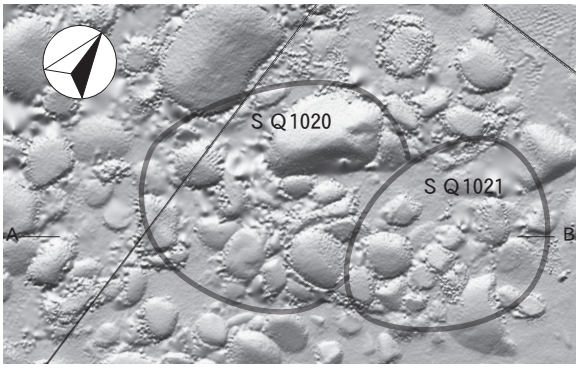


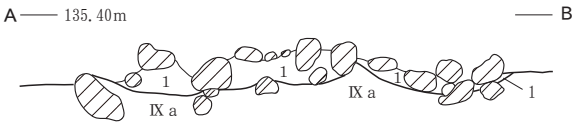
第75図　ＳＱ1019配石遺構



第76図　ＳＱ1019配石遺構レリーフ図、出土土器





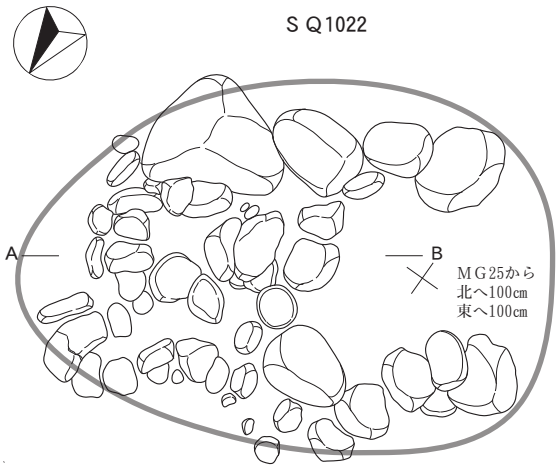


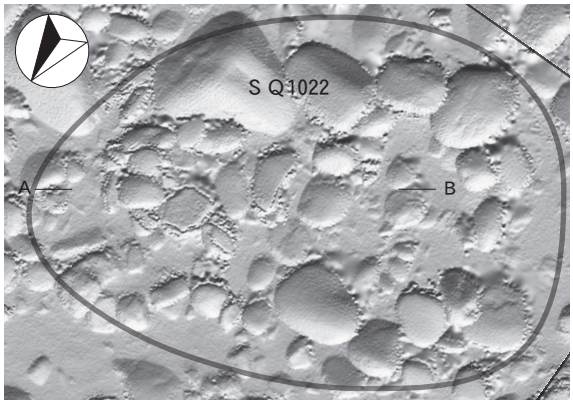
ＳＱ1020
1 (色)10YR3/1～2.5Y3/1 (構)亜角塊状φ7mm (性)L～SL
(塑)±～－ (混)礫φ10～30mm++ 凝灰岩が風化した白色粒子が目立つ
(備)グライ化 疑似グライ斑 褐鉄鉱φ3～5mm+

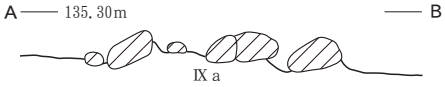
ＳＱ1021
1 (色)10YR3/1～2.5Y3/1 (構)亜角塊状φ7mm (性)L～SL (緻)+
(塑)±～－ (混)礫φ10～300mm++ 凝灰岩が風化した白色粒子が目立つ
(備)グライ化 褐鉄鉱φ3～5mm+

0　1 m

第77図　ＳＱ1020・1021配石遺構、レリーフ図



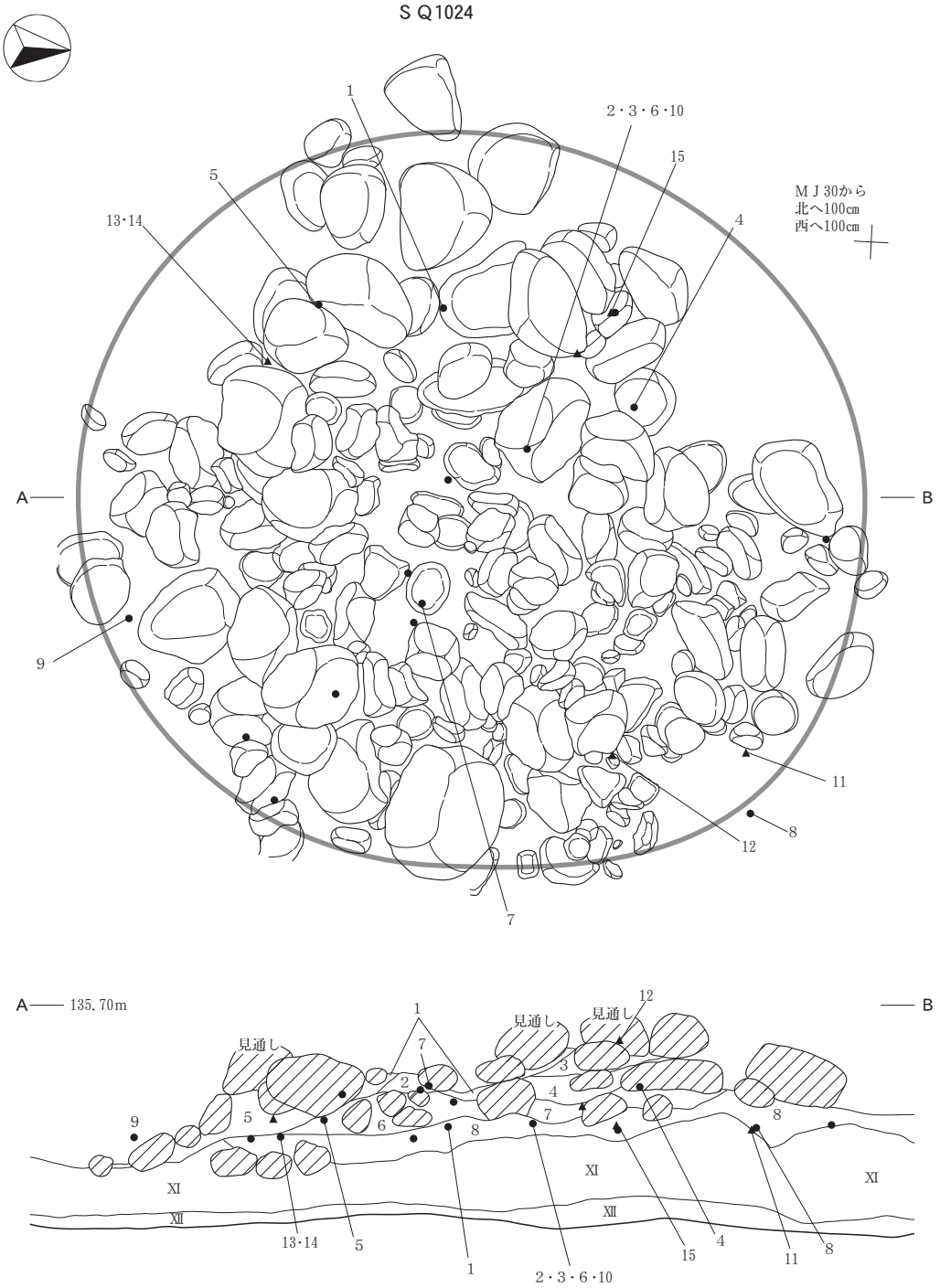




ＳＱ1022
Ⅸa層上に露出

0　1 m

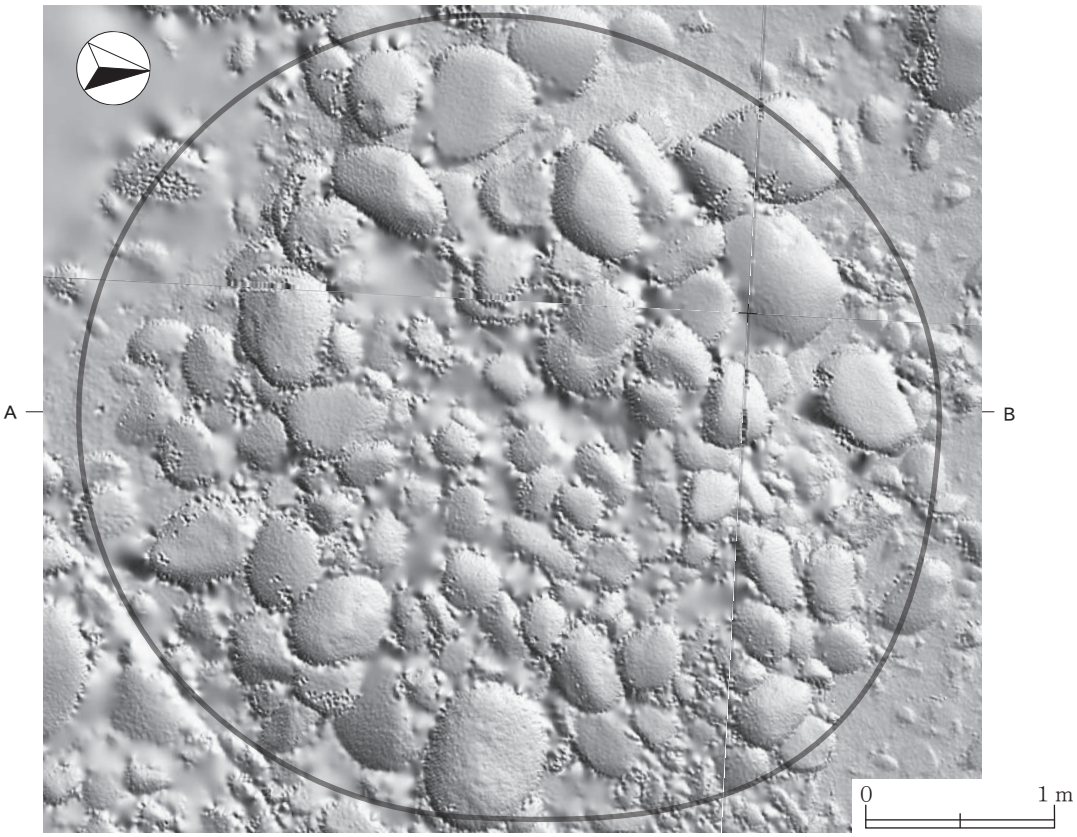
第78図　ＳＱ1022配石遺構、レリーフ図



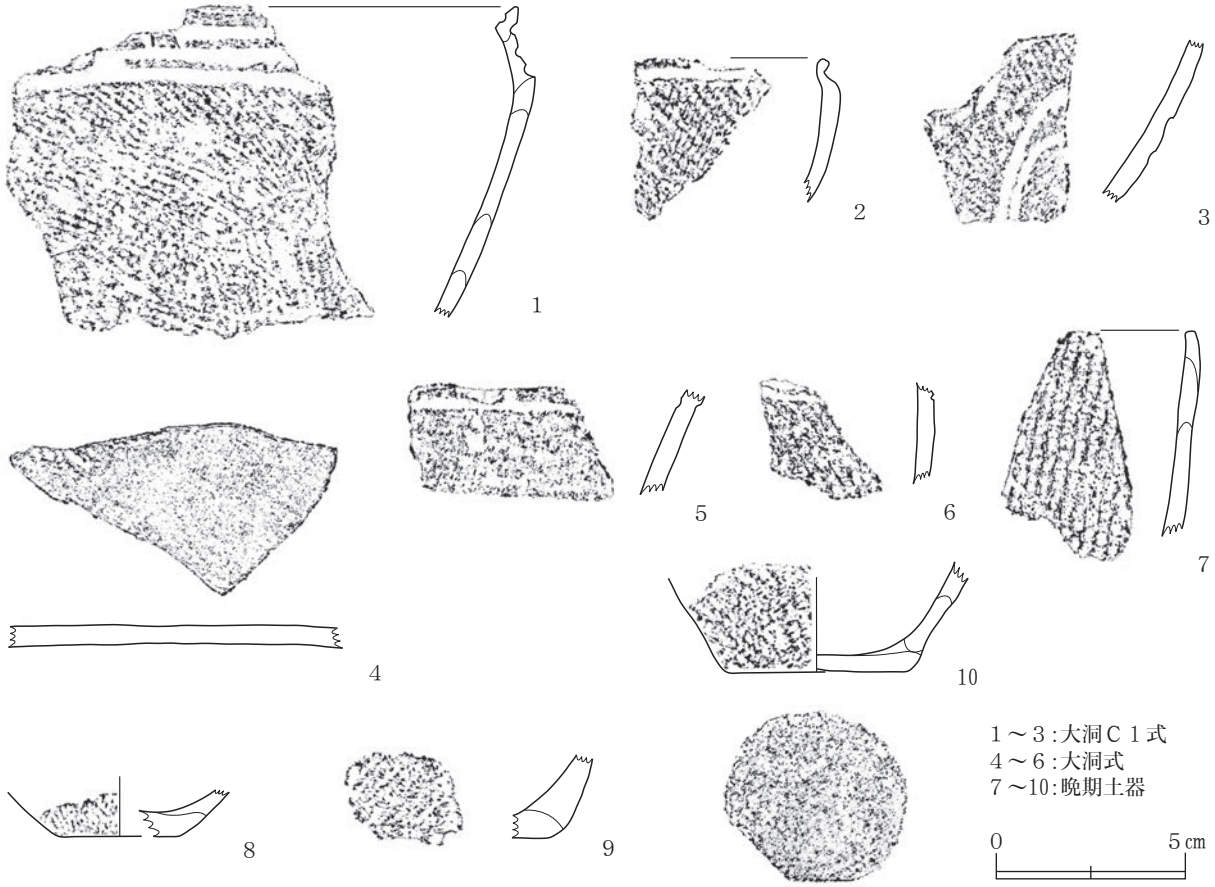
ＳＱ1024
1 (色)10YR4/1～10YR3/2 7.5YR4/1～7.5YR3/2 (構)亜角塊状φ5～7mm (性)SC～SCLと礫 (緻)+ 1層より+ (塑)+ (混)礫φ0.5m集中
2 (色)10YR4/1～10YR3/2 7.5YR4/1～7.5YR3/2 (構)亜角塊状φ5～7mm (性)SC～SCLと礫 (緻)+ 1層より+ (塑)+ (混)礫φ0.5m集中
3 (色)10YR4/1～10YR3/2 7.5YR4/1～7.5YR3/2 (構)亜角塊状φ5～7mm (性)SC～SCLと礫 (緻)+ 1層より+ (塑)+ (混)礫φ0.5m集中
4 (色)10YR4/1～10YR3/2 7.5YR4/1～7.5YR3/2 (構)亜角塊状φ5～7mm (性)SC～SCLと礫 (緻)+ 1層より+ (塑)+ (混)礫φ0.5m集中
5 (色)10YR4/1～10YR3/2 7.5YR4/1～7.5YR3/2 (構)亜角塊状φ5～7mm (性)SC～SCLと礫 (緻)+ 1層より+ (塑)+ (混)礫φ0.5m集中
6 (色)10YR4/1～10YR3/2 7.5YR4/1～7.5YR3/2 (構)亜角塊状φ5～7mm (性)SC～SCLと礫 (緻)+ 1層より+ (塑)+ (混)礫φ0.5m集中
7 (色)10YR4/1～10YR3/2 7.5YR4/1～7.5YR3/2 (構)亜角塊状φ5～7mm (性)SC～SCLと礫 (緻)+ 1層より+ (塑)+ (混)礫φ0.5m集中
8 (色)10YR1.7/1～10YR2/1 10YR2/2 (構)亜角塊状φ5～7mm (性)L～CL (緻)++ (塑)+ (混)炭化物φ1～5mm 礫φ10～200mm20%
(備)疑似グライ斑褐鉄鉱結核φ0.5～1mm+ 縄文晩期の遺物含む

0　1 m

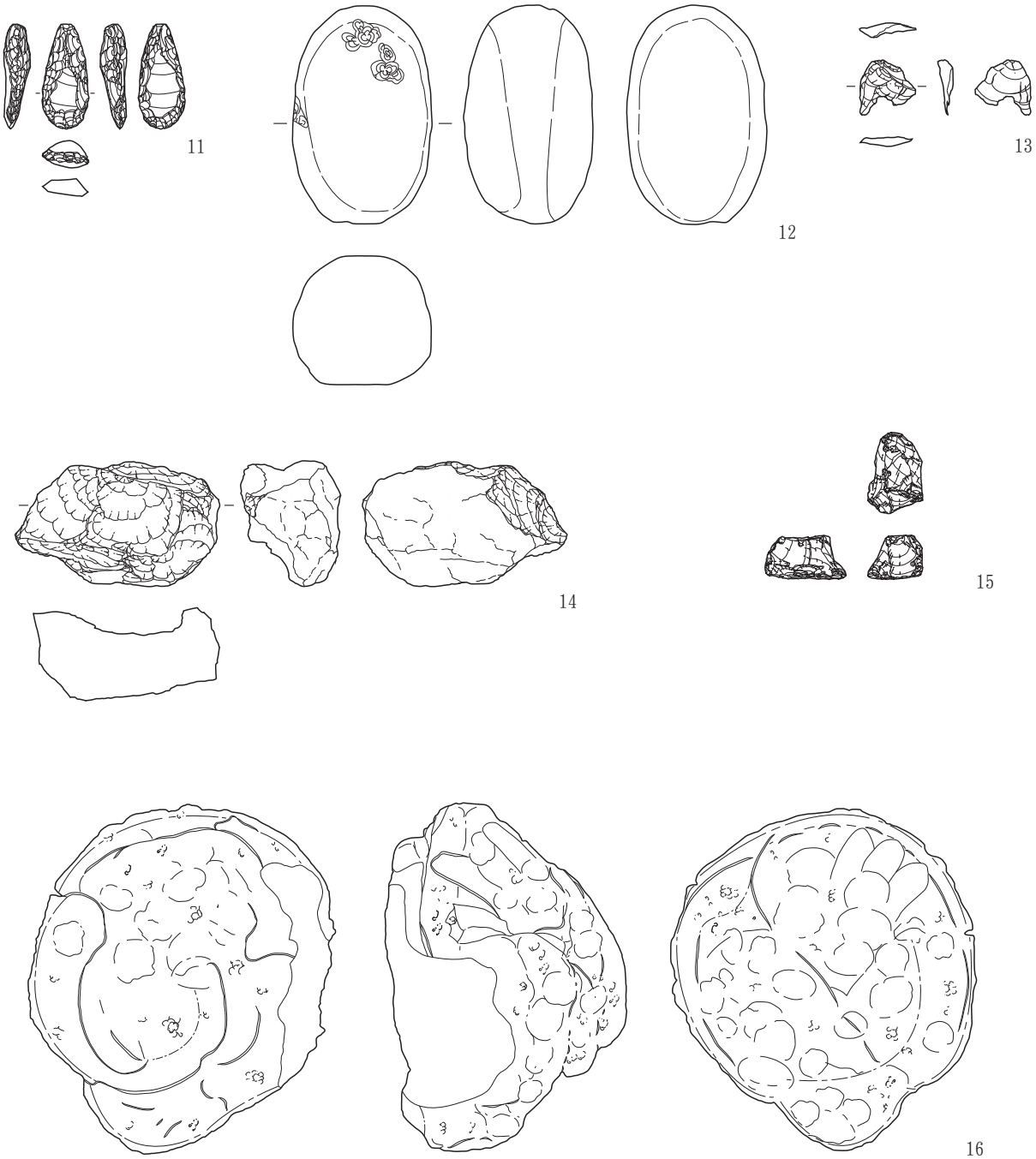
第79図　ＳＱ1024配石遺構



第80図　ＳＱ1024配石遺構レリーフ図



第81図　ＳＱ1024配石遺構出土土器

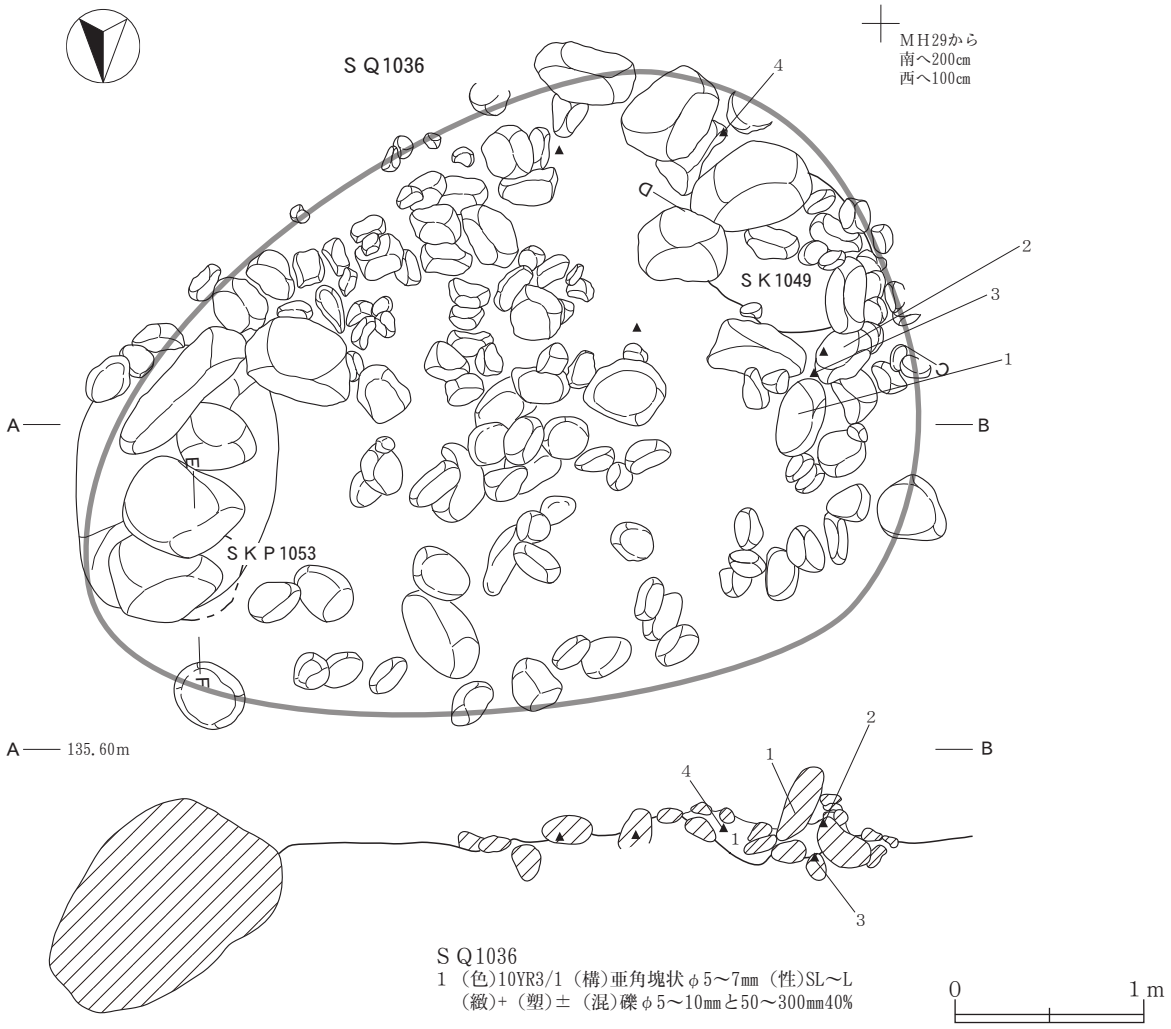


11:石篦
12:敲石
13:剥片
14･15:石核
16:アスファルト

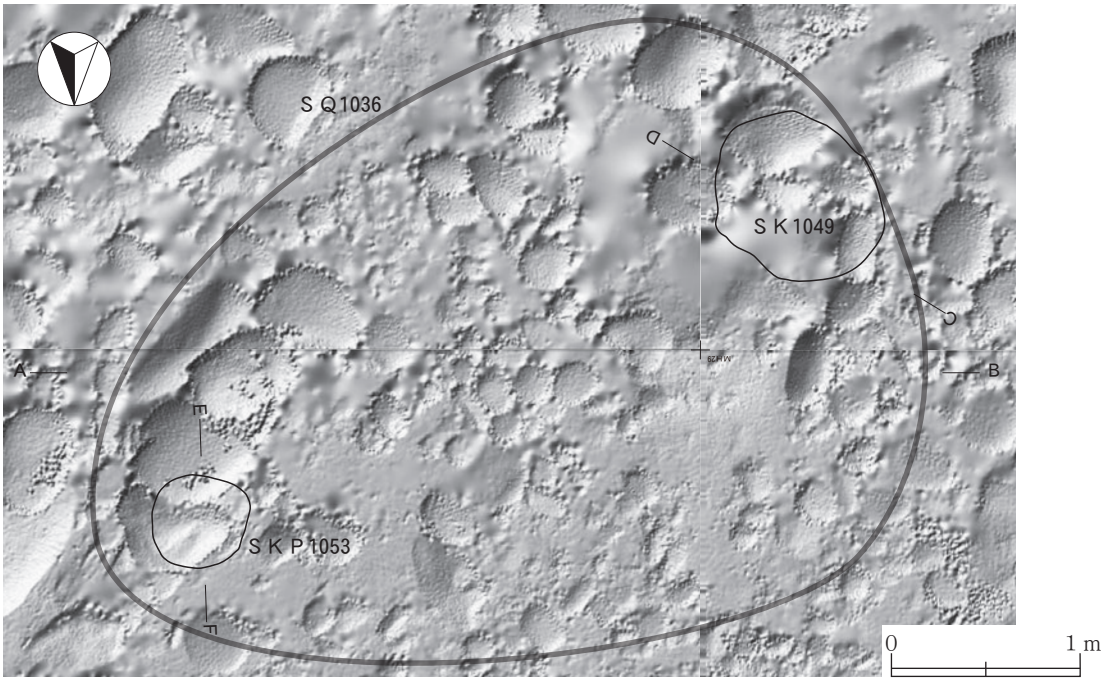
0　12　10cm

0　11･13～16　10cm

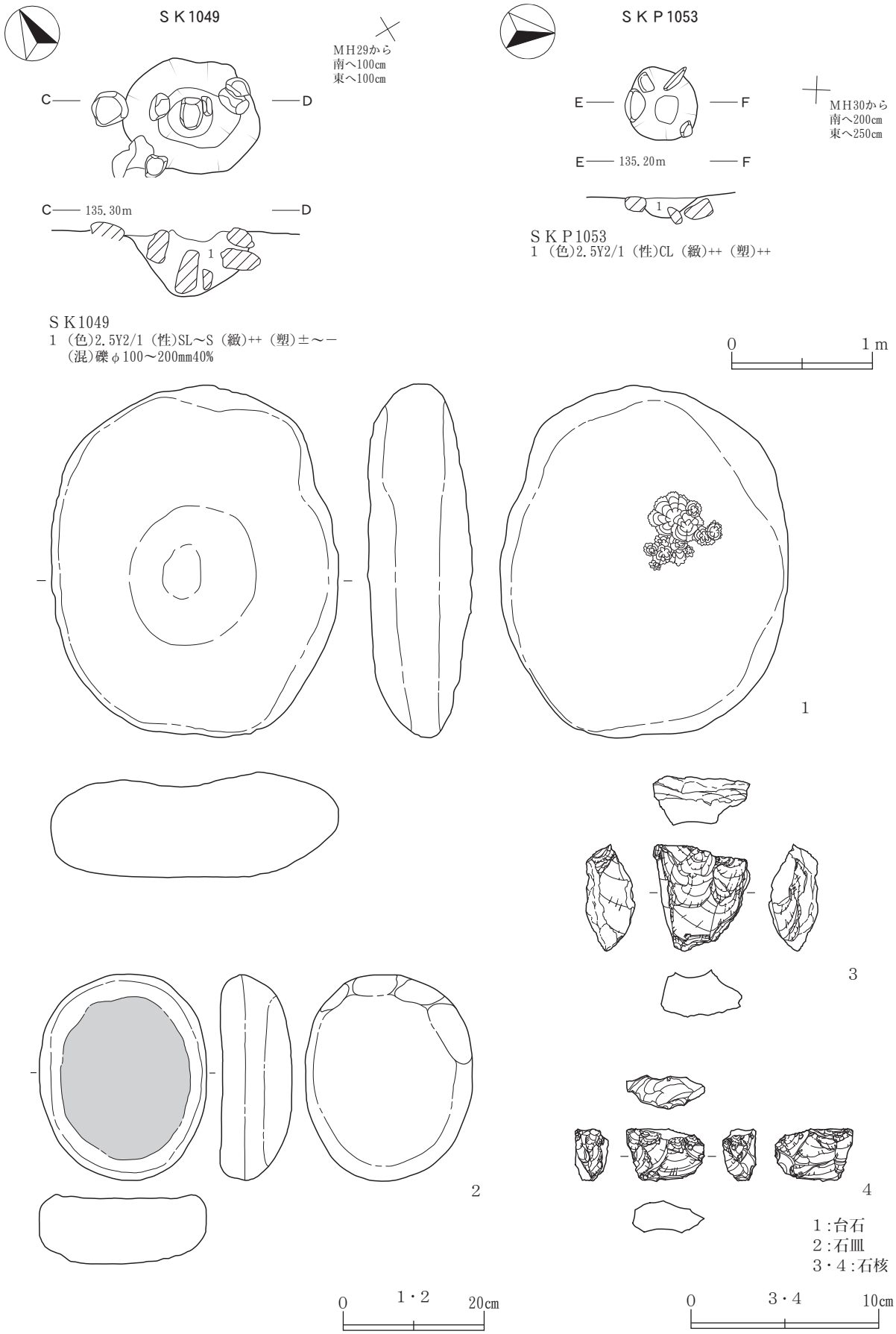
第82図　ＳＱ1024配石遺構出土石器



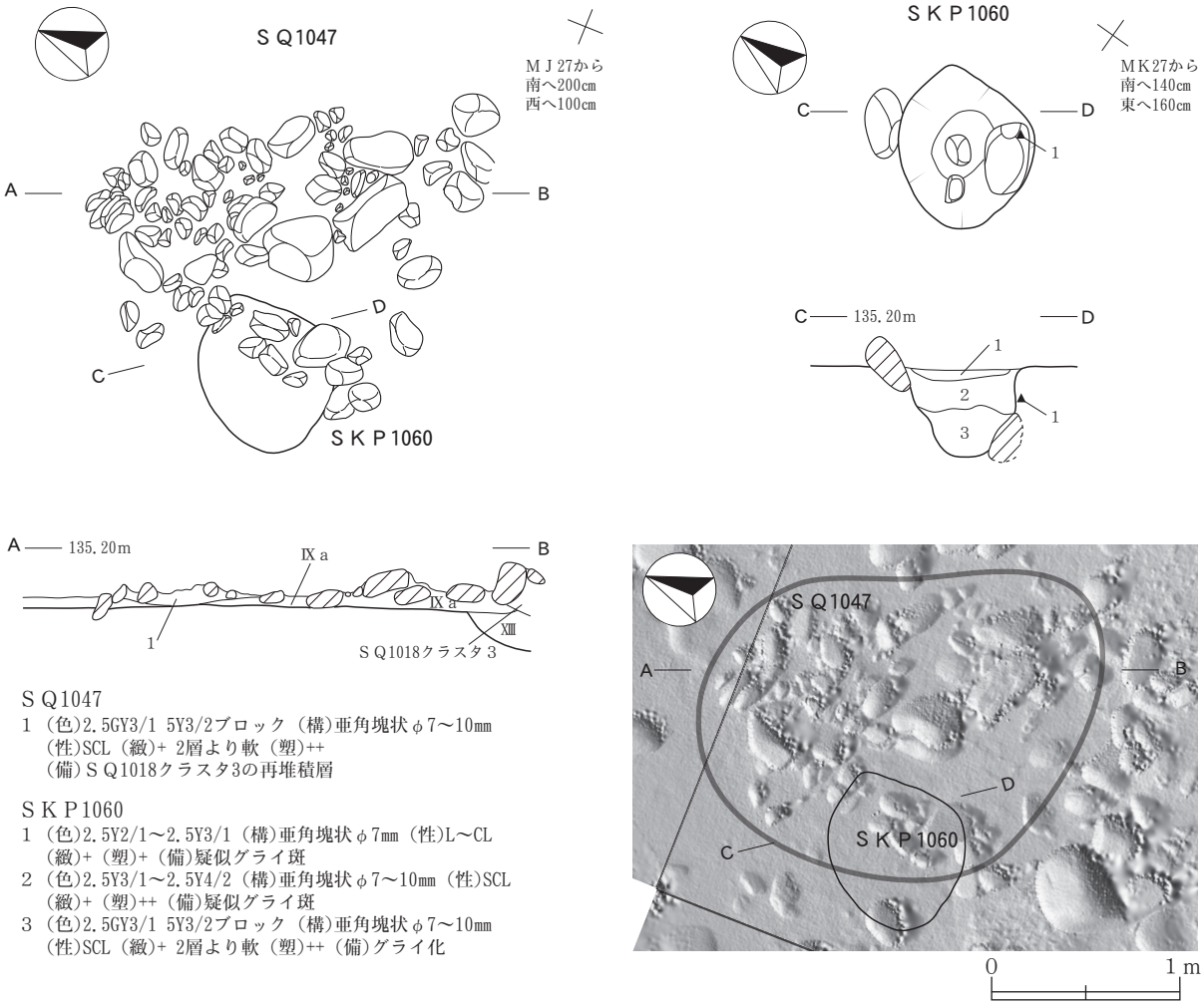
第83図　ＳＱ1036配石遺構



第84図　ＳＱ1036配石遺構・ＳＫ1049土坑・ＳＫＰ1053柱穴レリーフ図



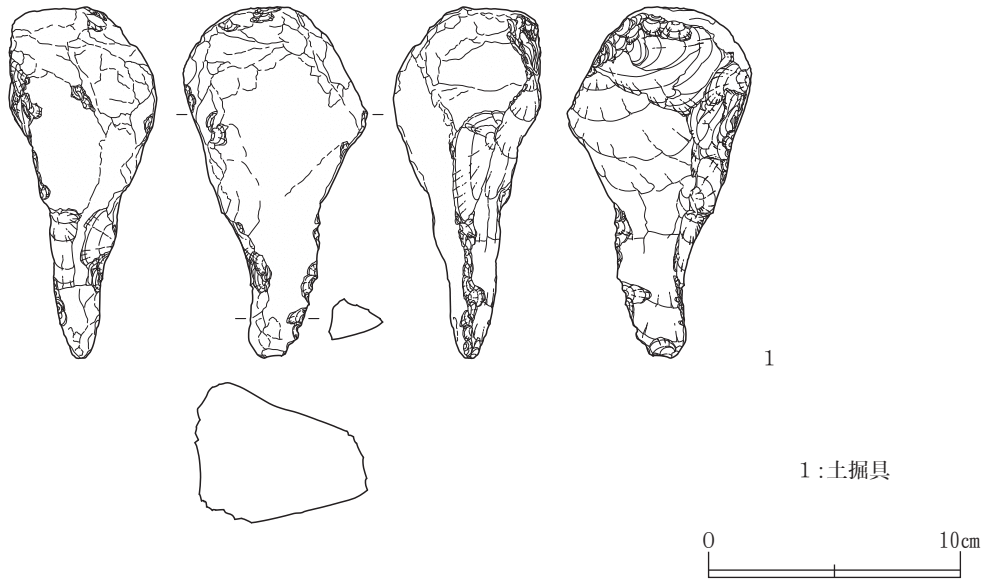
第85図　ＳＫ1049土坑・ＳＫＰ1053柱穴、ＳＱ1036配石遺構出土石器



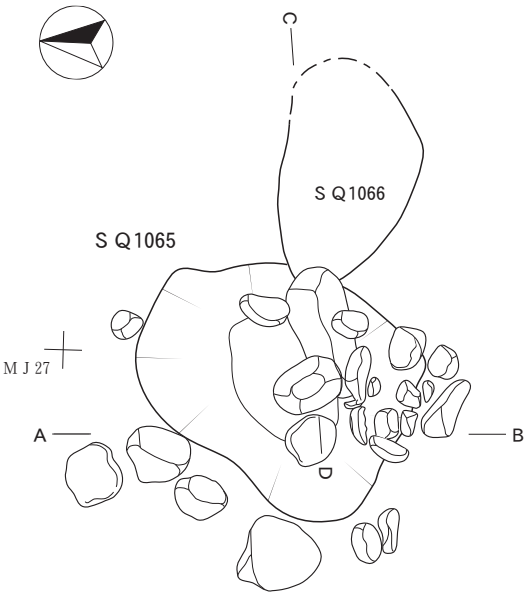
ＳＱ1047
1（色)2.5GY3/1 5Y3/2ブロック（構)亜角塊状φ7～10㎜
（性)SCL（緻)+ 2層より軟（塑)++
（備)ＳＱ1018クラスタ3の再堆積層

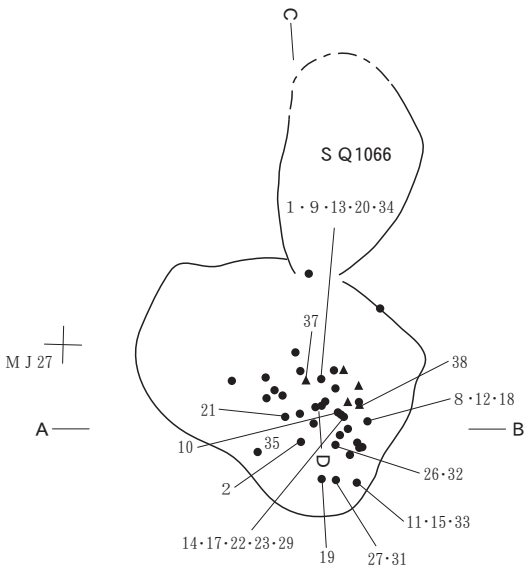
ＳＫＰ1060
1（色)2.5Y2/1～2.5Y3/1（構)亜角塊状φ7㎜（性)L～CL
（緻)+（塑)+（備)疑似グライ斑
2（色)2.5Y3/1～2.5Y4/2（構)亜角塊状φ7～10㎜（性)SCL
（緻)+（塑)++（備)疑似グライ斑
3（色)2.5GY3/1 5Y3/2ブロック（構)亜角塊状φ7～10㎜
（性)SCL（緻)+ 2層より軟（塑)++（備)グライ化

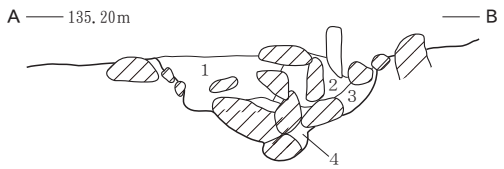
第86図　ＳＱ1047配石遺構・ＳＫＰ1060柱穴、レリーフ図

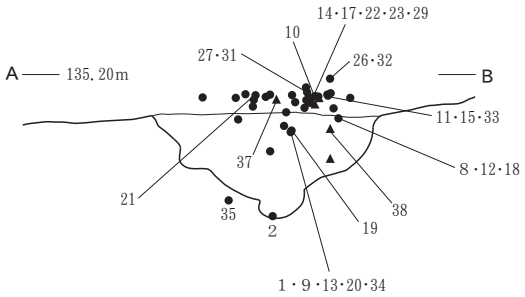


第87図　ＳＫＰ1060柱穴出土石器



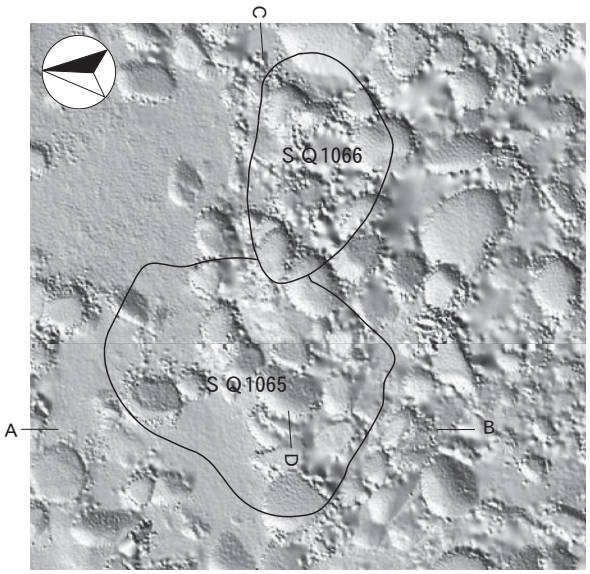


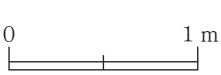




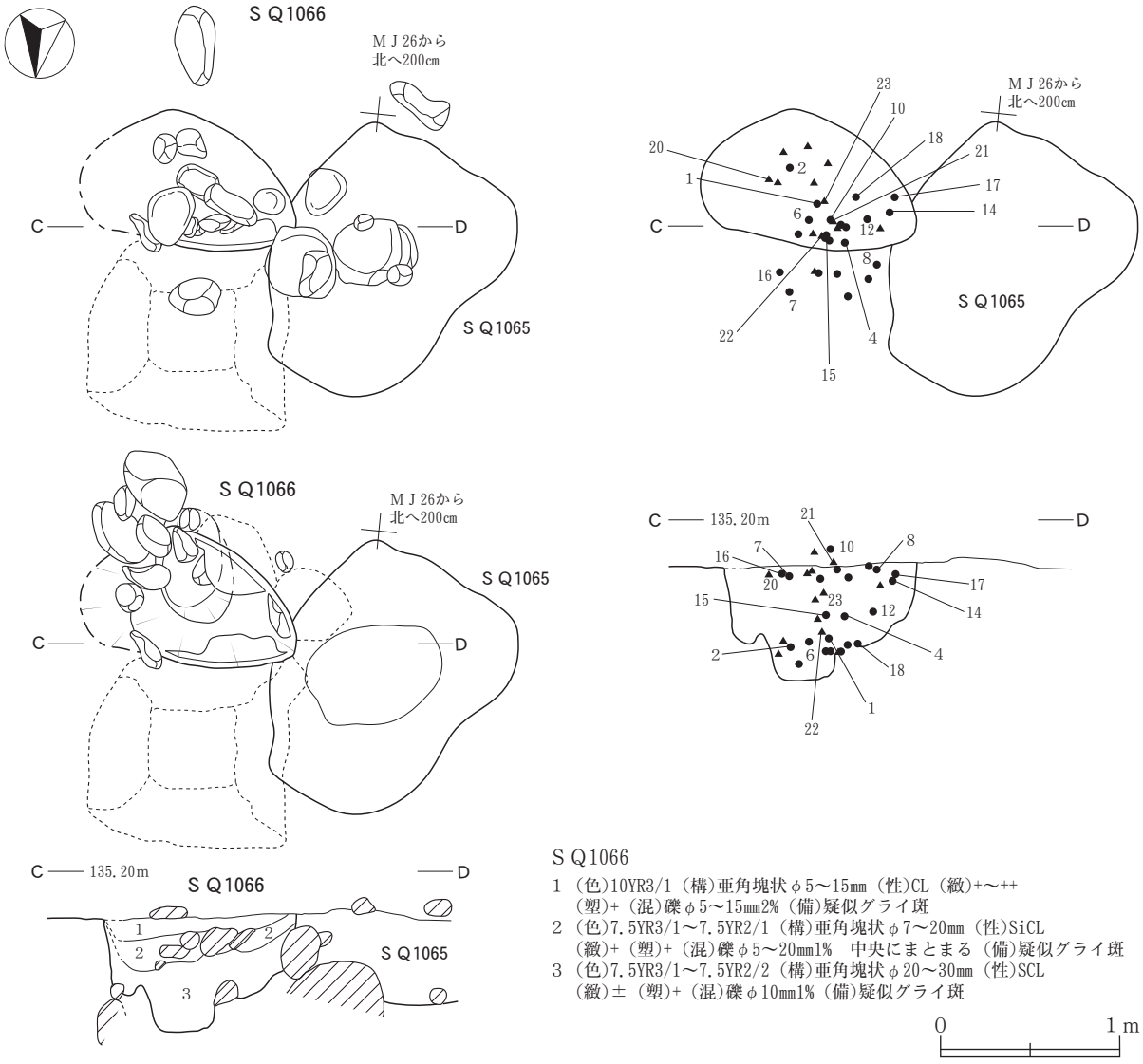
S Q1065

1 (色)7.5YR3/1～7.5YR2/2 (構)亜角塊状φ10～15mm (性)L～SiL
(緻)± (塑)++ (混)礫φ20～40mm1% 礫φ5～10mm7% (備)疑似グライ斑
2 (色)10YR2/3 (構)亜角塊状φ30～50mm (性)CL (緻)±
(塑)++～+++ (混)礫φ10～20mm2% (備)疑似グライ斑
3 (色)2.5Y3/2 (構)亜角塊状φ15～20mm (性)SCL (緻)± 軟質
(塑)+～++ (混)礫φ3～7mm5% 礫φ150～300mm70% (備)疑似グライ斑
4 (色)5YR3/1～5YR2/2 (構)亜角塊状φ7～10mm (性)SCL(S+)
(緻)±～－ 3層より軟 (塑)++ (混)礫φ150～300mm70% (備)グライ化

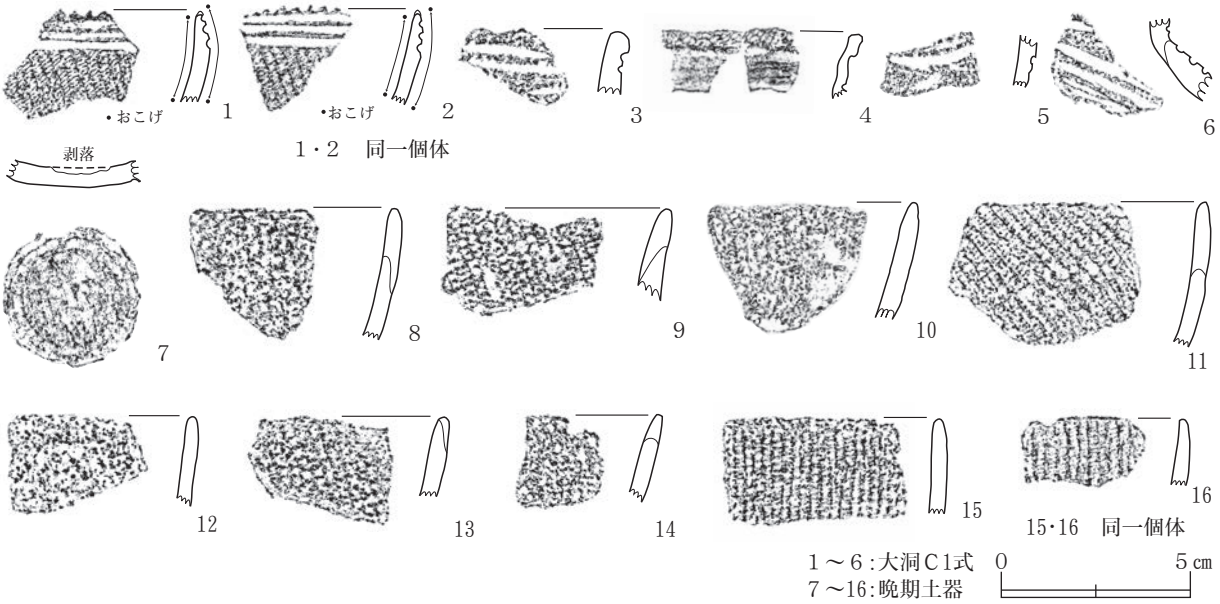




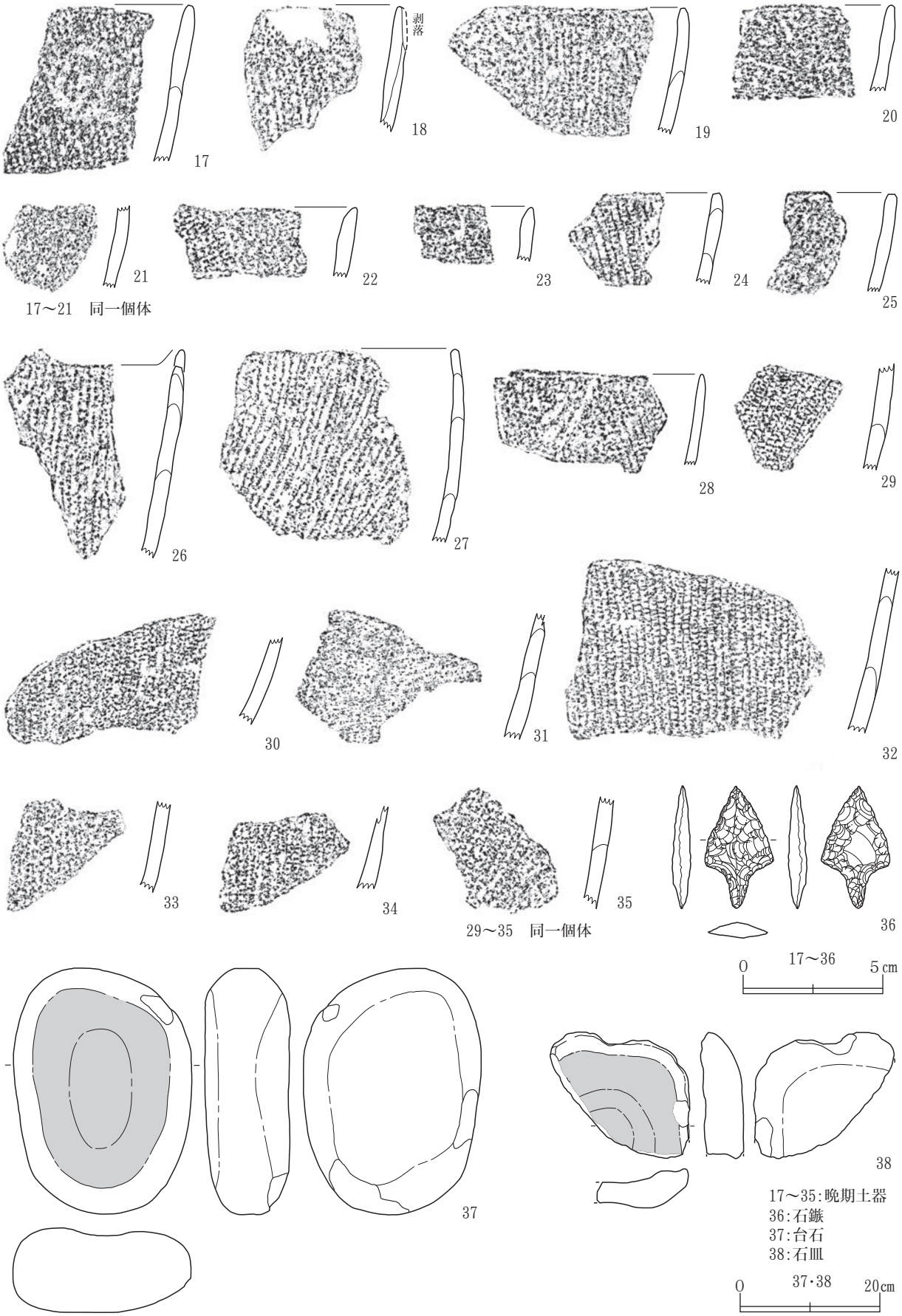
第88図　ＳＱ1065配石遺構、遺物分布図、ＳＱ1065・1066配石遺構レリーフ図



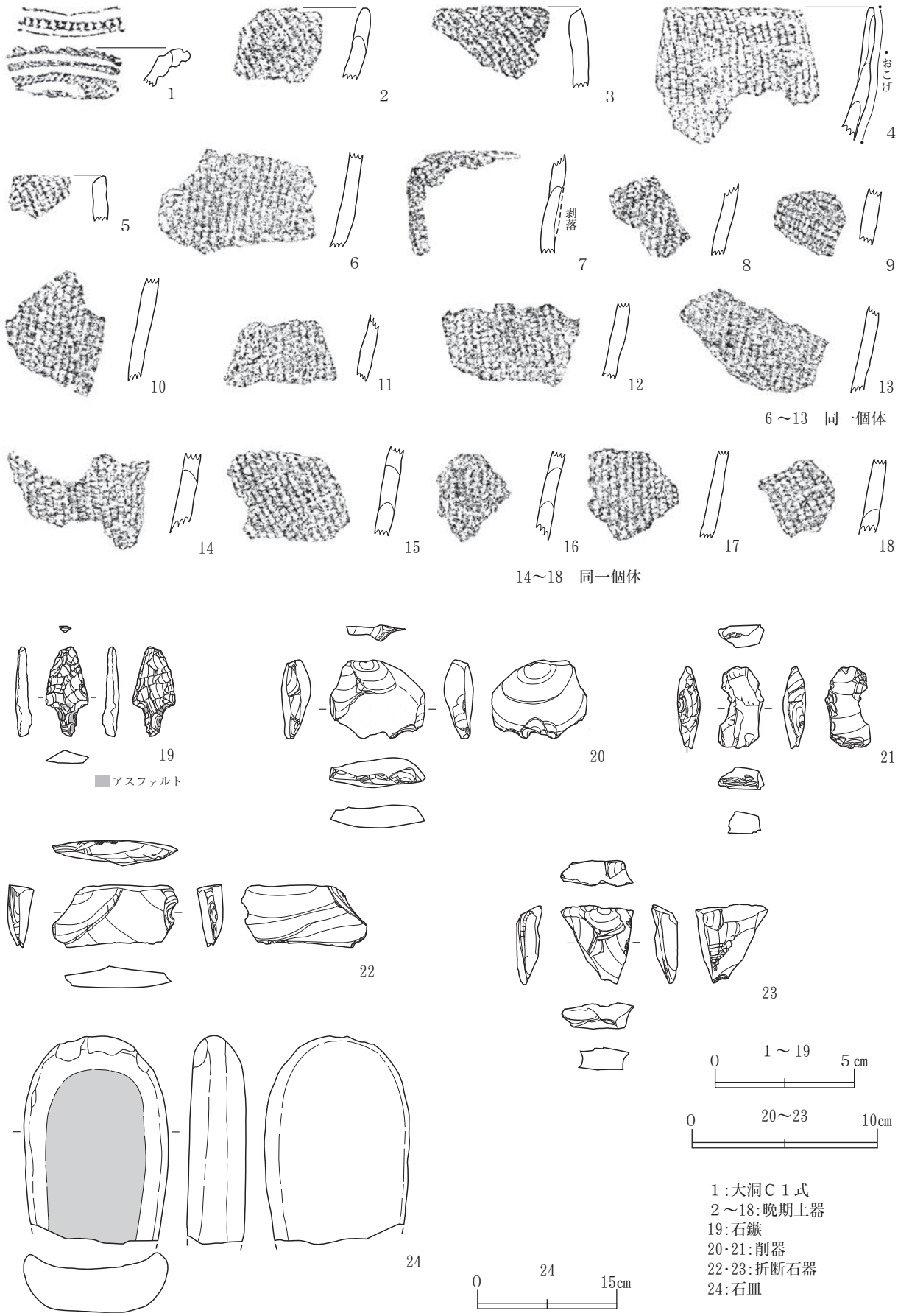
第89図　ＳＱ1066配石遺構、遺物分布図



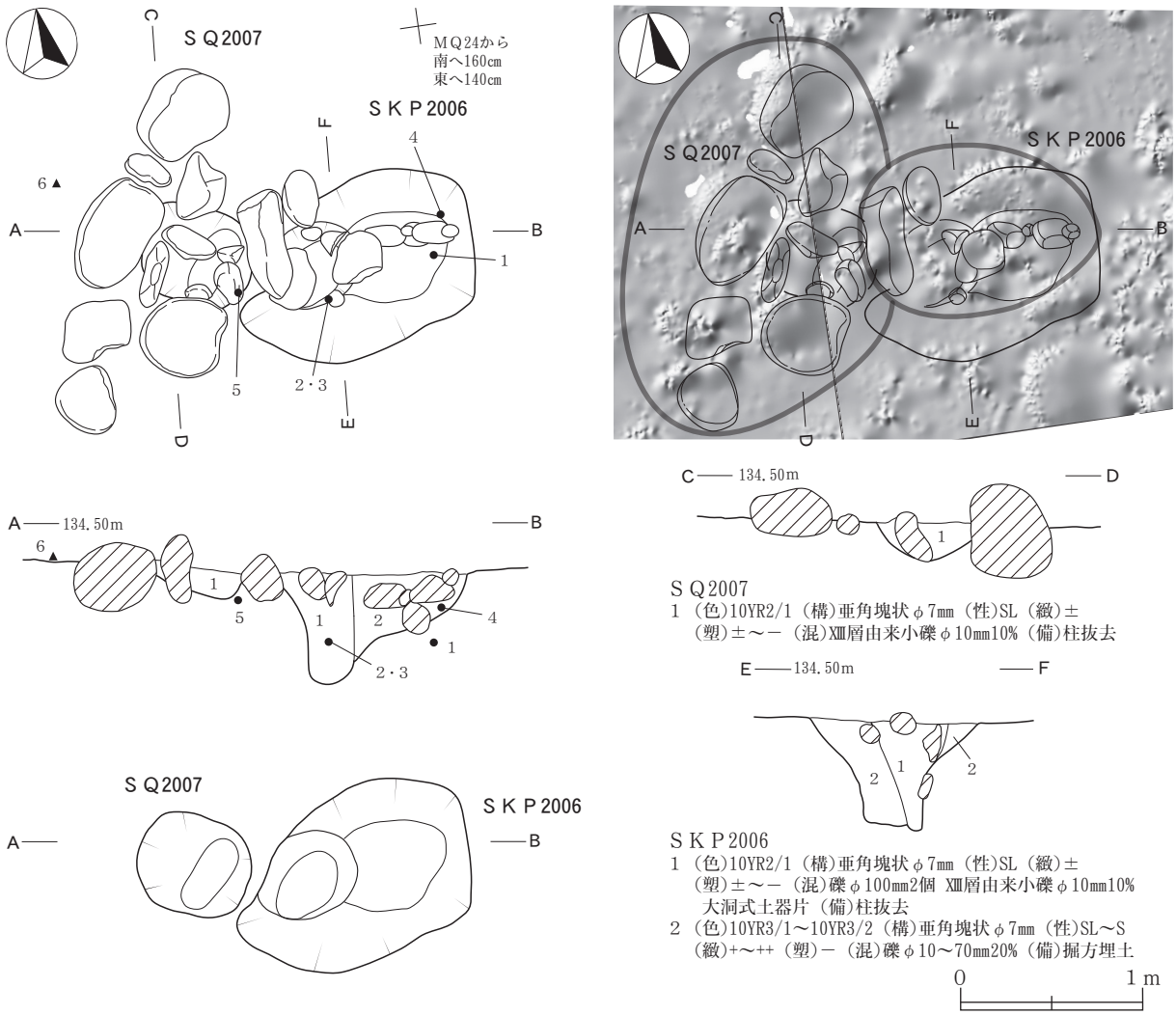
第90図　ＳＱ1065配石遺構出土土器



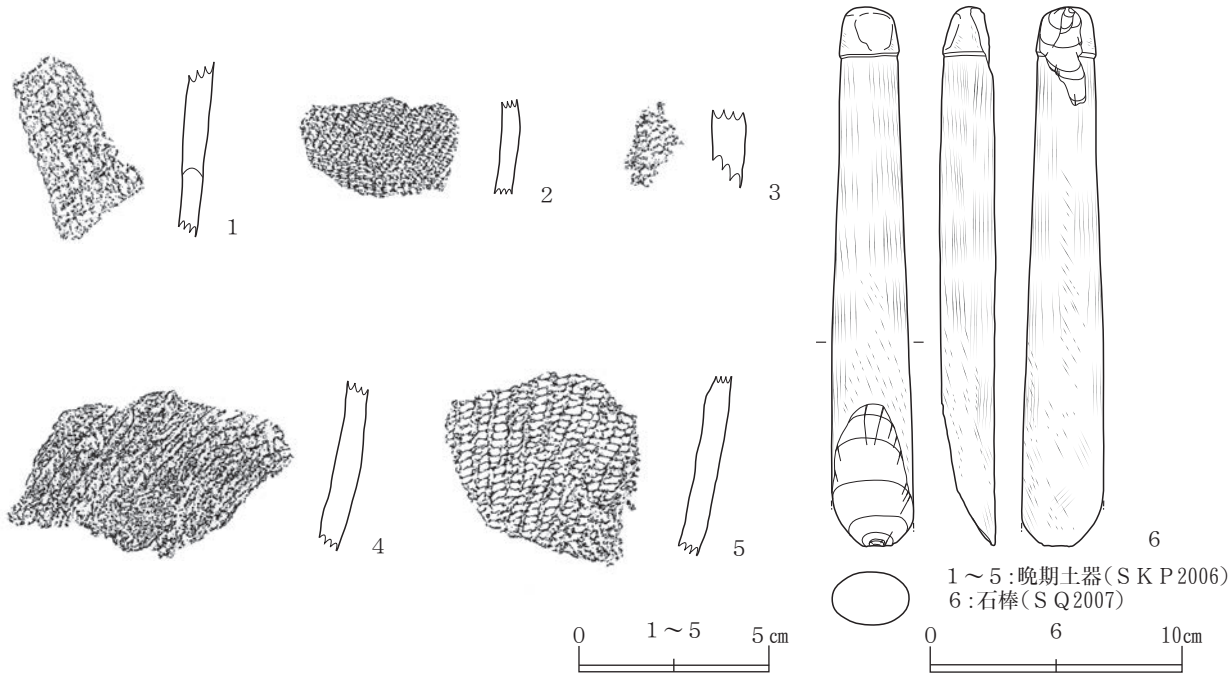
第91図　ＳＱ1065配石遺構出土土器・石器



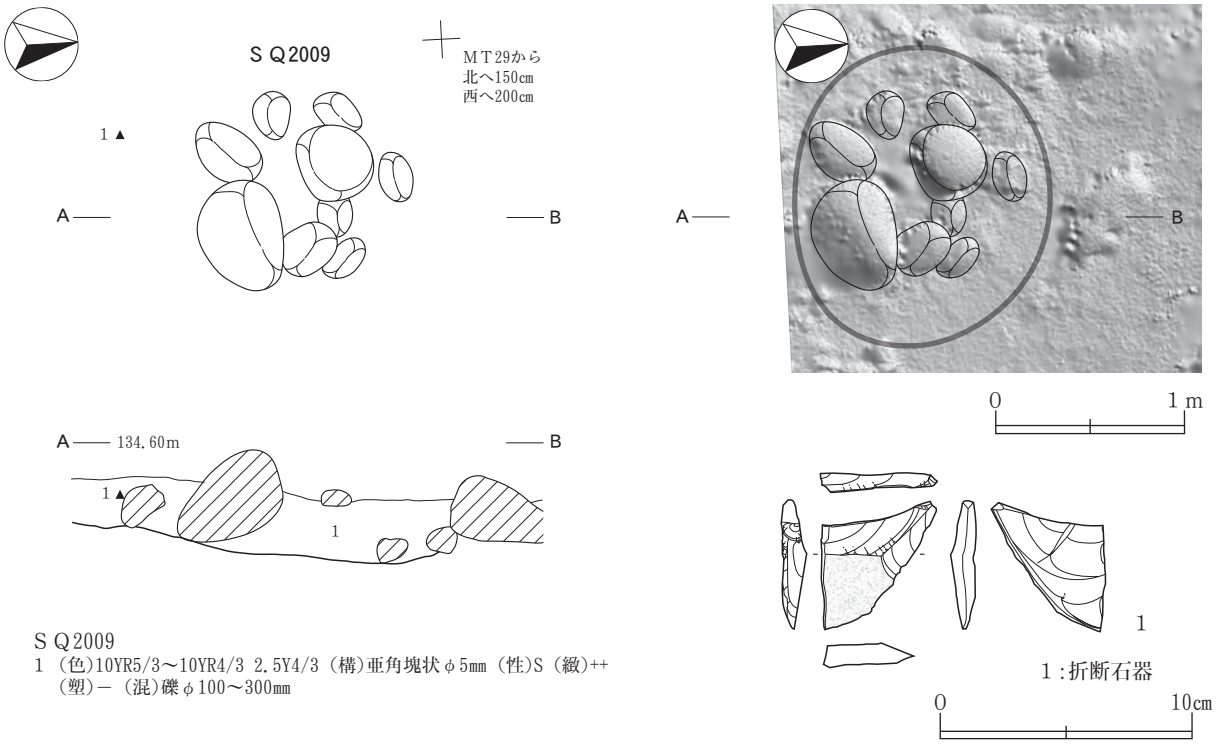
第92図　ＳＱ1066配石遺構出土土器・石器



第93図　ＳＱ2007配石遺構・ＳＫＰ2006柱穴、レリーフ図

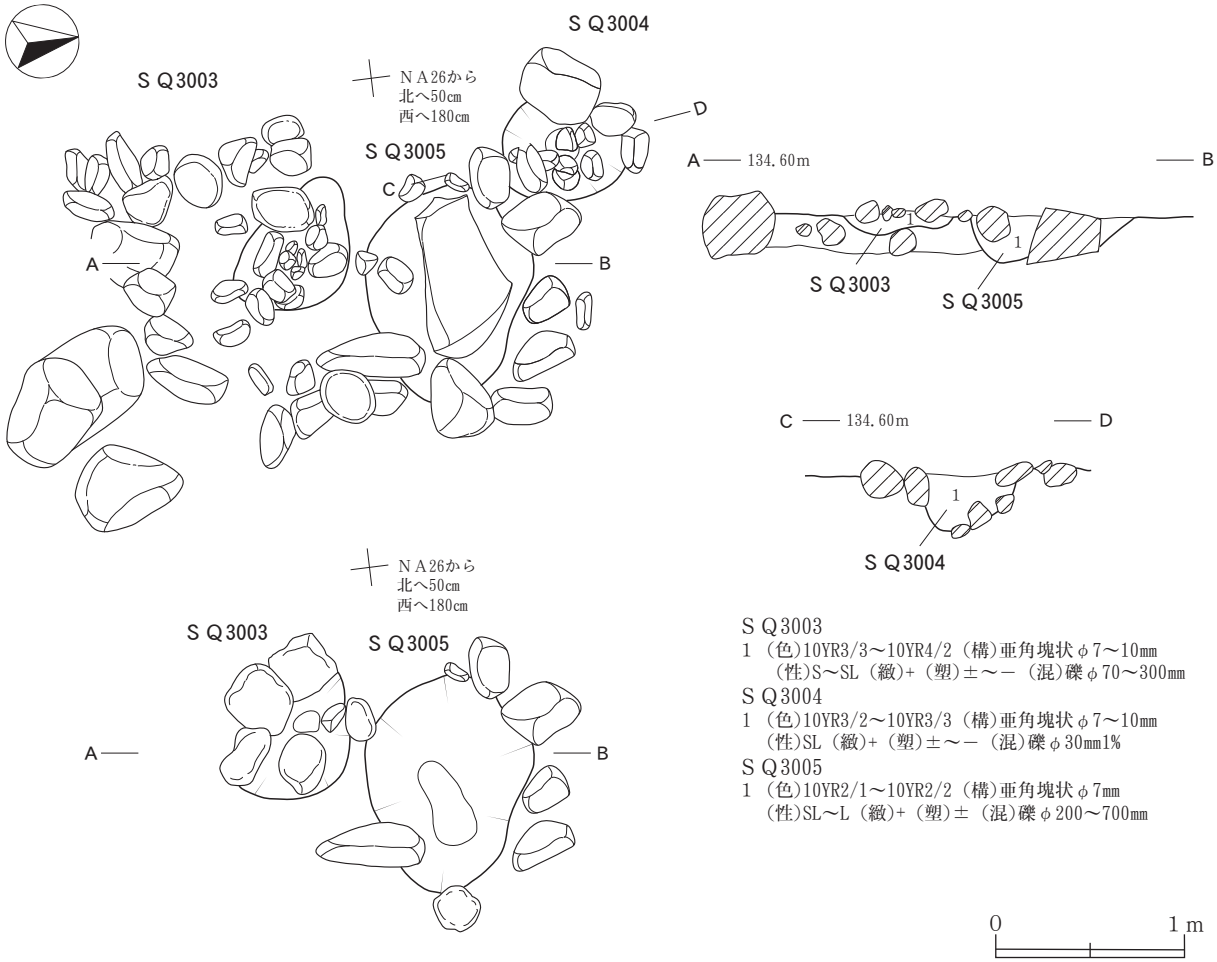


第94図　ＳＱ2007配石遺構・ＳＫＰ2006柱穴出土土器・石器



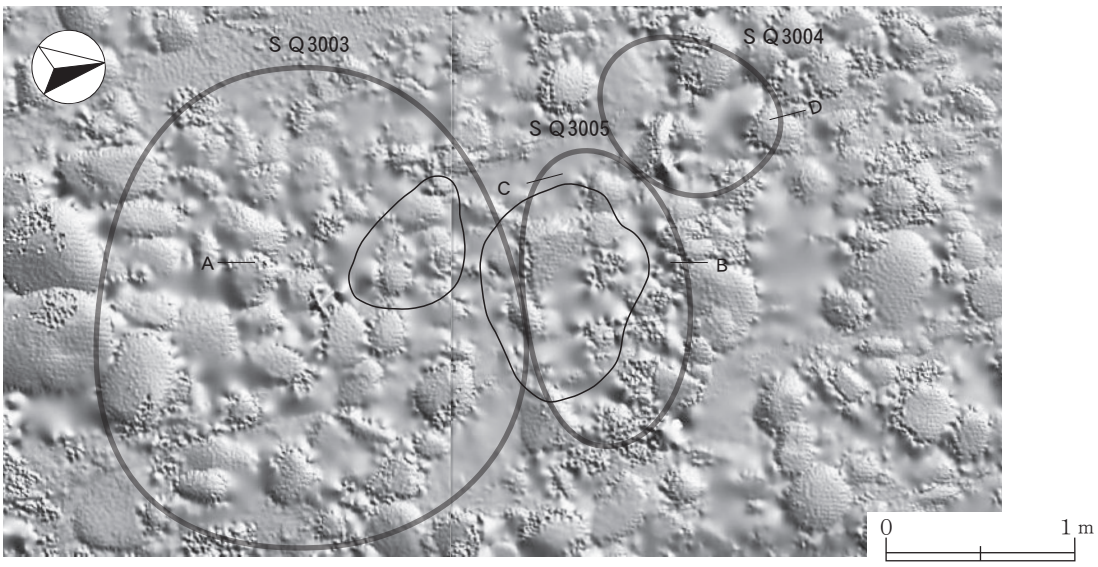
ＳＱ2009
1（色)10YR5/3～10YR4/3 2.5Y4/3（構)亜角塊状φ5㎜（性)S（緻)++
（塑)－（混)礫φ100～300㎜

第95図　ＳＱ2009配石遺構、レリーフ図、出土石器

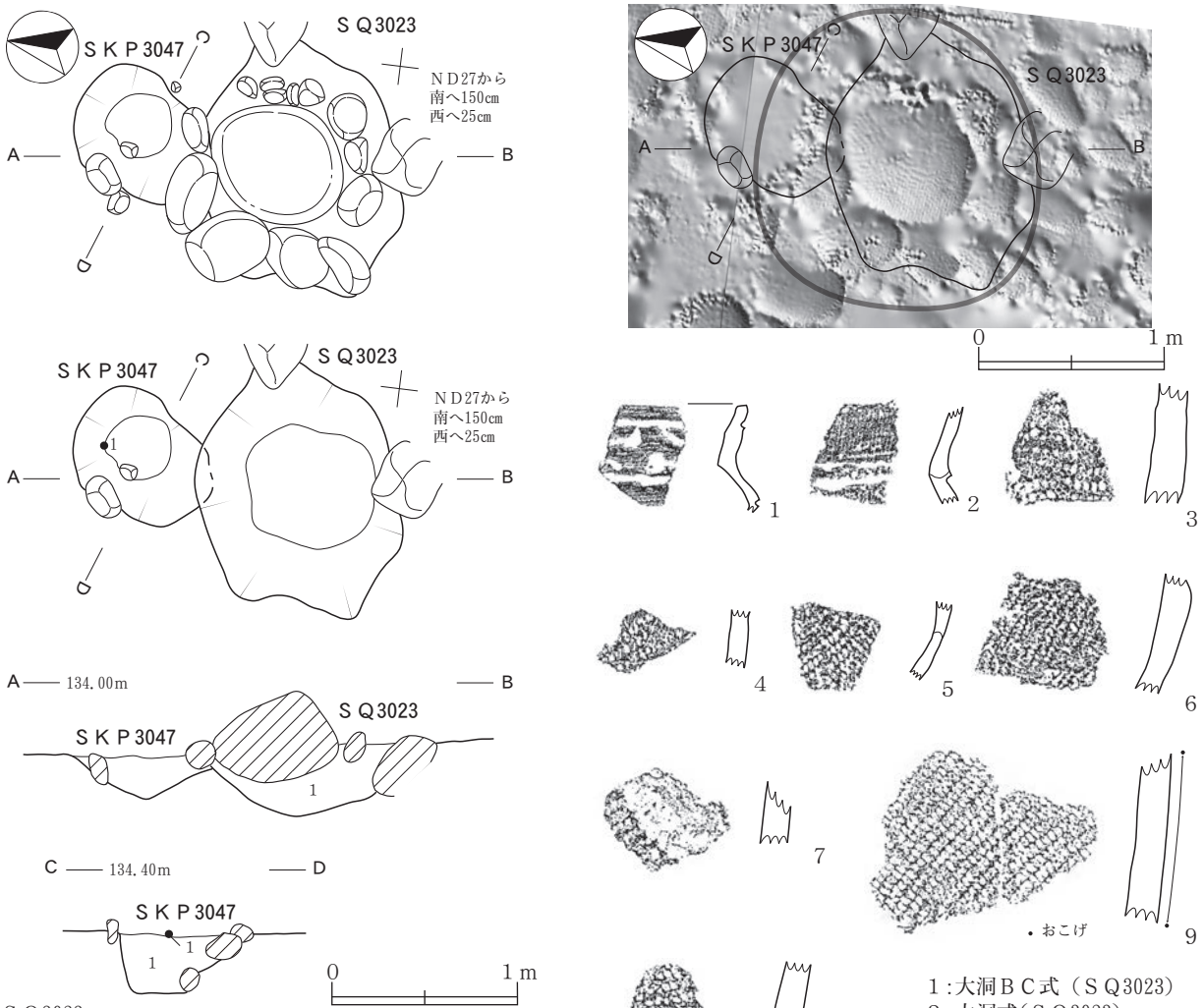


ＳＱ3003
1（色)10YR3/3～10YR4/2（構)亜角塊状φ7～10㎜
（性)S～SL（緻)+（塑)±～－（混)礫φ70～300㎜
ＳＱ3004
1（色)10YR3/2～10YR3/3（構)亜角塊状φ7～10㎜
（性)SL（緻)+（塑)±～－（混)礫φ30㎜1%
ＳＱ3005
1（色)10YR2/1～10YR2/2（構)亜角塊状φ7㎜
（性)SL～L（緻)+（塑)±（混)礫φ200～700㎜

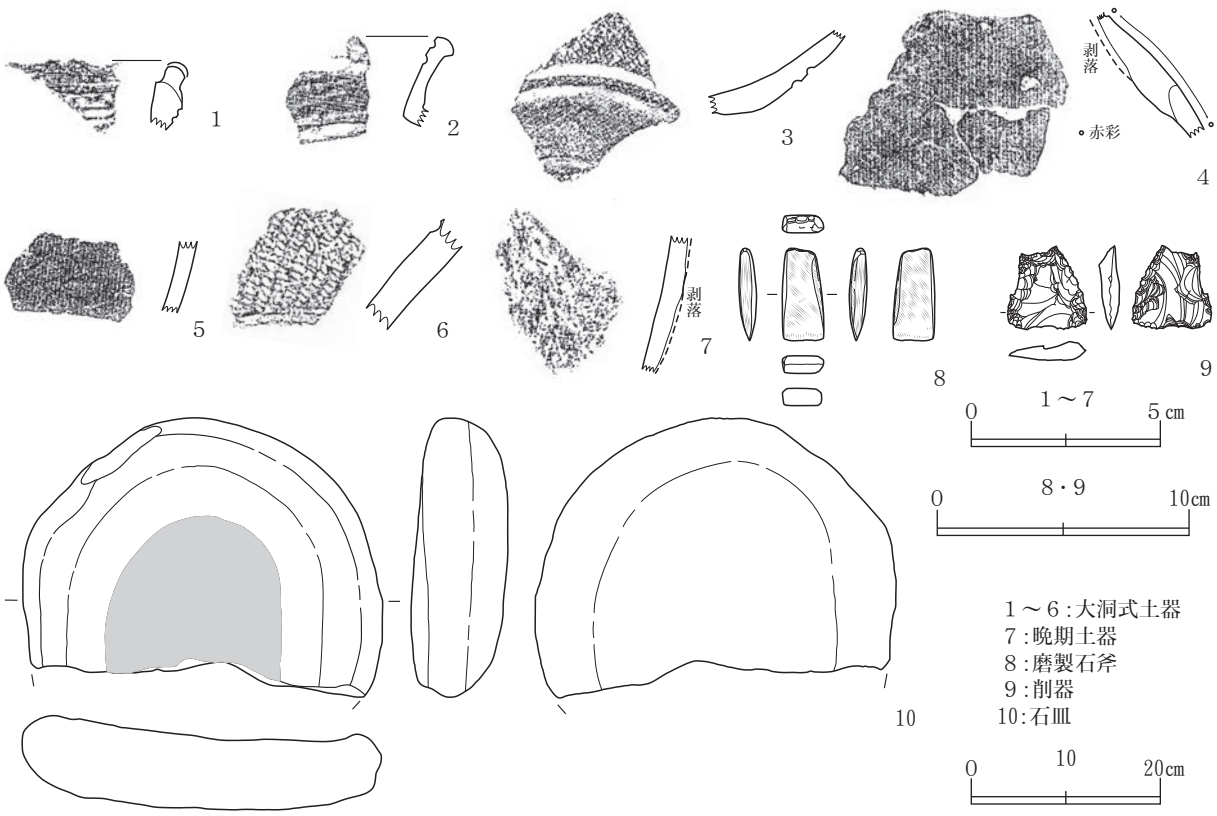
第96図　ＳＱ3003・3004・3005配石遺構



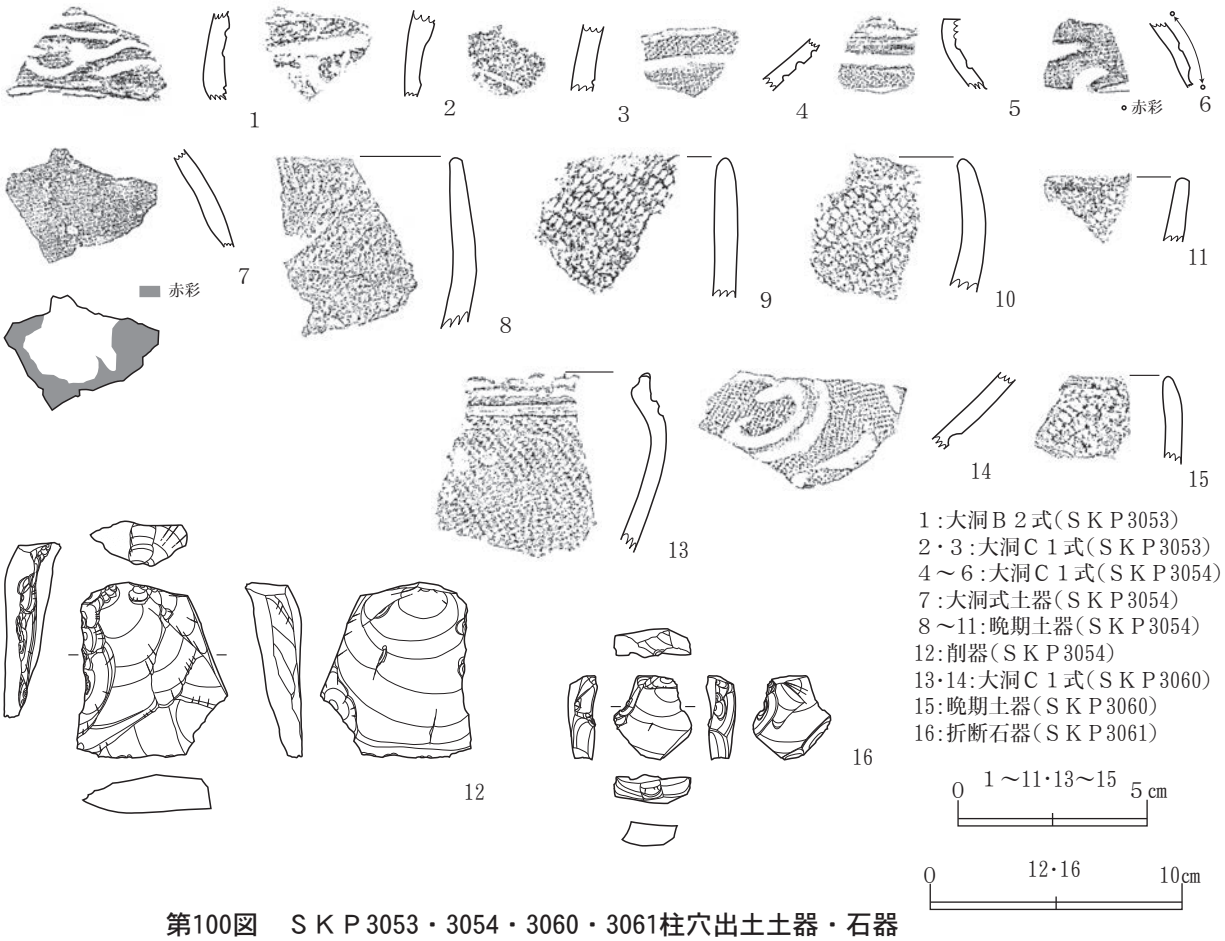
第97図　ＳＱ3003・3004・3005配石遺構レリーフ図



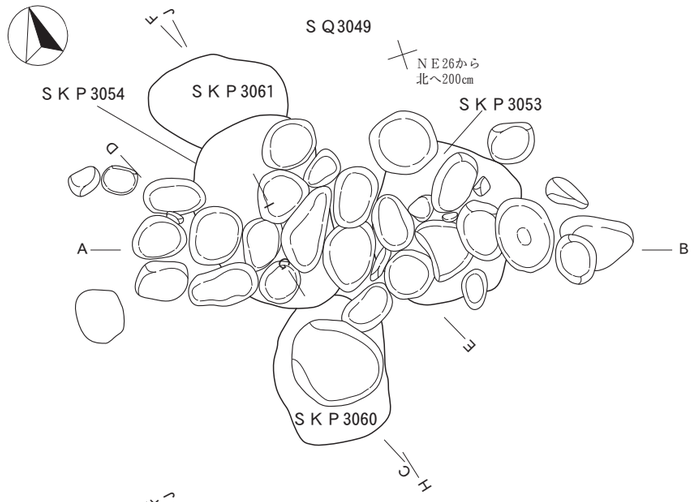
第98図　ＳＱ3023配石遺構・ＳＫＰ3047柱穴、レリーフ図、出土土器

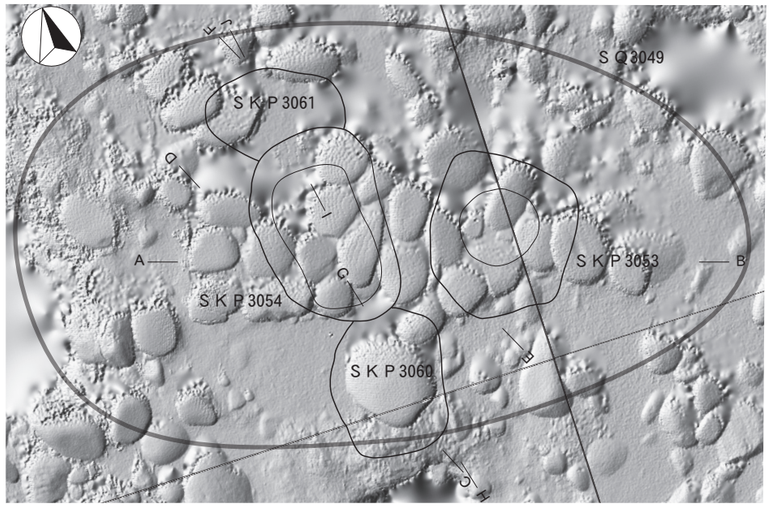


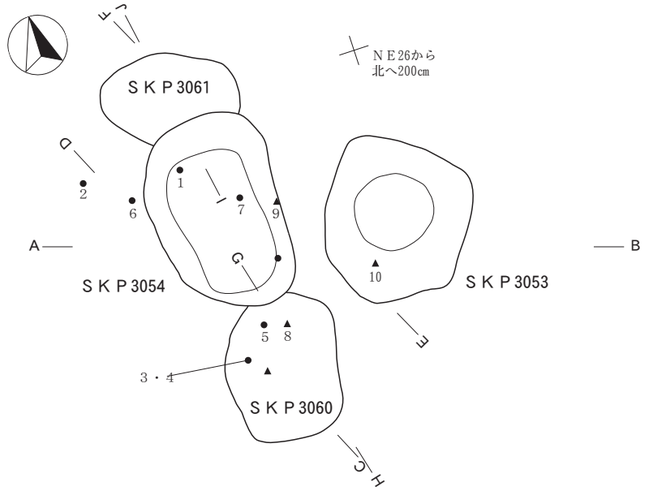
第99図　ＳＱ3049配石遺構出土土器・石器

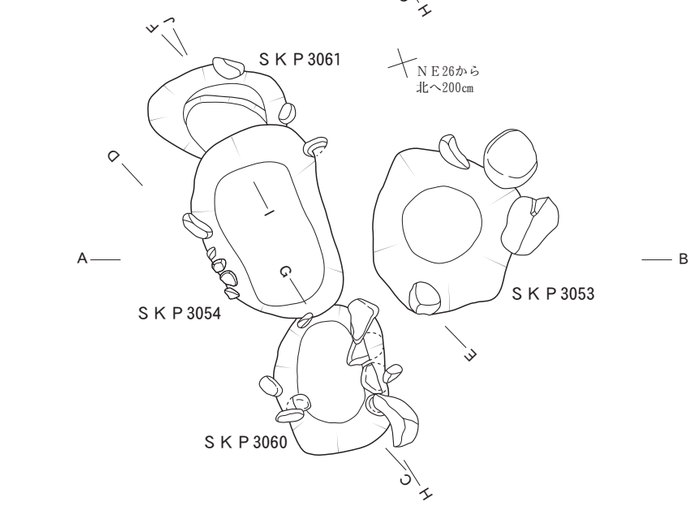


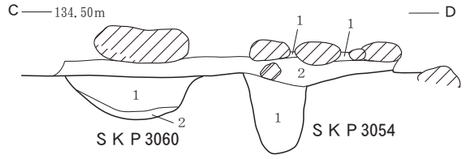
第100図　ＳＫＰ3053・3054・3060・3061柱穴出土土器・石器

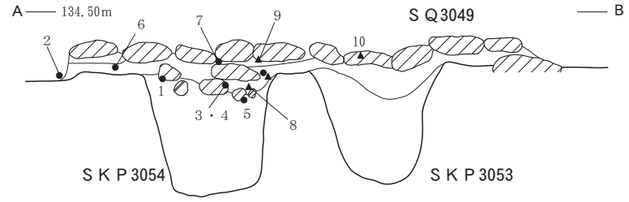


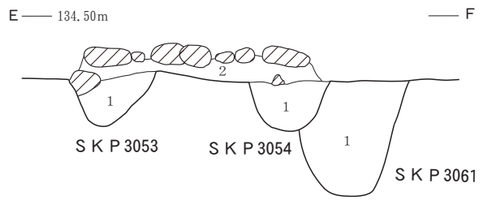


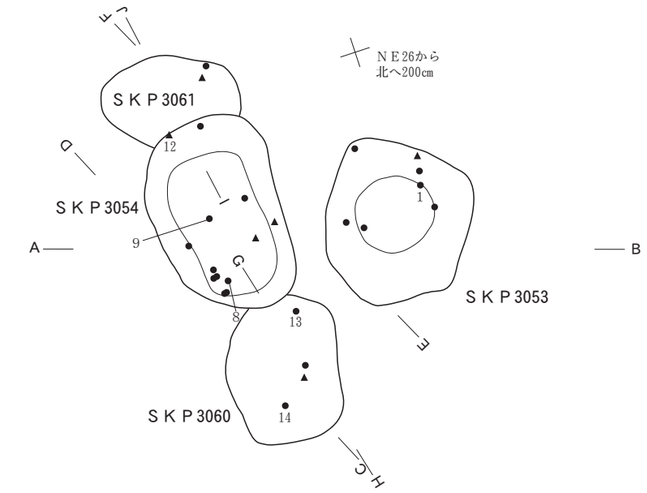


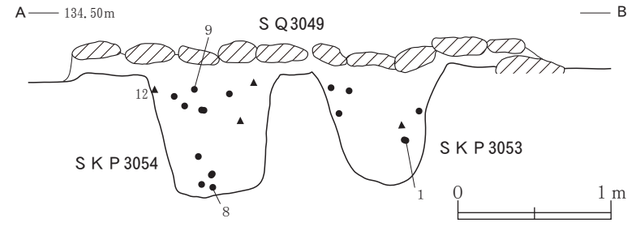




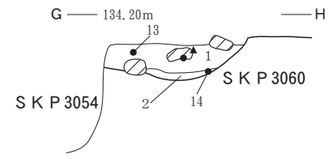


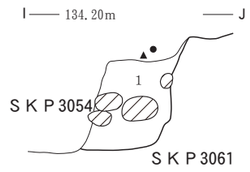






13・14はＧＨ断面にあり





ＳＱ3049
1 （色)10YR4/3（性)L（緻)+（塑)粘性±～－（混)Ⅻa層ブロックφ3～10mm30% 礫φ10～30mm3%（備)配石のための盛土
2 （色)10YR3/3（性)SiL(S+)（緻)+（塑)粘性±～－（混)Ⅻa層ブロックφ3～10mm1% 礫φ10～100mm5%

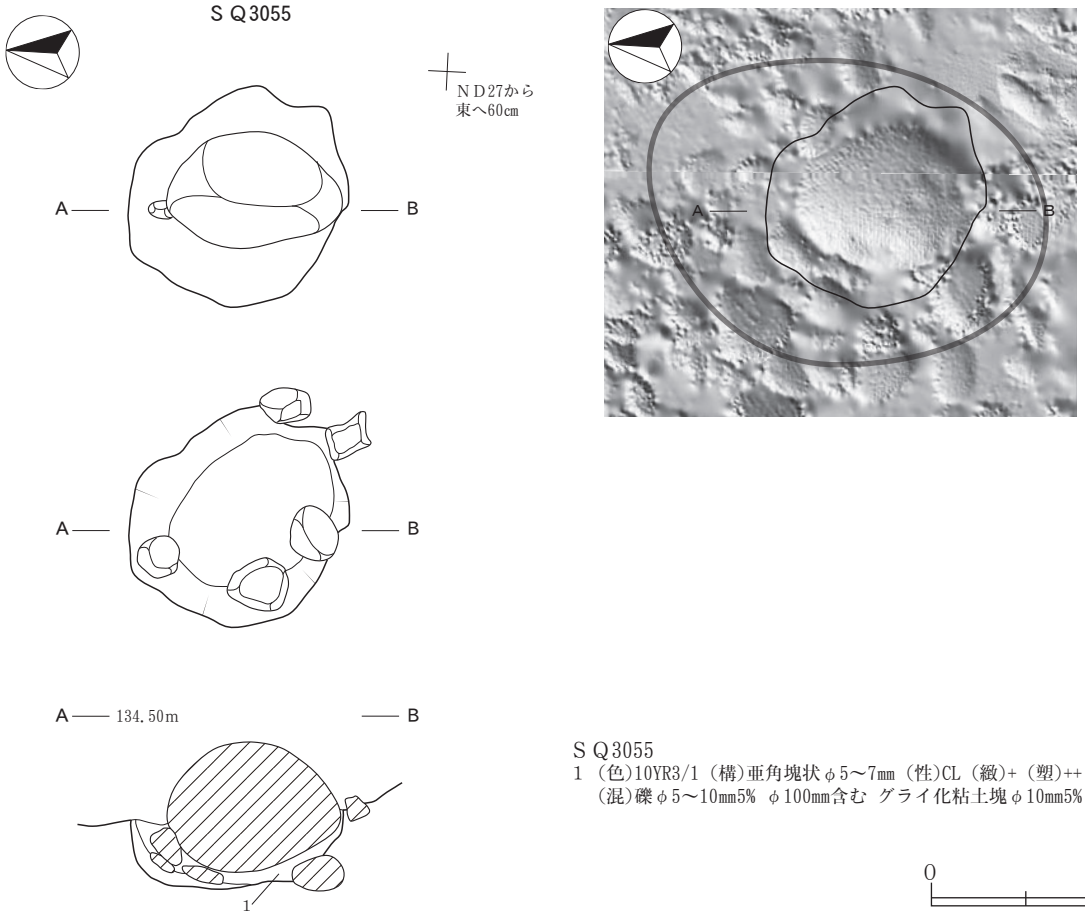
ＳＫＰ3053
1 （色)2.5Y3/3（性)SiL(S+)（緻)+（塑)粘性±～－（混)地山粒φ1～10mm3% 炭化物φ3～5mm1% 礫φ50～150mm3%（備)柱抜去
2 （色)2.5Y4/3（性)SiL(S+)（緻)+（塑)粘性±～－（混)地山粒φ1～10mm5% 炭化物φ3～5mm1% 礫φ50～150mm3%
3 （色)2.5Y3/2（性)SiL(S+)（緻)+（塑)粘性±～－（混)地山粒φ1～5mm1% 炭化物φ1～3mm1%

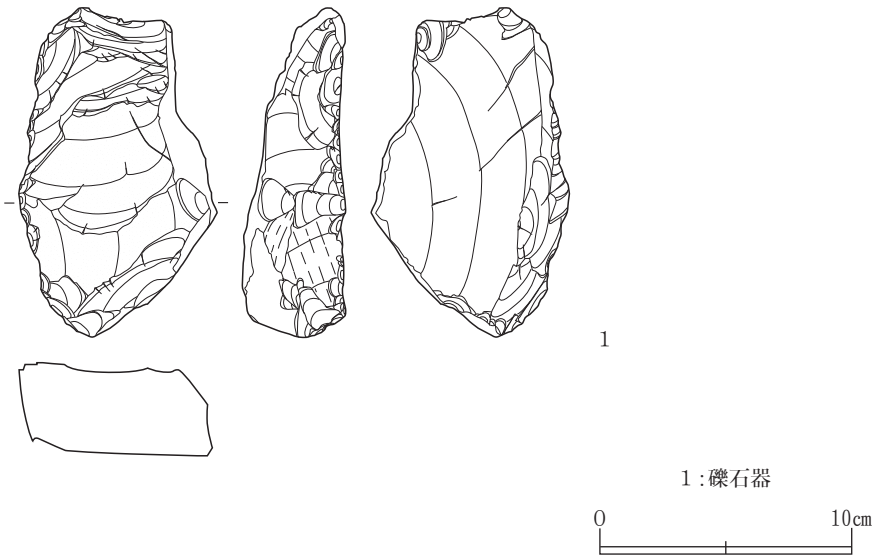
ＳＫＰ3054
1 （色)2.5Y3/2（性)SiL(S+)（緻)++（塑)粘性±～－（混)Ⅻa層粒φ1～3mm1% 礫φ150～300mm20%（備)柱痕跡
2 （色)2.5Y3/3（性)SiL(S+)（緻)+（塑)粘性±～－（混)Ⅻa層粒φ1～5mm10%（備)掘方裏込

ＳＫＰ3060
1 （色)2.5Y3/3（性)SiL(S+)（緻)+（塑)－
（混)炭化物φ3～5mm1% 礫φ50～150mm10%
2 （色)2.5Y3/3（性)SiL(S+)（緻)+（塑)－
（混)礫φ5～150mm10% Ⅻa層土φ5～10mm20%

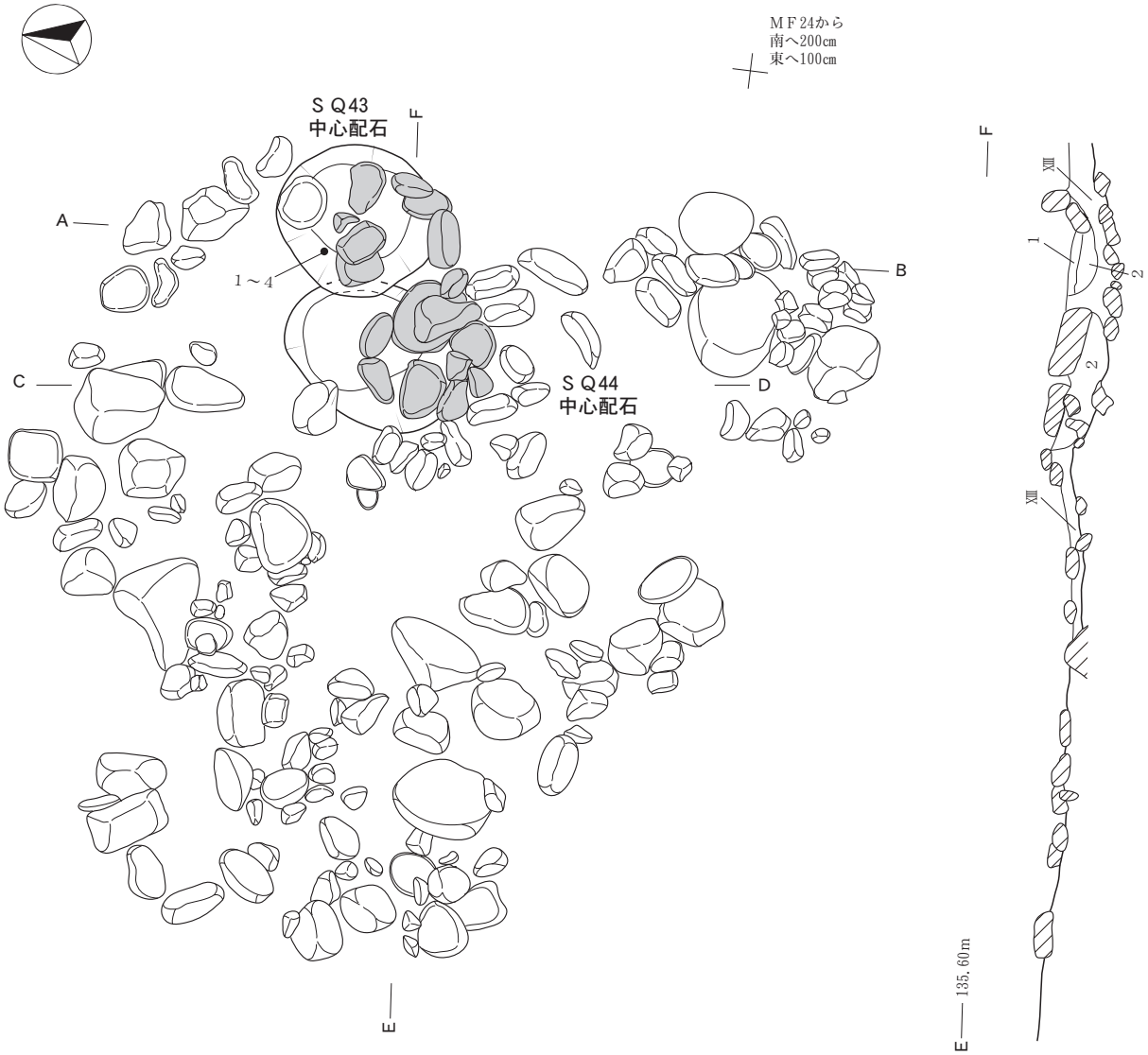
ＳＫＰ3061
1 （色)10YR3/3（性)SiL(S+)（緻)+
（塑)－（混)礫φ50～300mm30%

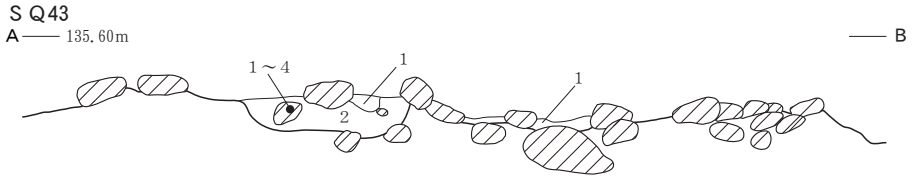
第101図　ＳＱ3049配石遺構、ＳＫＰ3053・3054・3060・3061柱穴、レリーフ図、遺物分布図





第102図　ＳＱ3055配石遺構、レリーフ図、出土石器

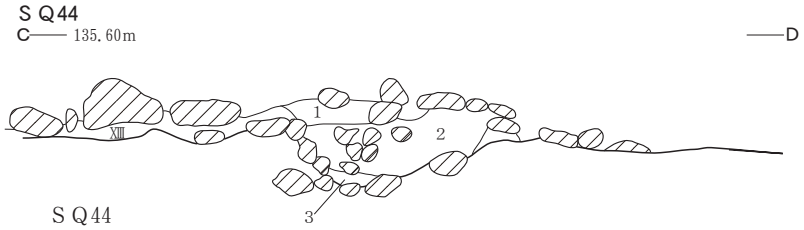




ＳＱ43

1 （色)10YR2/2～2.5Y3/1 （構)亜角塊状φ5mm （性)L～SL(S+) （緻)± （塑)－ （混)礫φ10～30mm30%
（備)疑似グライ斑が浮く 褐鉄鉱φ1～3mm点在

2 （色)10YR2/2～2.5Y3/1 （構)亜角塊状φ5mm （性)S （緻)++ （塑)－ （備)Ⅸa層よりも小礫が少なく、黒い



ＳＱ44

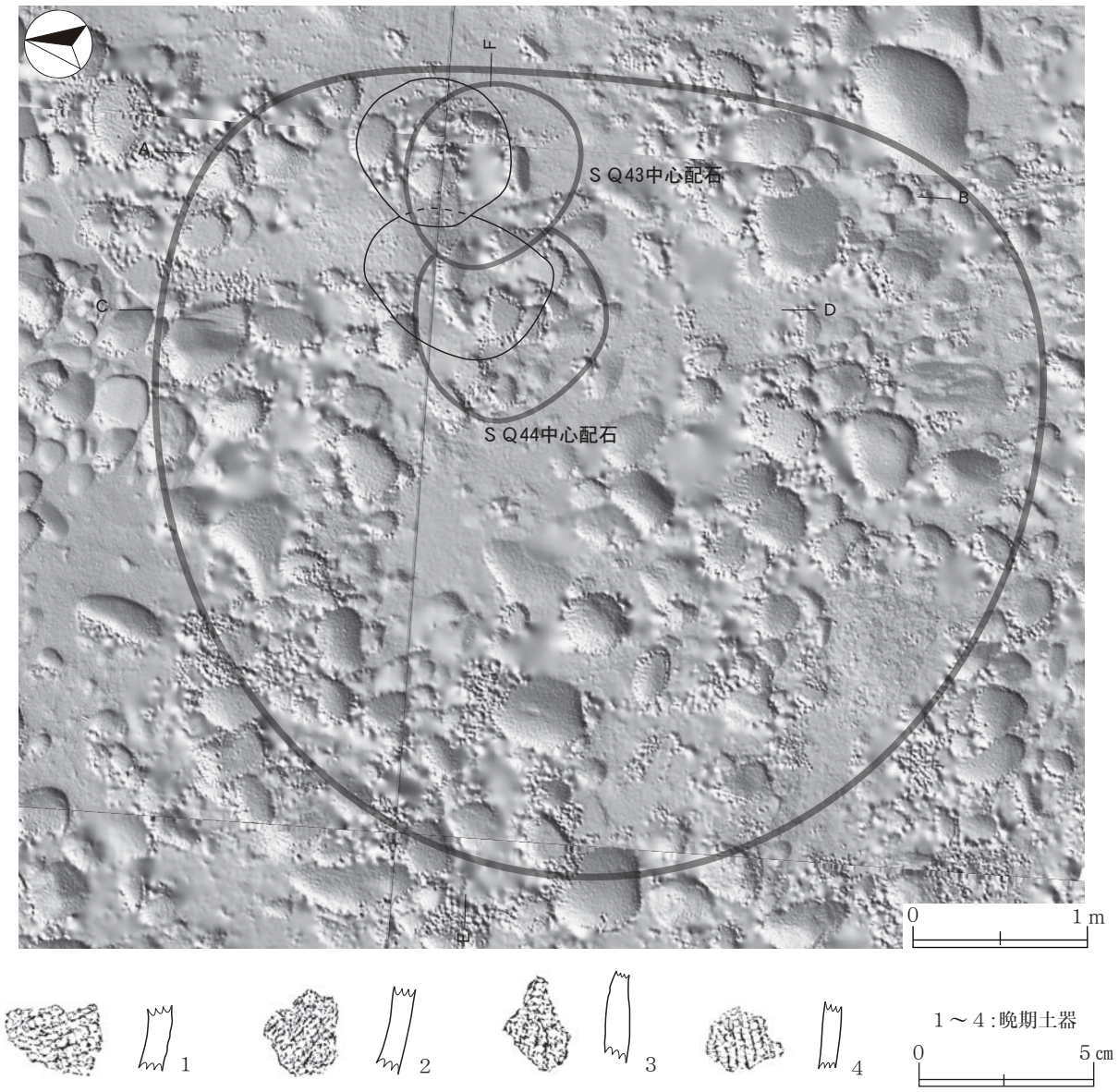
1 （色)10YR2/2～2.5Y3/1 （構)亜角塊状φ5mm （性)L～SL(S+) （緻)± （塑)－ （混)礫φ10～30mm30%
（備)疑似グライ斑が浮く 褐鉄鉱φ1～3mm点在

2 （色)10YR2/2～2.5Y3/1 （構)亜角塊状φ5mm （性)S （緻)++ （塑)－ （備)Ⅸa層よりも小礫が少なく、黒い

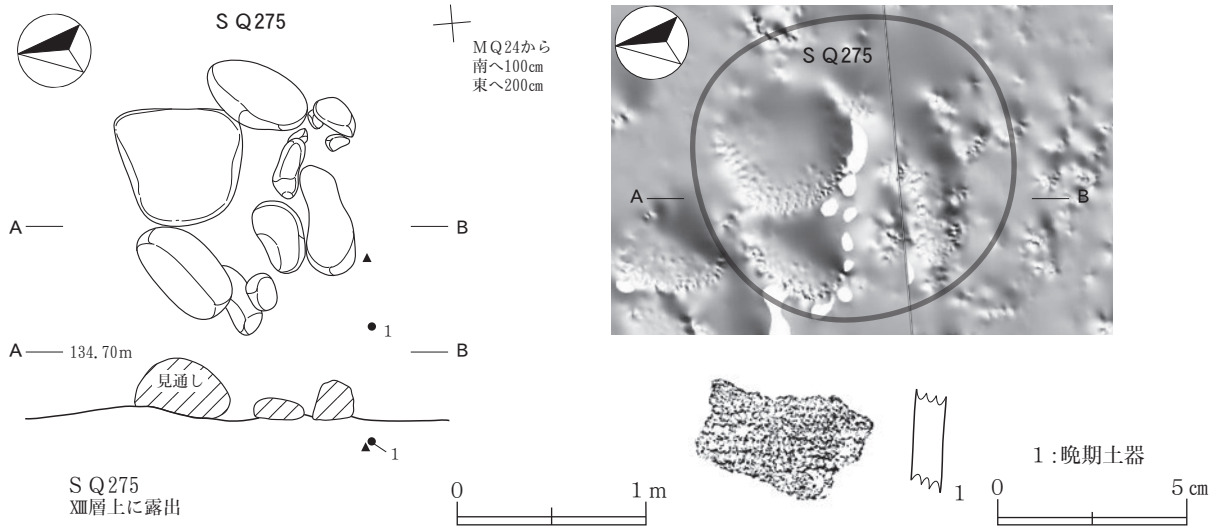
3 （色)10YR3/1～2.5Y3/1 （構)亜角塊状φ5mm （性)S （緻)++ （塑)－ （備)グライ化して黒い

0　1 m

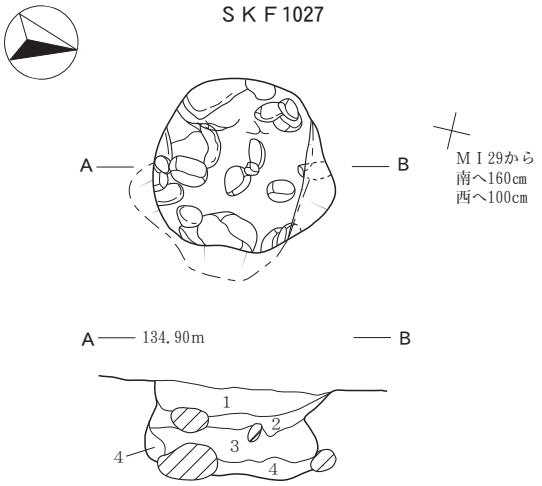
第 103 図　ＳＱ43・44 配石遺構



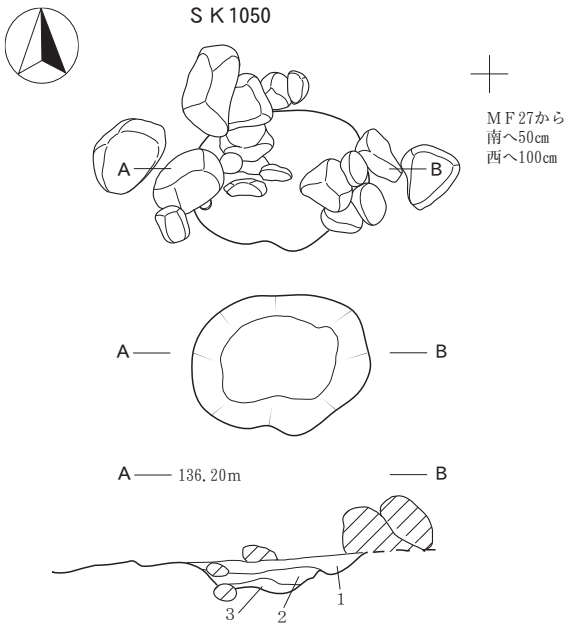
第104図　ＳＱ43・44配石遺構レリーフ図、出土土器



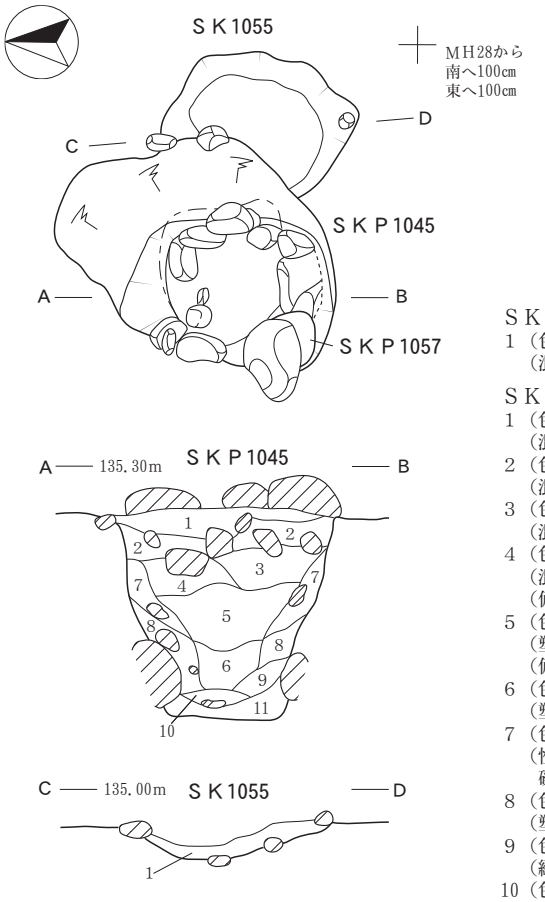
第105図　ＳＱ275配石遺構、レリーフ図、出土土器



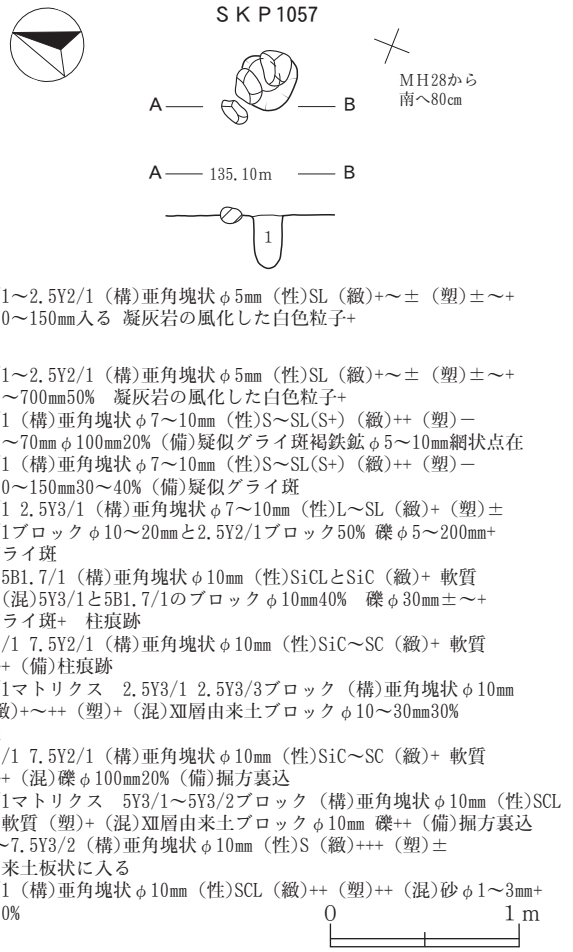
ＳＫＦ1027
1 攪乱
2 (色)2.5Y3/1～2.5Y2/1 (構)亜角塊状φ5～7mm (性)S～SL
(緻)+～± (塑)± (混)礫φ70～200mm+ (備)上部を撹乱で削平
疑似グライ斑φ1mm点在
3 (色)2.5Y3/1 (構)亜角塊状φ5～7mm (性)SCL(Si+)
(緻)+～± 2層より軟質 (塑)+～++ (混)黄色土φ10～20mm30%斑状
(備)グライ化
4 (色)2.5Y2/1 2.5Y3/3 (構)亜角塊状φ7～10mm
(性)2.5Y2/1はSiCL 2.5Y3/3～3/4はSCL～SL
(緻)+ 3層より軟質 (混)砂ブロックφ10～30mm10%
(備)グライ化 人為堆積



ＳＫ1050
1 (色)10YR3/1～10YR2/2 (構)亜角塊状φ20mm (性)SL
(緻)+ (塑)－～± (備)疑似グライ斑φ2mm1%
2 (色)10YR3/2～10YR2/3 (構)亜角塊状φ5mm (性)S～SL
(緻)+++ (塑)－ (混)礫φ7～30mm30% XI層由来土φ10～15mm3%
(備)疑似グライ斑φ10mm30%
3 (色)2.5Y3/1～2.5Y2/1 (構)亜角塊状φ10～30mm (性)S～SL
(緻)+++ (塑)－ (備)疑似グライ斑φ5mm



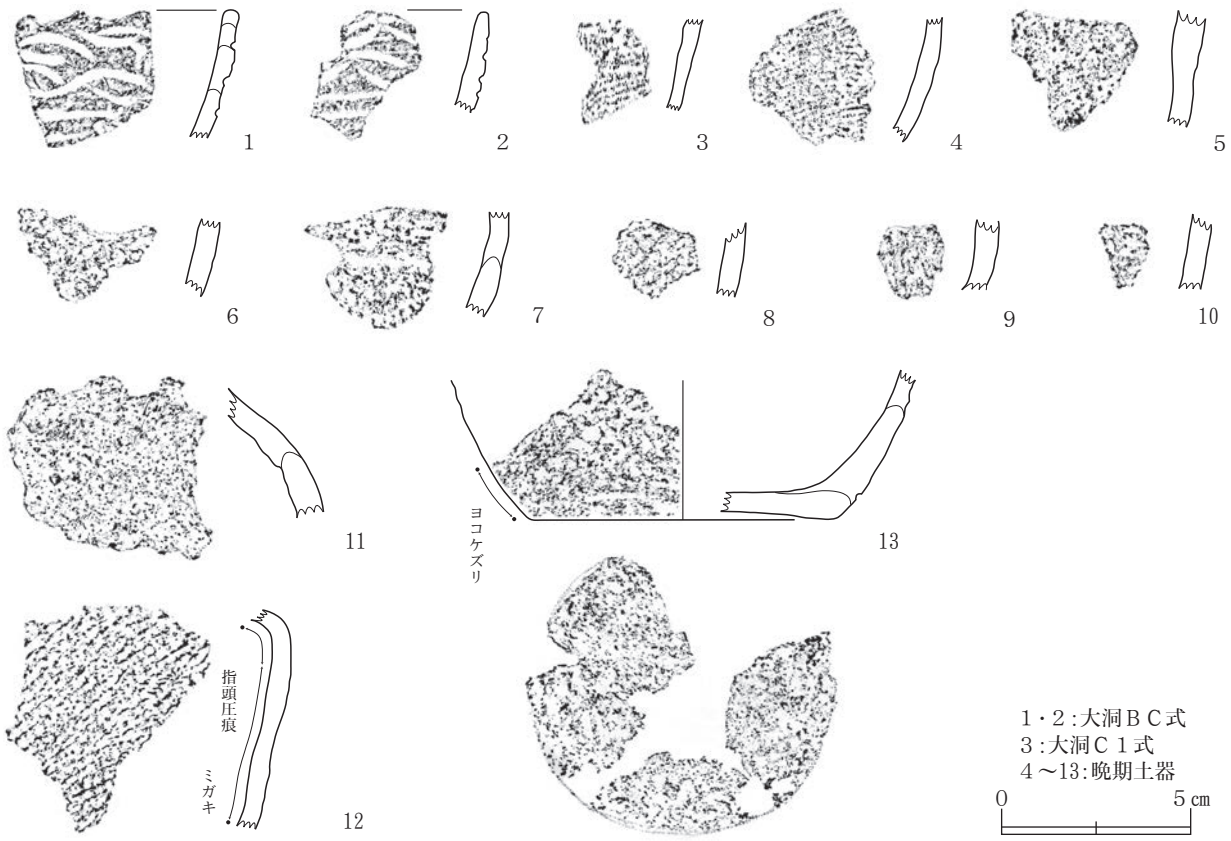
ＳＫ1055
1 (色)10YR2/2 (構)亜角塊状 (性)L (緻)+
(塑)±～+ (混)礫φ10～50mm++



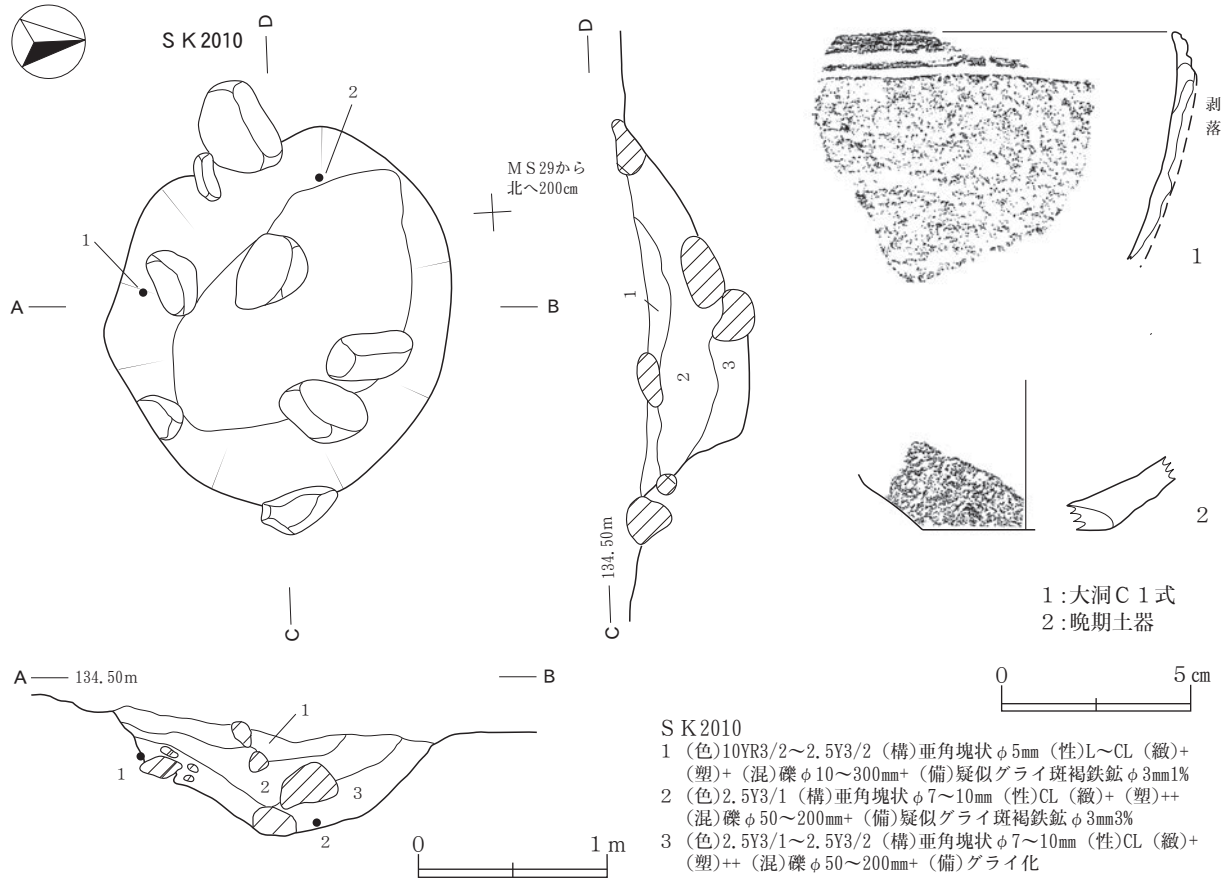
ＳＫＰ1057
1 (色)10YR2/1～2.5Y2/1 (構)亜角塊状φ5mm (性)SL (緻)+～± (塑)±～+
(混)礫φ100～150mm入る 凝灰岩の風化した白色粒子+

ＳＫＰ1045
1 (色)10YR2/1～2.5Y2/1 (構)亜角塊状φ5mm (性)SL (緻)+～± (塑)±～+
(混)礫φ10～700mm50% 凝灰岩の風化した白色粒子+
2 (色)2.5Y3/1 (構)亜角塊状φ7～10mm (性)S～SL(S+) (緻)++ (塑)－
(混)礫φ30～70mmφ100mm20% (備)疑似グライ斑褐鉄鉱φ5～10mm網状点在
3 (色)2.5Y3/1 (構)亜角塊状φ7～10mm (性)S～SL(S+) (緻)++ (塑)－
(混)礫φ100～150mm30～40% (備)疑似グライ斑
4 (色)2.5Y2/1 2.5Y3/1 (構)亜角塊状φ7～10mm (性)L～SL (緻)+ (塑)±
(混)2.5Y3/1ブロックφ10～20mmと2.5Y2/1ブロック50% 礫φ5～200mm+
(備)疑似グライ斑
5 (色)5Y3/1 5B1.7/1 (構)亜角塊状φ10mm (性)SiCLとSiC (緻)+ 軟質
(塑)+～++ (混)5Y3/1と5B1.7/1のブロックφ10mm40% 礫φ30mm±～+
(備)疑似グライ斑+ 柱痕跡
6 (色)2.5GY2/1 7.5Y2/1 (構)亜角塊状φ10mm (性)SiC～SC (緻)+ 軟質
(塑)++～+++ (備)柱痕跡
7 (色)2.5Y2/1マトリクス 2.5Y3/1 2.5Y3/3ブロック (構)亜角塊状φ10mm
(性)SCL (緻)+～++ (塑)+ (混)XII層由来土ブロックφ10～30mm30%
礫φ100mm
8 (色)2.5GY2/1 7.5Y2/1 (構)亜角塊状φ10mm (性)SiC～SC (緻)+ 軟質
(塑)++～+++ (混)礫φ100mm20% (備)掘方裏込
9 (色)2.5Y2/1マトリクス 5Y3/1～5Y3/2ブロック (構)亜角塊状φ10mm (性)SCL
(緻)+～++ 軟質 (塑)+ (混)XII層由来土ブロックφ10mm 礫++ (備)掘方裏込
10 (色)5Y3/2～7.5Y3/2 (構)亜角塊状φ10mm (性)S (緻)+++ (塑)±
(混)XII層由来土板状に入る
11 (色)2.5Y2/1 (構)亜角塊状φ10mm (性)SCL (緻)++ (塑)++ (混)砂φ1～3mm+
礫φ70mm10%

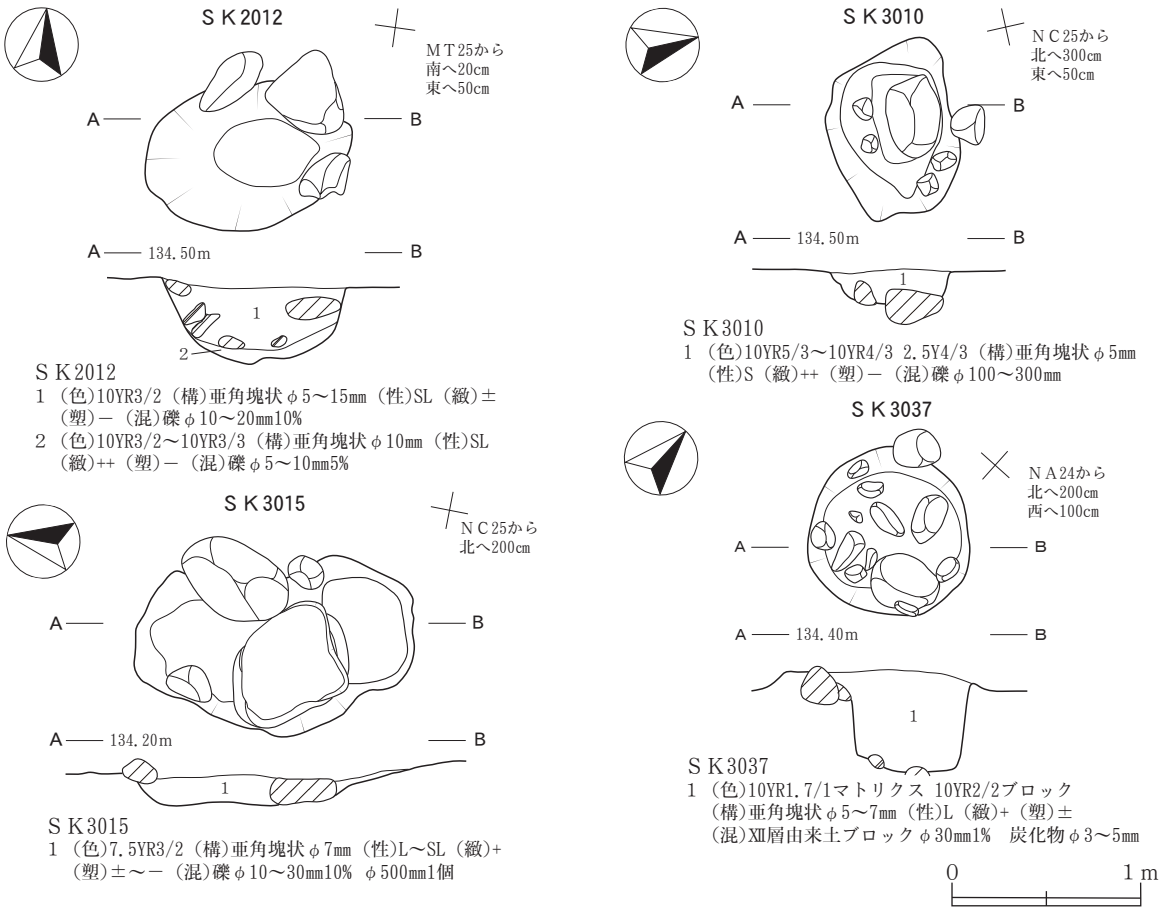
第106図　ＳＫＦ1027フラスコ状土坑、ＳＫ1050・1055土坑、ＳＫＰ1045・1057柱穴



第107図　ＳＫＰ1045柱穴出土土器



第108図　ＳＫ2010土坑、出土土器



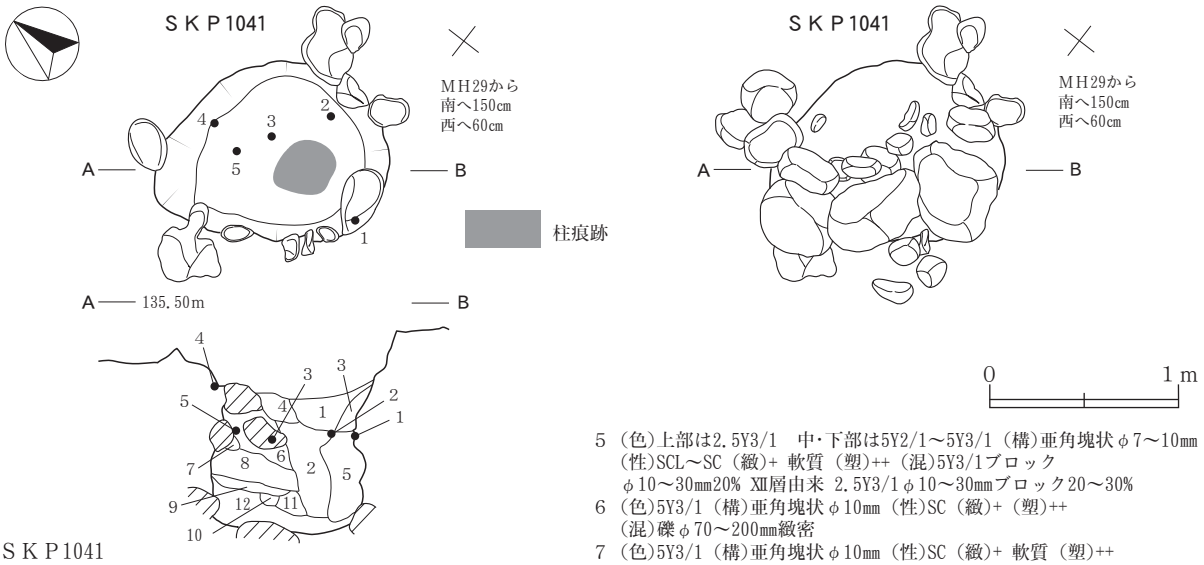
ＳＫ2012
1 （色)10YR3/2（構)亜角塊状φ5～15mm（性)SL（緻)±
（塑)－（混)礫φ10～20mm10%
2 （色)10YR3/2～10YR3/3（構)亜角塊状φ10mm（性)SL
（緻)++（塑)－（混)礫φ5～10mm5%

ＳＫ3010
1 （色)10YR5/3～10YR4/3 2.5Y4/3（構)亜角塊状φ5mm
（性)S（緻)++（塑)－（混)礫φ100～300mm

ＳＫ3037
1 （色)10YR1.7/1マトリクス 10YR2/2ブロック
（構)亜角塊状φ5～7mm（性)L（緻)+（塑)±
（混)Ⅻ層由来土ブロックφ30mm1%　炭化物φ3～5mm

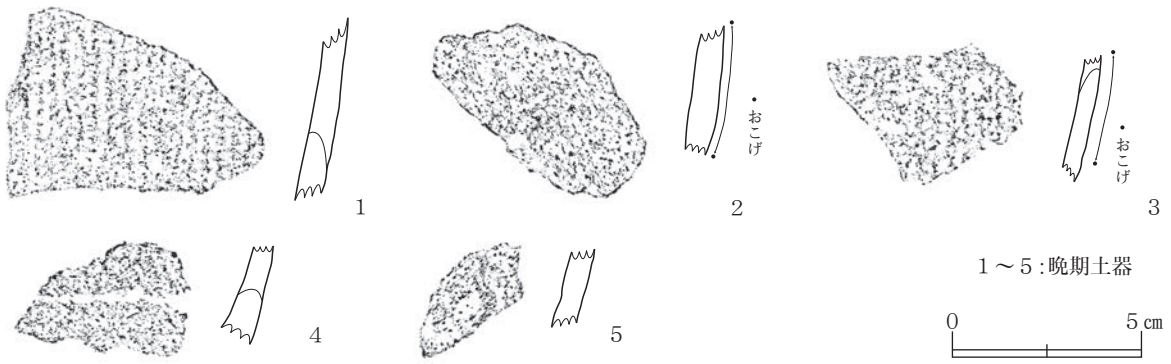
ＳＫ3015
1 （色)7.5YR3/2（構)亜角塊状φ7mm（性)L～SL（緻)+
（塑)±～－（混)礫φ10～30mm10%　φ500mm1個

第109図　ＳＫ2012・3010・3015・3037土坑

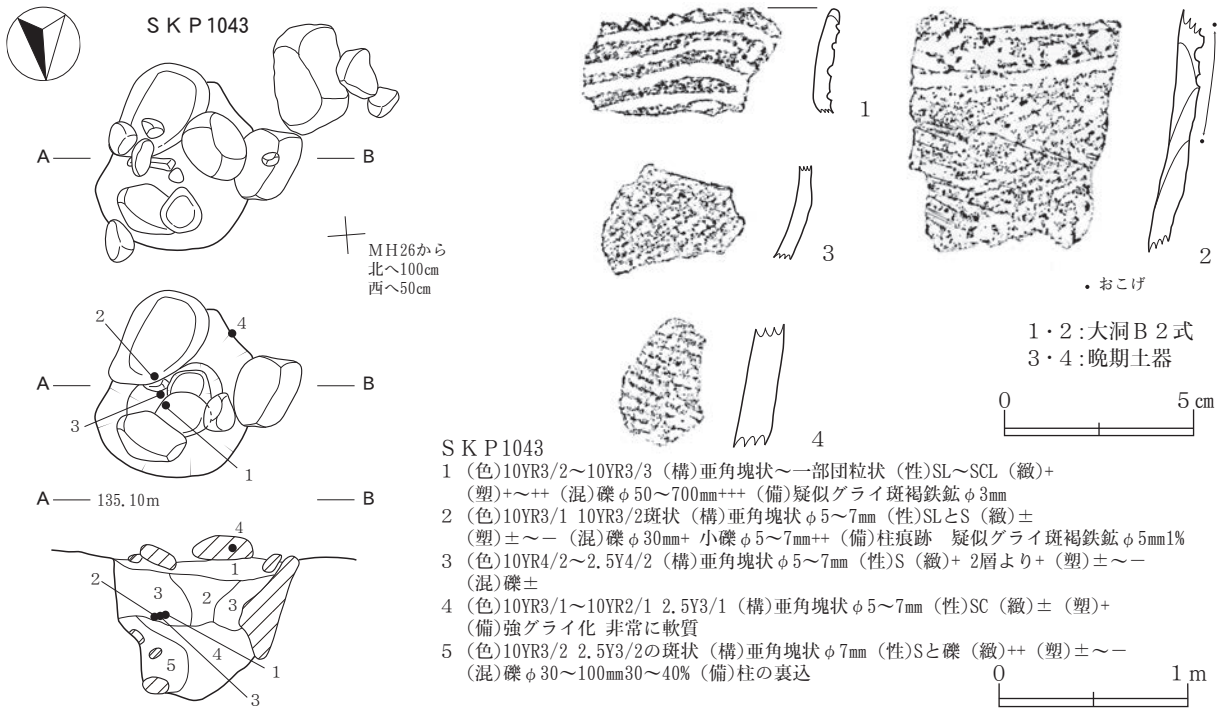


ＳＫＰ1041
1 （色)10YR2/1～2.5Y2/1（構)亜角塊状φ5mm（性)SL（緻)+～±
（塑)±～+（混)礫φ10～700mm50%　凝灰岩の風化した白色粒子+
2 （色)上部は2.5Y3/1　中･下部は5Y2/1～5Y3/1（構)亜角塊状
φ7～10mm（性)SCL～SC（緻)+ 軟質（塑)++
（混)5Y3/1φ10～30mmブロック20% Ⅻ層由来 2.5Y3/1
φ10～30mmブロック20～30%（備)色調で分層 グライ化
3 （色)2.5Y3/1（構)亜角塊状φ7～10mm（性)SL～SCL
（緻)+～++（塑)+（混)礫φ10～150mm
Ⅻ層由来黄色土ブロック斑状20～30%
4 （色)2.5Y4/2～2.5Y4/3（構)亜角塊状φ10mm（性)SL～L
（緻)+～++（塑)+（混)礫φ10～200mm
5 （色)上部は2.5Y3/1　中･下部は5Y2/1～5Y3/1（構)亜角塊状φ7～10mm
（性)SCL～SC（緻)+ 軟質（塑)++（混)5Y3/1ブロック
φ10～30mm20% Ⅻ層由来 2.5Y3/1φ10～30mmブロック20～30%
6 （色)5Y3/1（構)亜角塊状φ10mm（性)SC（緻)+（塑)++
（混)礫φ70～200mm緻密
7 （色)5Y3/1（構)亜角塊状φ10mm（性)SC（緻)+ 軟質（塑)++
（備)Ⅻ層由来ブロックがグライ化
8 （色)5Y2/1～7.5Y2/1（構)亜角塊状φ10mm（性)SC（緻)+～++
2･6層より+（塑)++
9 （色)5Y2/1～5Y3/1（構)亜角塊状φ10mm（性)SC（緻)+ 軟質
（塑)++（混)礫φ50～150mm30～50%
10 （色)5Y3/1（構)亜角塊状φ10mm（性)SC（緻)+ 軟質（塑)++
（混)Ⅻ層由来土ブロック 礫φ70mm
11 （色)5Y2/1～5Y3/1（構)亜角塊状φ10mm（性)SC（緻)+ 軟質
（塑)++（混)礫φ50～150mm50%
12 （色)2.5GY2/1（構)亜角塊状φ7mm（性)SC（緻)+（塑)+～++
（混)礫φ10～50mm10%（備)グライ化

第110図　ＳＫＰ1041柱穴

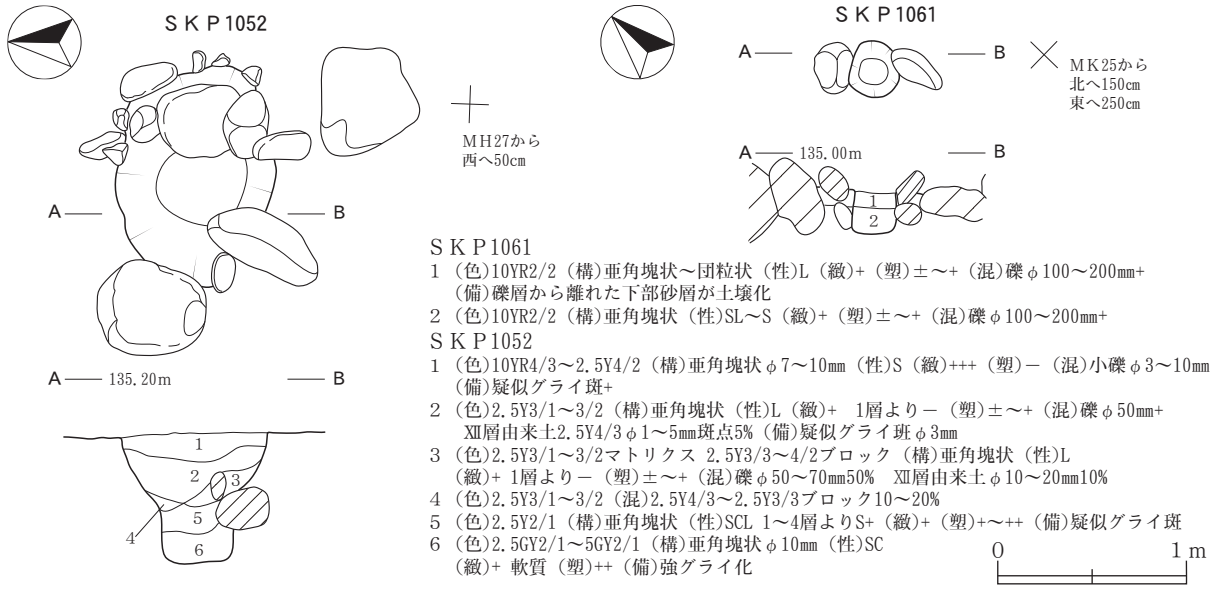


第111図　ＳＫＰ1041柱穴出土土器



ＳＫＰ1043
1 (色)10YR3/2～10YR3/3 (構)亜角塊状～一部団粒状 (性)SL～SCL (緻)+ (塑)+～++ (混)礫φ50～700mm+++ (備)疑似グライ斑褐鉄鉱φ3mm
2 (色)10YR3/1 10YR3/2斑状 (構)亜角塊状φ5～7mm (性)SLとS (緻)± (塑)±～－ (混)礫φ30mm+ 小礫φ5～7mm++ (備)柱痕跡　疑似グライ斑褐鉄鉱φ5mm1%
3 (色)10YR4/2～2.5Y4/2 (構)亜角塊状φ5～7mm (性)S (緻)+ 2層より+ (塑)±～－ (混)礫±
4 (色)10YR3/1～10YR2/1 2.5Y3/1 (構)亜角塊状φ5～7mm (性)SC (緻)± (塑)+ (備)強グライ化 非常に軟質
5 (色)10YR3/2 2.5Y3/2の斑状 (構)亜角塊状φ7mm (性)Sと礫 (緻)++ (塑)±～－ (混)礫φ30～100mm30～40% (備)柱の裏込

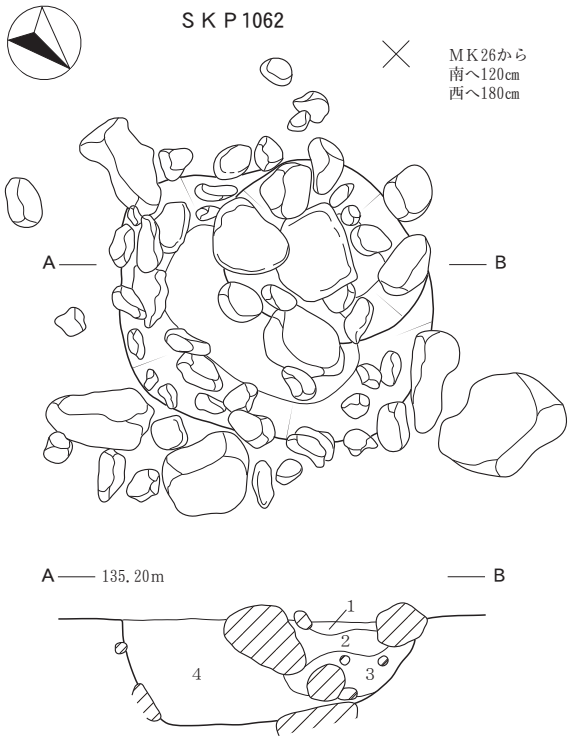
第112図　ＳＫＰ1043柱穴、出土土器



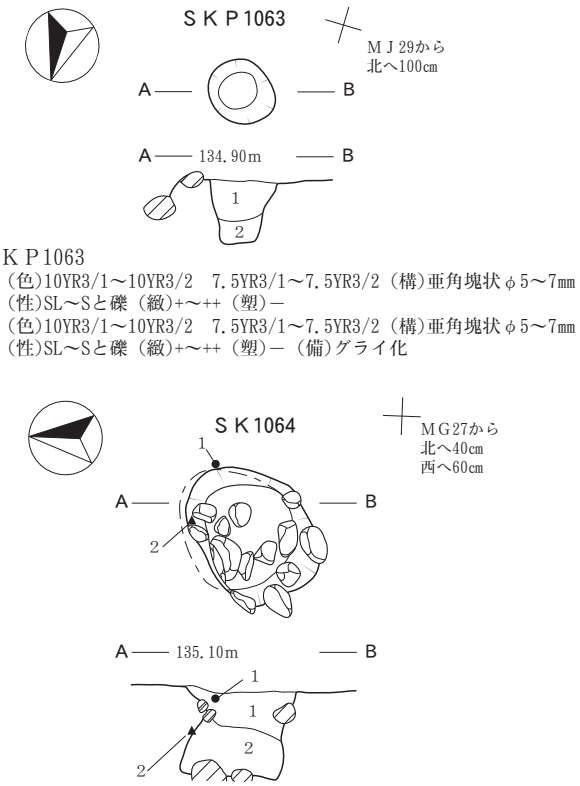
ＳＫＰ1061
1 (色)10YR2/2 (構)亜角塊状～団粒状 (性)L (緻)+ (塑)±～+ (混)礫φ100～200mm+ (備)礫層から離れた下部砂層が土壌化
2 (色)10YR2/2 (構)亜角塊状 (性)SL～S (緻)+ (塑)±～+ (混)礫φ100～200mm+

ＳＫＰ1052
1 (色)10YR4/3～2.5Y4/2 (構)亜角塊状φ7～10mm (性)S (緻)+++ (塑)－ (混)小礫φ3～10mm (備)疑似グライ斑+
2 (色)2.5Y3/1～3/2 (構)亜角塊状 (性)L (緻)+　1層より－ (塑)±～+ (混)礫φ50mm+ Ⅻ層由来土2.5Y4/3φ1～5mm斑点5% (備)疑似グライ班φ3mm
3 (色)2.5Y3/1～3/2マトリクス 2.5Y3/3～4/2ブロック (構)亜角塊状 (性)L (緻)+ 1層より－ (塑)±～+ (混)礫φ50～70mm50%　Ⅻ層由来土φ10～20mm10%
4 (色)2.5Y3/1～3/2 (混)2.5Y4/3～2.5Y3/3ブロック10～20%
5 (色)2.5Y2/1 (構)亜角塊状 (性)SCL 1～4層よりS+ (緻)+ (塑)+～++ (備)疑似グライ斑
6 (色)2.5GY2/1～5GY2/1 (構)亜角塊状φ10mm (性)SC (緻)+ 軟質 (塑)++ (備)強グライ化

第113図　ＳＫＰ1052・1061柱穴

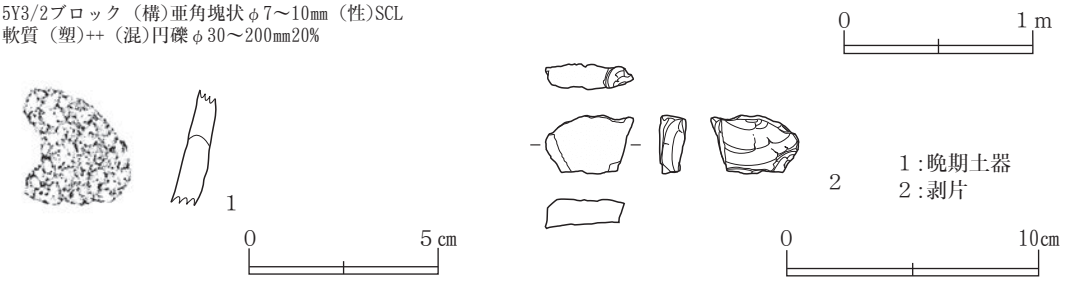


ＳＫＰ1062
1 (色)2.5Y2/1～2.5Y3/1 (構)亜角塊状φ7mm (性)L～CL (緻)+ (塑)+ (備)疑似グライ斑
2 (色)2.5Y3/1～2.5Y4/2 (構)亜角塊状φ7～10mm (性)SCL (緻)+ (塑)++ (備)疑似グライ斑
3 (色)2.5GY3/1 5Y3/2ブロック (構)亜角塊状φ7～10mm (性)SCL (緻)+ 2層より軟質 (塑)++ (混)円礫φ30～200mm20%
4 (色)2.5GY3/1 5Y3/2ブロック (構)亜角塊状φ7～10mm (性)SCL (緻)+ 2層より軟質 (塑)++ (混)円礫φ30～200mm20%

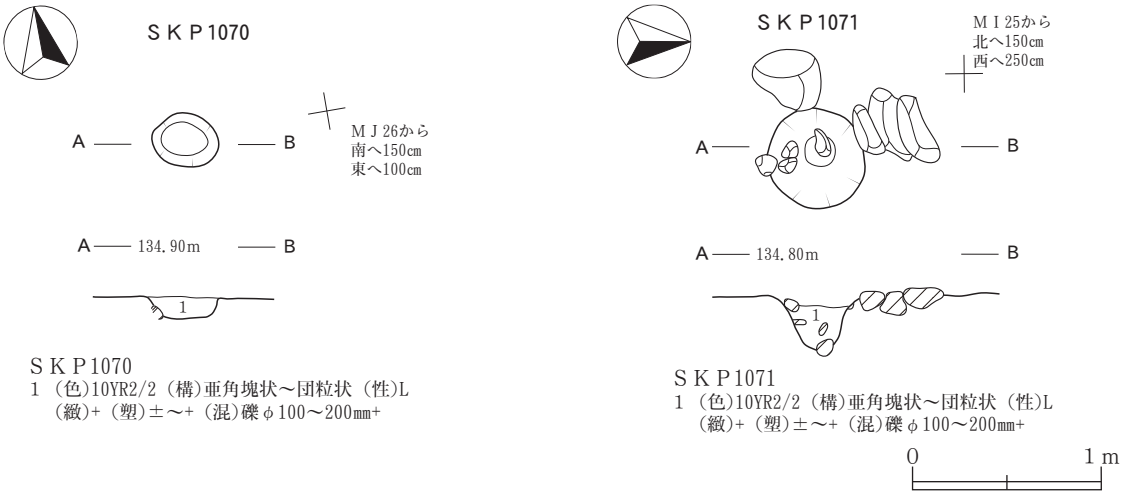


ＳＫＰ1063
1 (色)10YR3/1～10YR3/2　7.5YR3/1～7.5YR3/2 (構)亜角塊状φ5～7mm (性)SL～Sと礫 (緻)+～++ (塑)－
2 (色)10YR3/1～10YR3/2　7.5YR3/1～7.5YR3/2 (構)亜角塊状φ5～7mm (性)SL～Sと礫 (緻)+～++ (塑)－ (備)グライ化

ＳＫＰ1064
1 (色)2.5Y3/2 (構)亜角塊状φ7mm (性)SL (緻)++ (塑)± (混)礫φ10～50mm10%　小礫φ5mm++ (備)疑似グライ斑褐鉄鉱φ3～5mm1～3%
2 (色)2.5Y2/1 (構)亜角塊状φ7mm (性)SL～SCL (緻)++ 軟質 (塑)+ (混)礫φ10～50mm10% 小礫φ5mm++ (備)グライ化



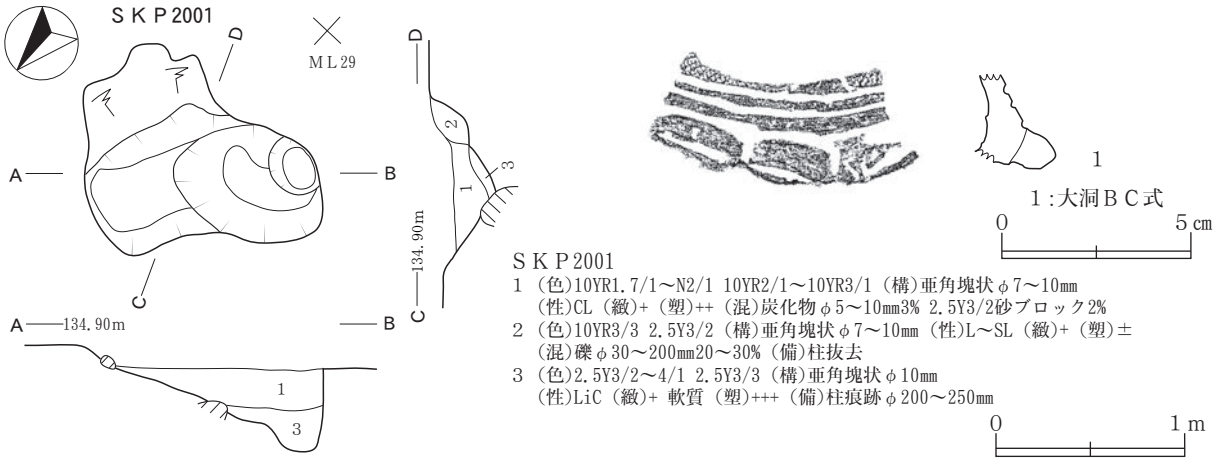
第114図　ＳＫＰ1062・1063・1064柱穴、ＳＫＰ1064柱穴出土土器・石器



ＳＫＰ1070
1 (色)10YR2/2 (構)亜角塊状～団粒状 (性)L (緻)+ (塑)±～+ (混)礫φ100～200mm+

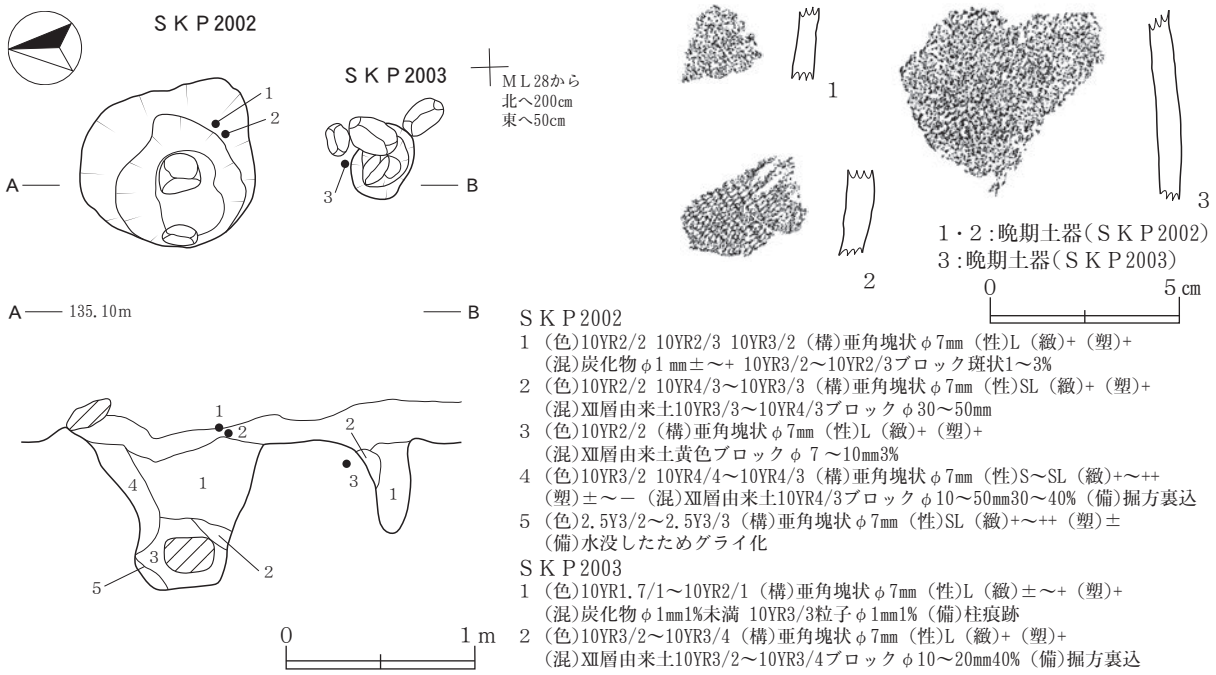
ＳＫＰ1071
1 (色)10YR2/2 (構)亜角塊状～団粒状 (性)L (緻)+ (塑)±～+ (混)礫φ100～200mm+

第115図　ＳＫＰ1070・1071柱穴



ＳＫＰ2001
1 （色)10YR1.7/1～N2/1 10YR2/1～10YR3/1（構)亜角塊状φ7～10㎜
（性)CL（緻)+（塑)++（混)炭化物φ5～10㎜3% 2.5Y3/2砂ブロック2%
2 （色)10YR3/3 2.5Y3/2（構)亜角塊状φ7～10㎜（性)L～SL（緻)+（塑)±
（混)礫φ30～200㎜20～30%（備)柱抜去
3 （色)2.5Y3/2～4/1 2.5Y3/3（構)亜角塊状φ10㎜
（性)LiC（緻)+ 軟質（塑)+++（備)柱痕跡φ200～250㎜

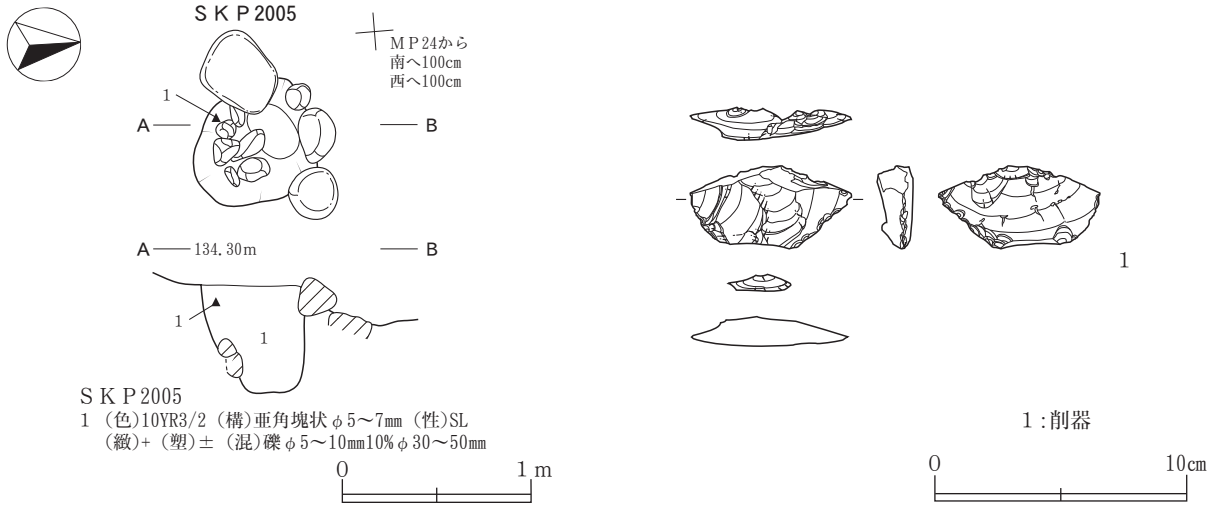
第116図　ＳＫＰ2001柱穴、出土土器



ＳＫＰ2002
1 （色)10YR2/2 10YR2/3 10YR3/2（構)亜角塊状φ7㎜（性)L（緻)+（塑)+
（混)炭化物φ1㎜±～+ 10YR3/2～10YR2/3ブロック斑状1～3%
2 （色)10YR2/2 10YR4/3～10YR3/3（構)亜角塊状φ7㎜（性)SL（緻)+（塑)+
（混)Ⅻ層由来土10YR3/3～10YR4/3ブロックφ30～50㎜
3 （色)10YR2/2（構)亜角塊状φ7㎜（性)L（緻)+（塑)+
（混)Ⅻ層由来土黄色ブロックφ７～10㎜3%
4 （色)10YR3/2 10YR4/4～10YR4/3（構)亜角塊状φ7㎜（性)S～SL（緻)+～++
（塑)±～－（混)Ⅻ層由来土10YR4/3ブロックφ10～50㎜30～40%（備)掘方裏込
5 （色)2.5Y3/2～2.5Y3/3（構)亜角塊状φ7㎜（性)SL（緻)+～++（塑)±
（備)水没したためグライ化

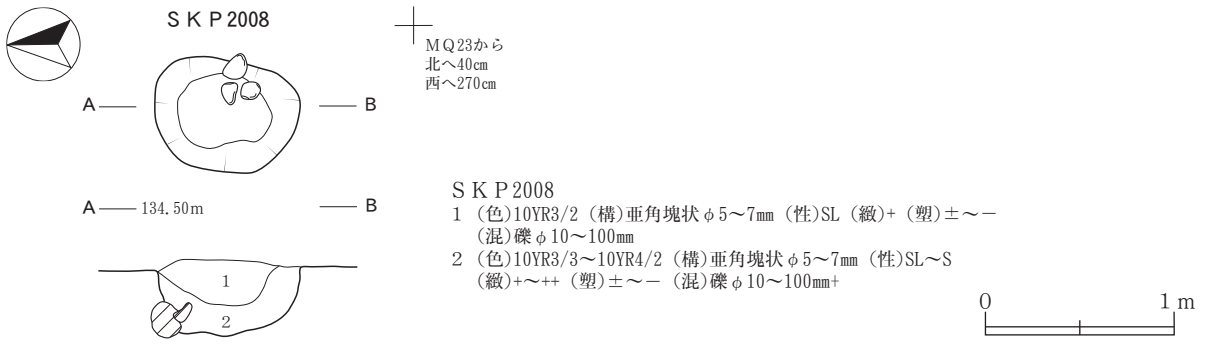
ＳＫＰ2003
1 （色)10YR1.7/1～10YR2/1（構)亜角塊状φ7㎜（性)L（緻)±～+（塑)+
（混)炭化物φ1㎜1%未満 10YR3/3粒子φ1㎜1%（備)柱痕跡
2 （色)10YR3/2～10YR3/4（構)亜角塊状φ7㎜（性)L（緻)+（塑)+
（混)Ⅻ層由来土10YR3/2～10YR3/4ブロックφ10～20㎜40%（備)掘方裏込

第117図　ＳＫＰ2002・2003柱穴、出土土器

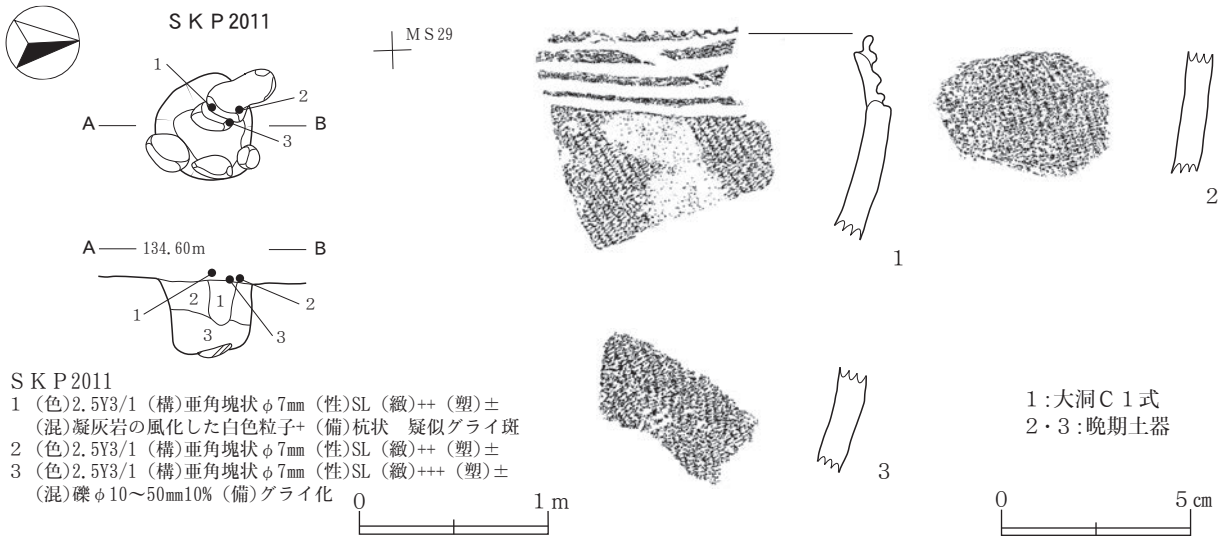


ＳＫＰ2005
1 （色)10YR3/2（構)亜角塊状φ5～7㎜（性)SL
（緻)+（塑)±（混)礫φ5～10㎜10%φ30～50㎜

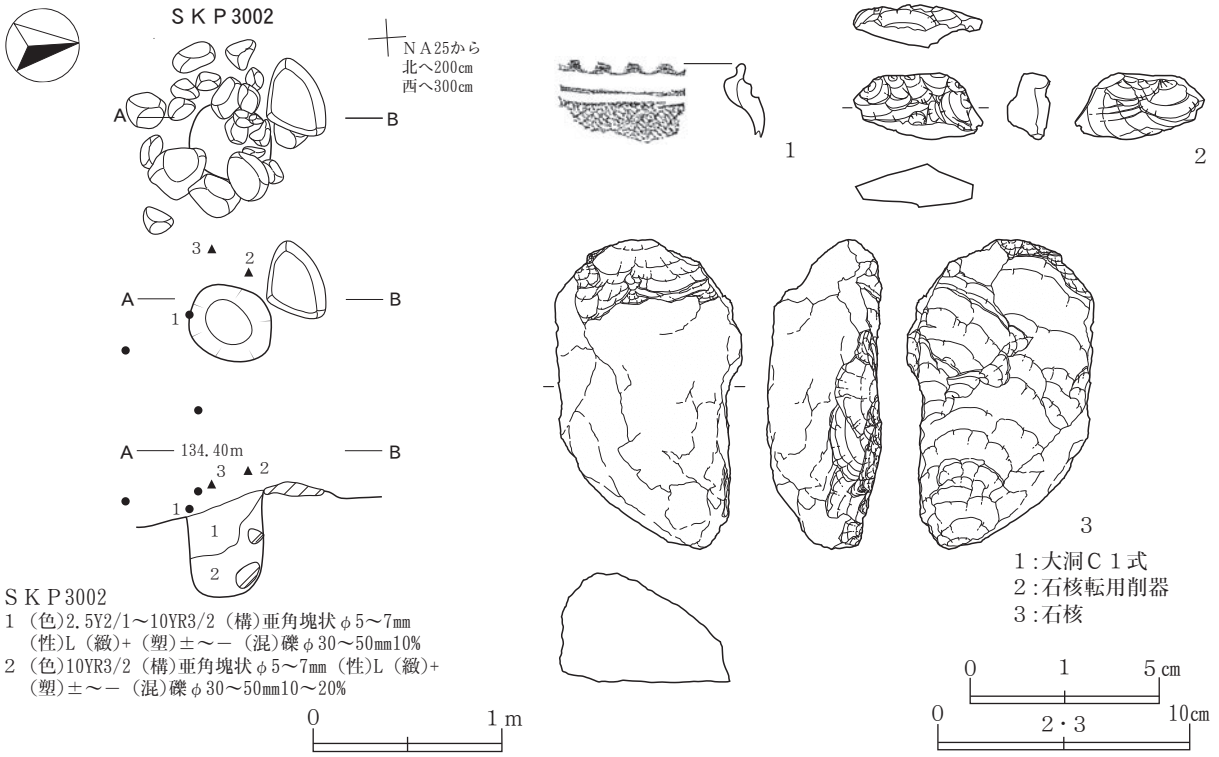
第118図　ＳＫＰ2005柱穴、出土石器



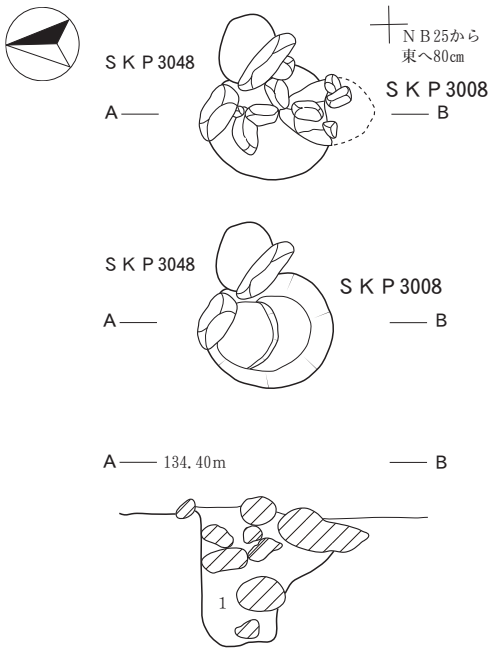
第119図　ＳＫＰ2008柱穴



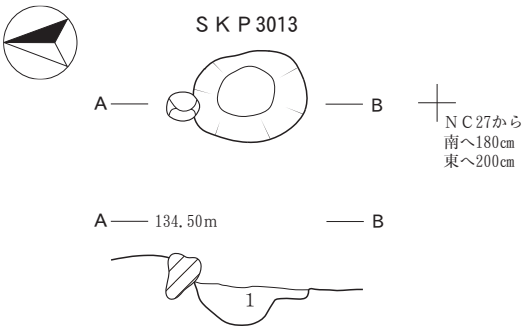
第120図　ＳＫＰ2011柱穴、出土土器



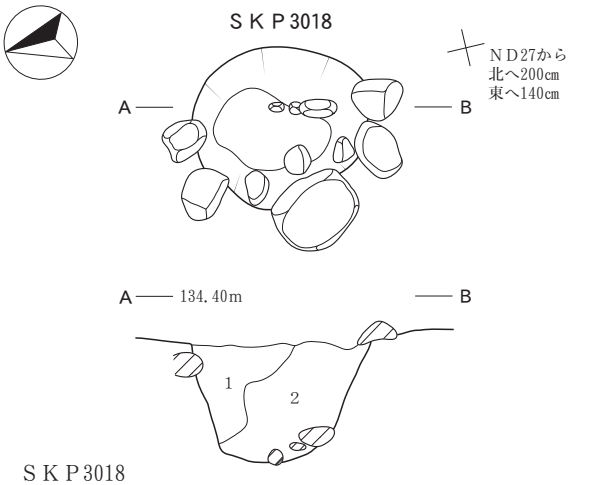
第121図　ＳＫＰ3002柱穴、出土土器・石器



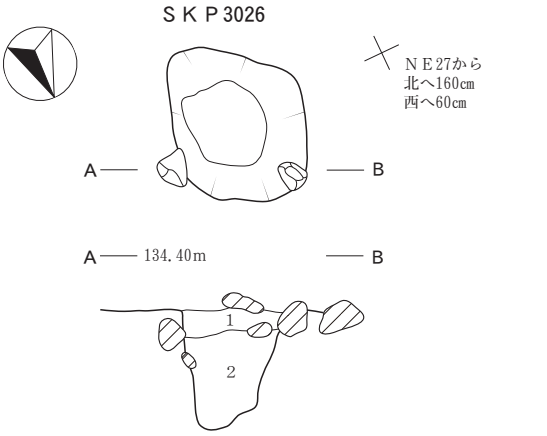
ＳＫＰ3008
1 (色)2.5Y2/1～10YR3/2 (構)亜角塊状φ5～7mm (性)L (緻)+ (塑)±～－ (混)礫φ30～50mm10%



ＳＫＰ3013
1 (色)10YR2/2～10YR2/3 (構)亜角塊状φ7mm (性)SL (緻)+ (塑)－ (混)炭化物φ1～3mm1% Ⅻ層由来土ブロックφ20mm



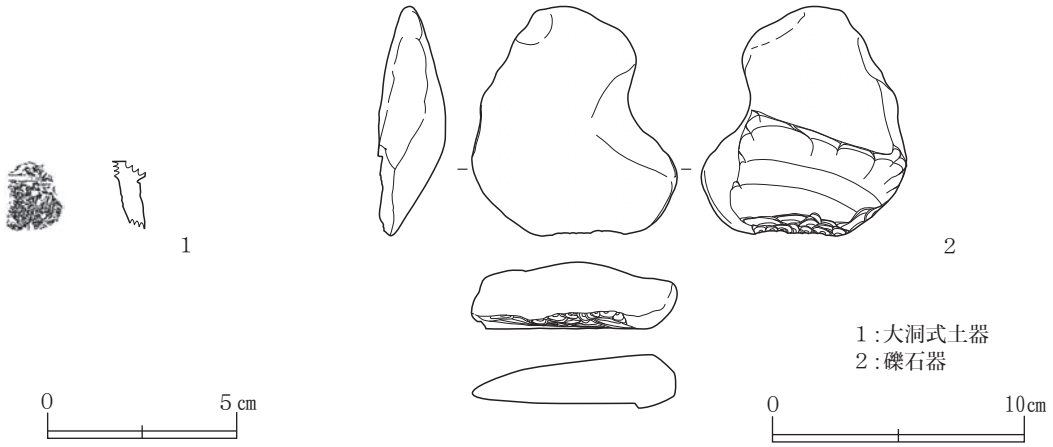
ＳＫＰ3018
1 (色)10YR2/2～10YR3/2 (構)亜角塊状φ5～7mm (性)L (緻)+ (塑)± (混)礫φ30mm1% (備)柱抜去
2 (色)10YR3/2 (構)亜角塊状φ7mm (性)SL～L (緻)+ 1層より+ (塑)+ (混)礫φ50～70mm20～30% (備)掘方裏込



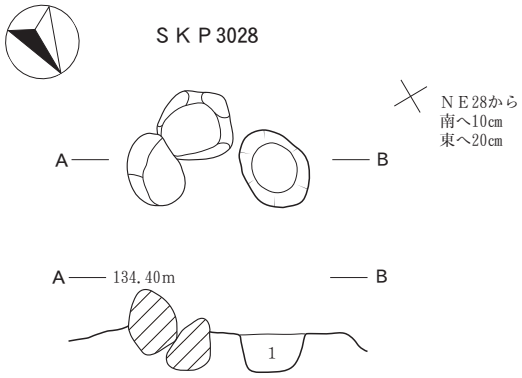
ＳＫＰ3026
1 (色)10YR2/2～10YR2/3 (構)亜角塊状φ7mm (性)SL～L (緻)+ (塑)± (混)礫φ50～100mm5%
2 (色)10YR2/2 (構)亜角塊状φ7mm (性)SL～L (緻)+ (塑)± (混)礫φ50～100mm3%

0　1m

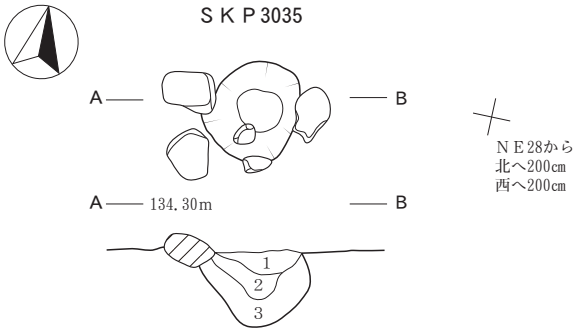
第122図　ＳＫＰ3008・3013・3018・3026柱穴



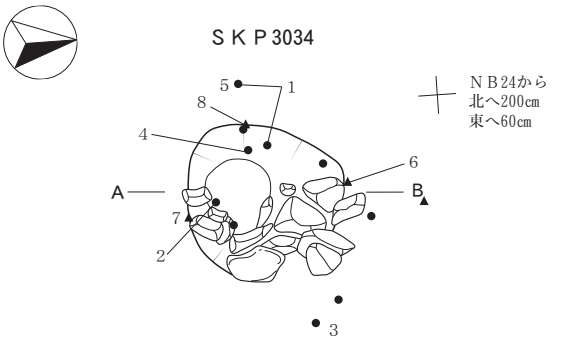
第123図　ＳＫＰ3018柱穴出土土器・石器

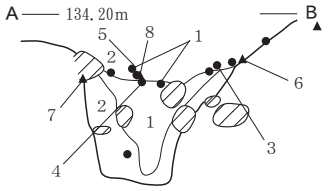


ＳＫＰ3028
1 （色)10YR2/2 （構)亜角塊状φ7mm （性)L～SiL （緻)+
（塑)±～－ （混)礫φ5～10mm3%　Ⅻ層由来黄色土粒子φ0.1mm1%



ＳＫＰ3035
1 （色)10YR3/1～3/2マトリクス 10YR3/3～10YR4/4ブロック （構)亜角塊状φ7mm
（性)L （緻)+ （塑)± （混)Ⅻ層由来土10YR3/3～4/3ブロックφ7～10mm10%
2 （色)10YR3/3 （構)亜角塊状φ5～7mm （性)L(S+) （緻)+ （塑)±～－
（混)礫φ30～50mm1%
3 （色)10YR4/3 （構)亜角塊状φ5～7mm （性)SL～S （緻)++ （塑)－
（混)礫φ5～10mm30%

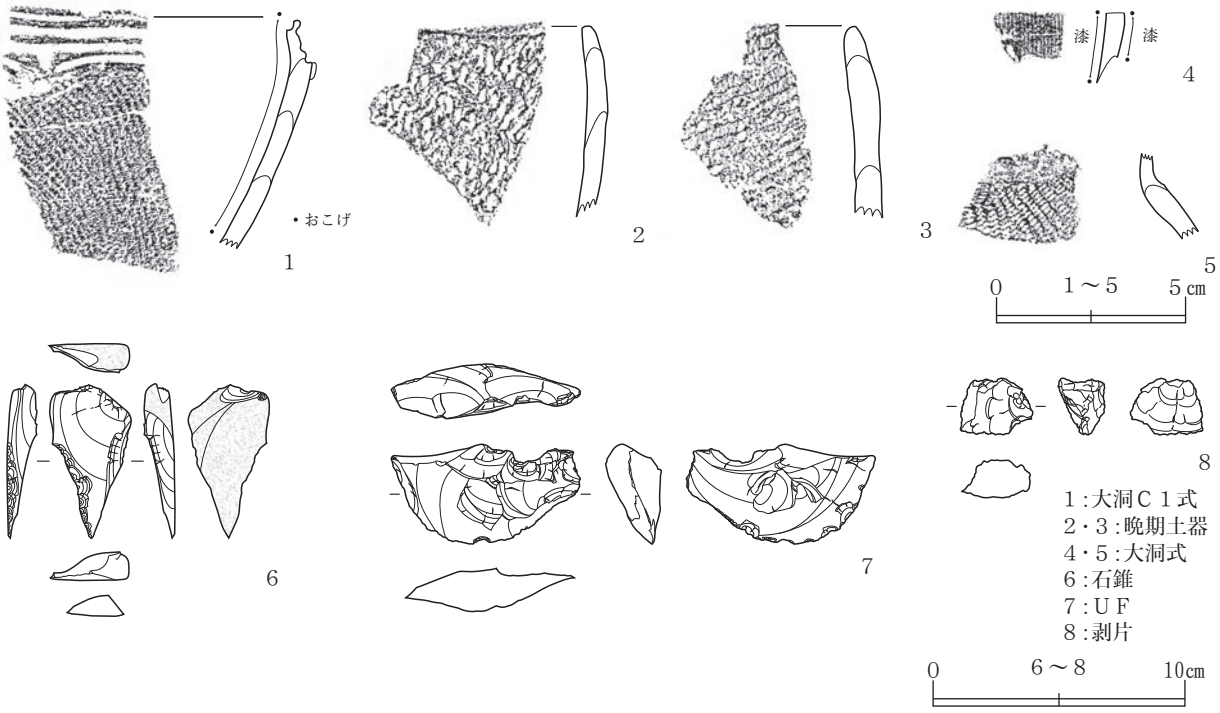




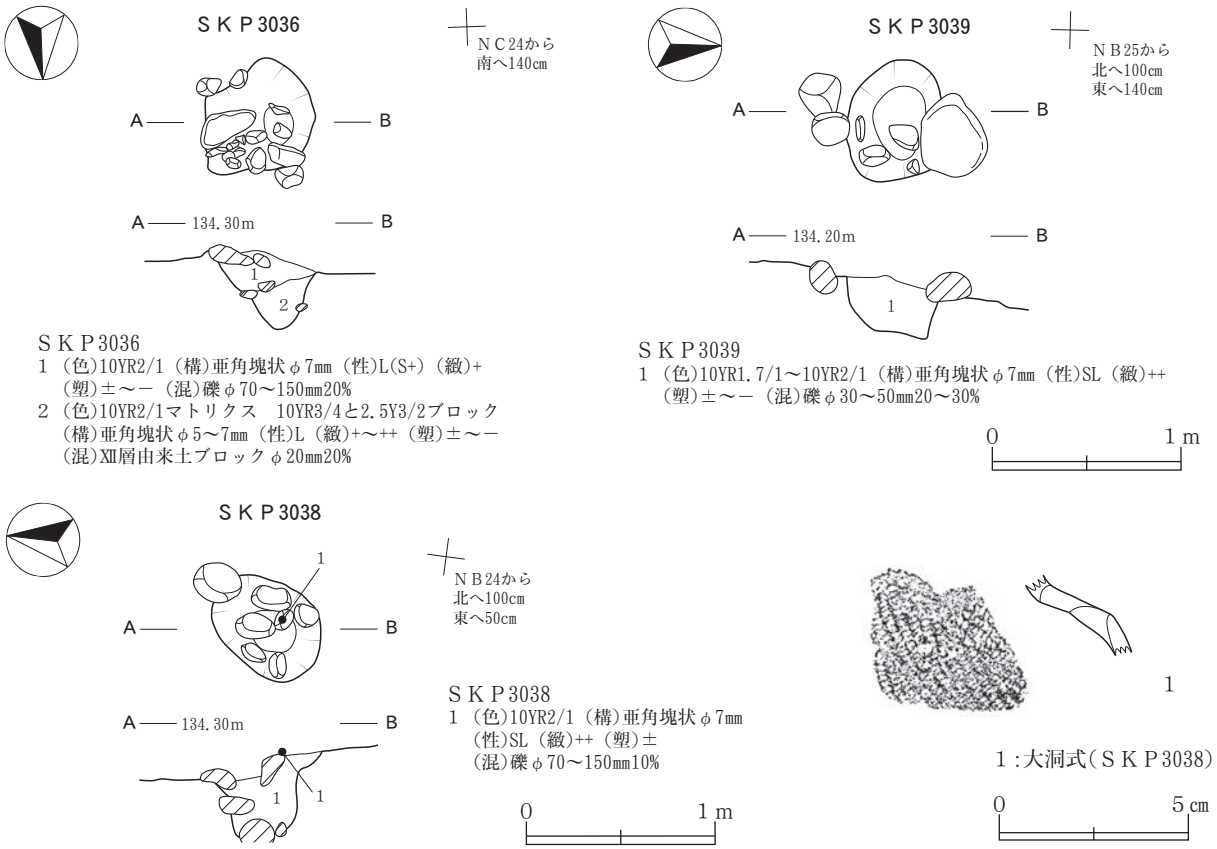
ＳＫＰ3034
1 （色)10YR2/1 （構)亜角塊状φ7mm （性)SL （緻)++ （塑)±
（混)礫φ70～150mm5～10%
2 （色)10YR3/2～10YR3/3 （構)亜角塊状φ7mm （性)S～SL
（緻)++ （塑)－ （混)礫φ70～150mm10%

0　1m

第124図　ＳＫＰ3028・3034・3035柱穴



第125図　ＳＫＰ3034柱穴出土土器・石器

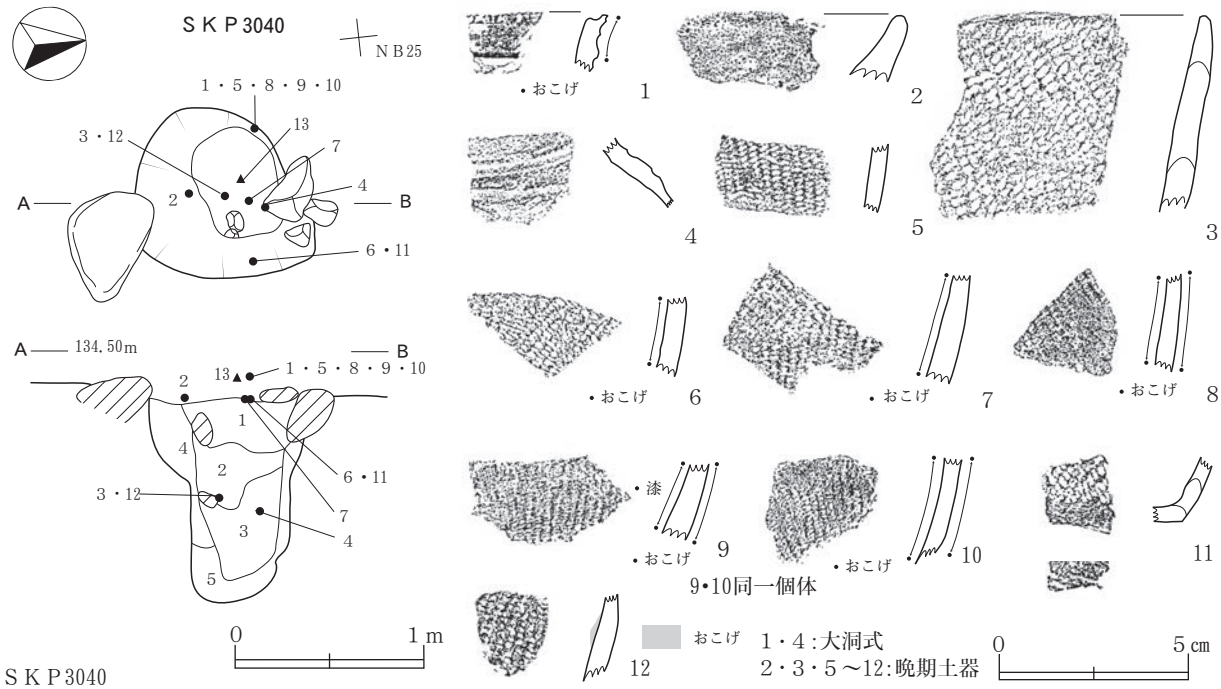


ＳＫＰ3036
1 （色）10YR2/1（構）亜角塊状φ7mm（性）L(S+)（緻）+
（塑）±～－（混）礫φ70～150mm20%
2 （色）10YR2/1マトリクス　10YR3/4と2.5Y3/2ブロック
（構）亜角塊状φ5～7mm（性）L（緻）+～++（塑）±～－
（混）Ⅻ層由来土ブロックφ20mm20%

ＳＫＰ3039
1 （色）10YR1.7/1～10YR2/1（構）亜角塊状φ7mm（性）SL（緻）++
（塑）±～－（混）礫φ30～50mm20～30%

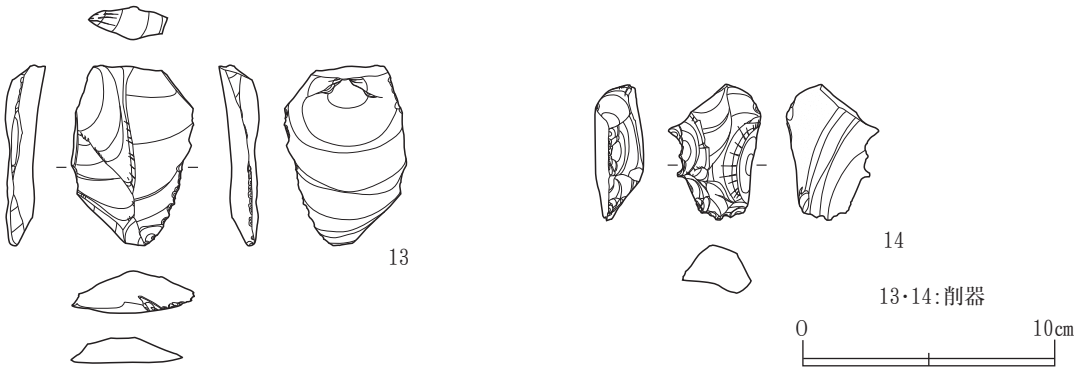
ＳＫＰ3038
1 （色）10YR2/1（構）亜角塊状φ7mm
（性）SL（緻）++（塑）±
（混）礫φ70～150mm10%

第126図　ＳＫＰ3036・3038・3039柱穴、ＳＫＰ3038柱穴出土土器

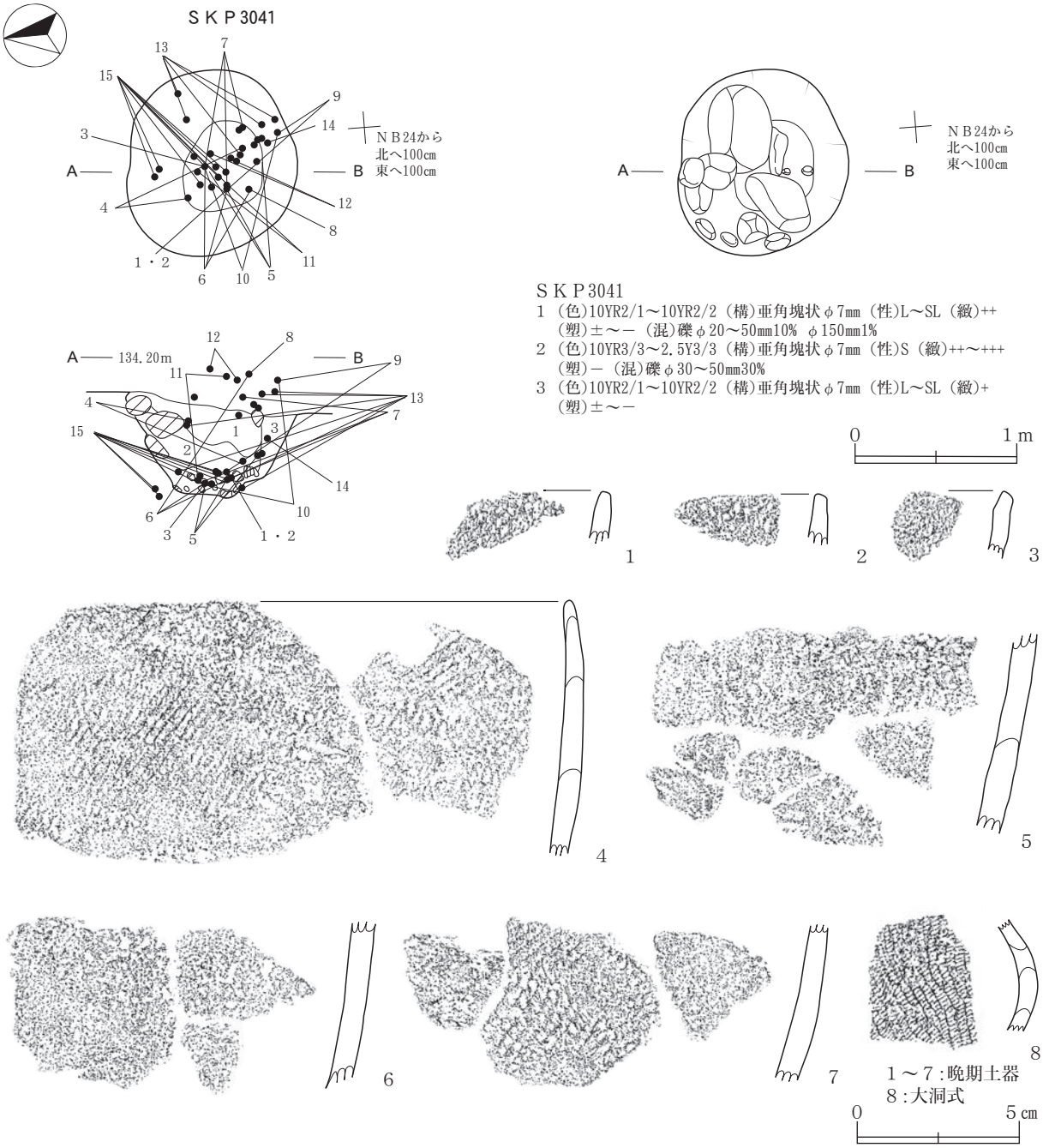


ＳＫＰ3040
1 （色）10YR2/2（構）亜角塊状φ7mm（性）L（緻）+（塑）±～－（混）礫5%
Ⅻ層由来土ブロックφ5～10mm1%（備）柱抜去
2 （色）10YR3/2～4/2ブロック（構）亜角塊状φ7～10mm（性）SL
（緻）+～++（塑）±～－（混）Ⅻ層由来土ブロックφ10～50mm20%
3層との層界に礫（備）柱抜去
3 （色）10YR2/2～3/2マトリクス 10YR3/2～4/2ブロック
（構）亜角塊状φ7～10mm（性）SL（緻）+～++（塑）± 1・2層より+
（混）Ⅻ層由来土ブロック10%（備）柱抜去
4 （色）10YR3/3～4/2（構）亜角塊状φ7～10mm（性）S～SL
（緻）+～++（塑）±～－（備）掘方埋土
5 （色）10YR4/3（構）亜角塊状φ7～10mm（性）S（緻）++（塑）－
（混）礫φ10～30mm30%（備）掘方埋土

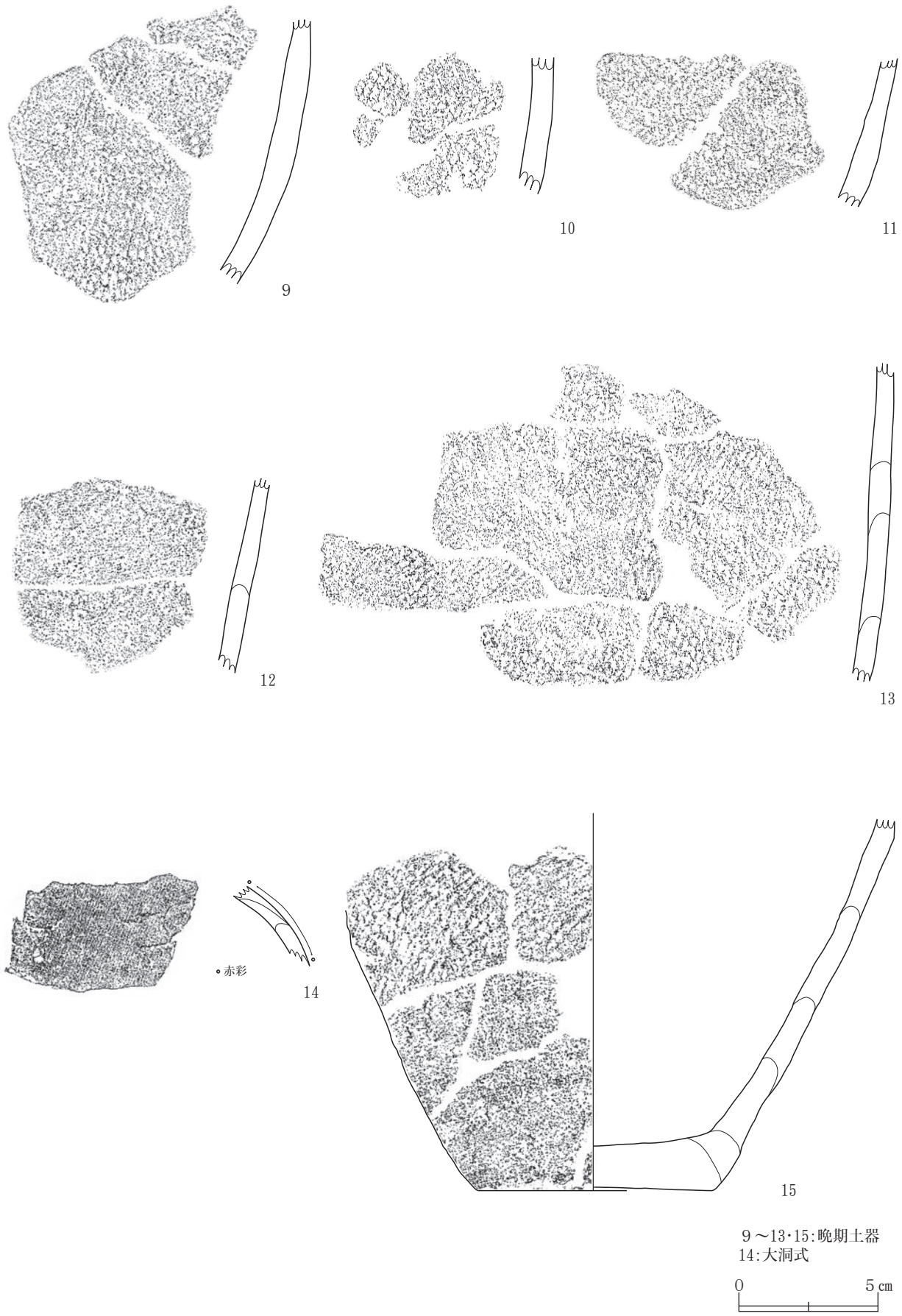
第127図　ＳＫＰ3040柱穴、出土土器



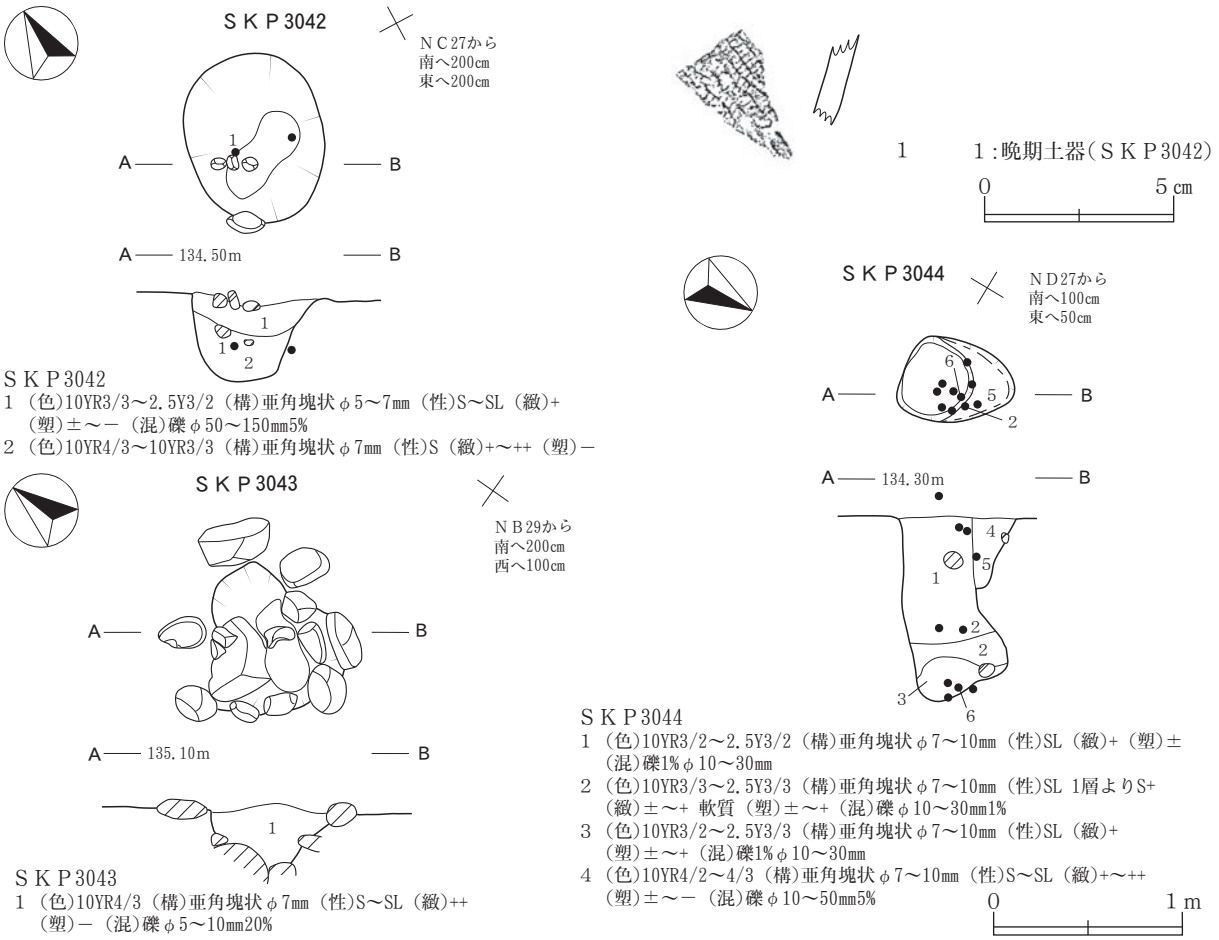
第128図　ＳＫＰ3040柱穴出土石器



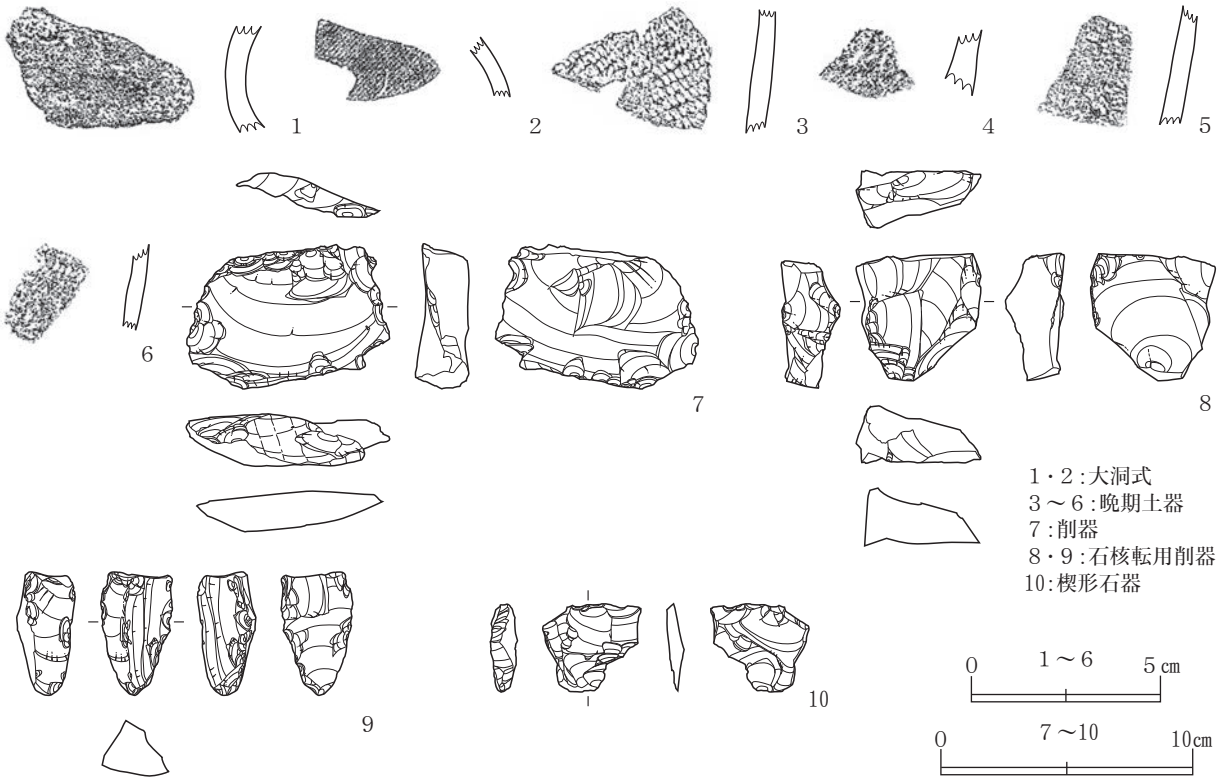
第129図　ＳＫＰ3041柱穴、出土土器



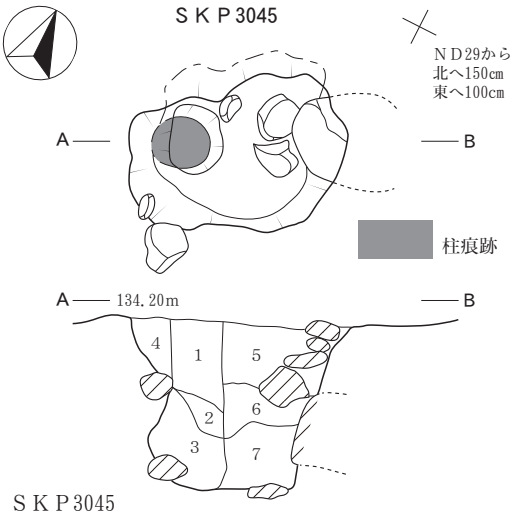
第130図　ＳＫＰ3041柱穴出土土器



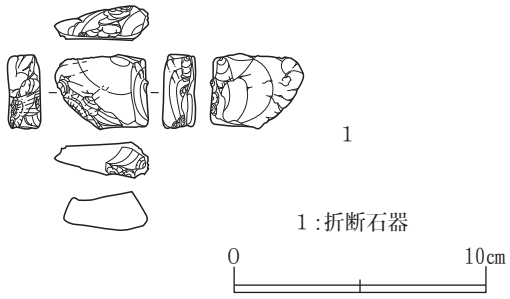
第131図　ＳＫＰ3042・3043・3044柱穴、ＳＫＰ3042柱穴出土土器



第132図　ＳＫＰ3044柱穴出土土器・石器



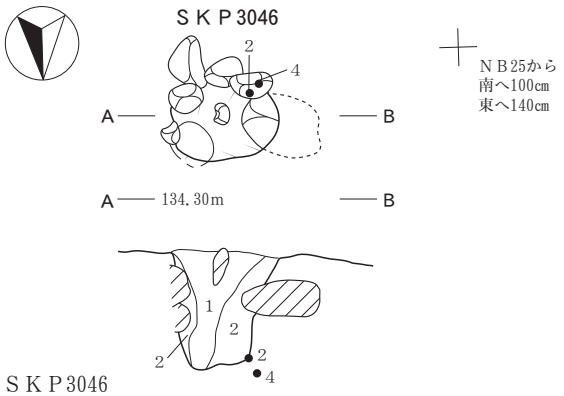
ＳＫＰ3045
1 (色)10YR3/1マトリクス 10YR3/2～10YR4/3ブロック
(構)亜角塊状φ7～10mm (性)L (緻)+～++ (塑)±
(混)Ⅻ層由来土ブロックφ10～20mm5% 礫φ30～50mm10%
炭化物φ5～10mm1% (備)柱抜去
2 (色)10YR3/2マトリクス 10YR4/3ブロック
(構)亜角塊状φ7～10mm (性)L 1層よりC+ (緻)++
(塑)± 1層より+ (混)Ⅻ層由来土ブロックφ10～20mm5%
礫φ50～70mm10% 炭化物φ5～10mm1% (備)柱抜去



3 (色)10YR3/1 (構)亜角塊状φ7～10mm (性)L 2層よりC+
(緻)+ (塑)±～+ (混)Ⅻ層由来土モヤ状1% 炭化物φ5mm±
礫φ10mm3% (備)柱抜去
4 (色)10YR3/1マトリクス 10YR3/2～10YR4/3ブロック
(構)亜角塊状φ7～10mm (性)L (緻)+～++ (塑)±
(混)Ⅻ層由来土φ20～30mm10% 礫φ30～50mm20～30%
(備)柱抜き取り時に遺構の肩が崩れた層
5 (色)10YR4/2～2.5Y3/2 (構)亜角塊状φ7～10mm
(性)SL (緻)++ (塑)－ (混)Ⅻ層由来土φ20～50mm10%
礫φ70～150mm20～30% (備)掘方埋土
6 (色)2.5Y3/1 (構)亜角塊状φ7～10mm (性)L (緻)++ (塑)±～－
(混)礫φ10mm3% (備)掘方埋土
7 (色)2.5Y3/1 (構)亜角塊状φ10mm (性)S～SL (緻)+～++
(塑)±～－ (混)礫φ10mm3～5% (備)掘方埋土 グライ化

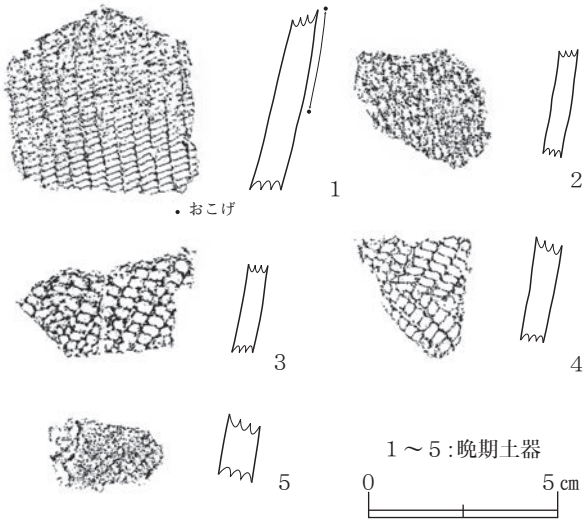
0　1m

第133図　ＳＫＰ3045柱穴、出土石器

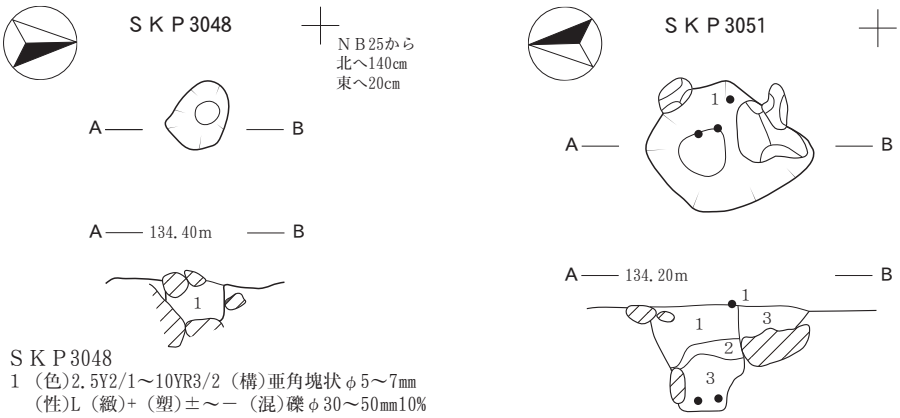


ＳＫＰ3046
1 (色)2.5Y2/1～10YR3/2 (構)亜角塊状φ5～7mm (性)L (緻)+
(塑)±～－ (混)礫φ30～50mm10%
2 (色)10YR3/2 (構)亜角塊状φ5～7mm (性)L (緻)+ (塑)±～－
(混)礫φ30～50mm10～20%

0　1m



第134図　ＳＫＰ3046柱穴、出土土器



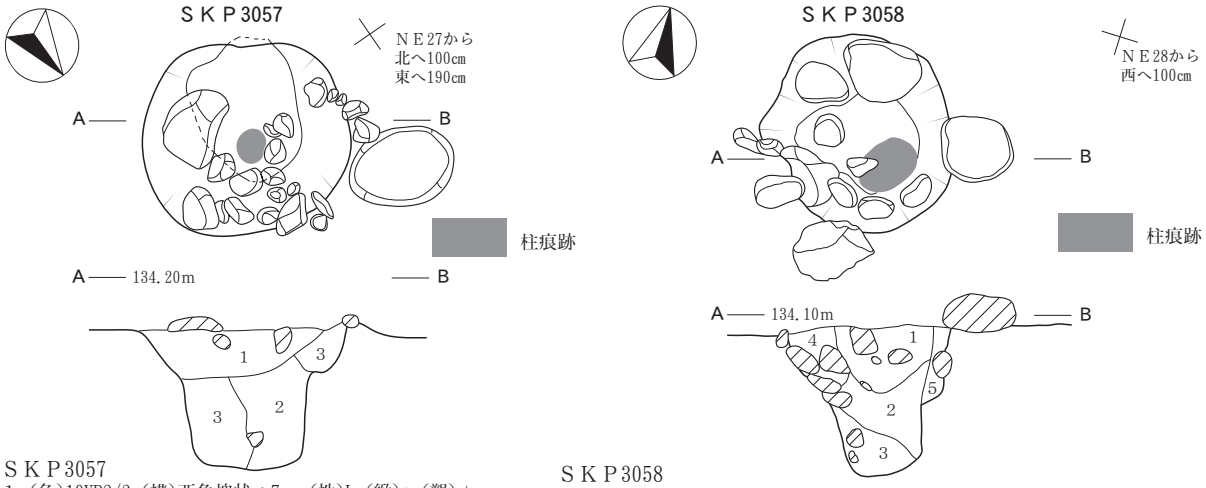
ＳＫＰ3048
1 (色)2.5Y2/1～10YR3/2 (構)亜角塊状φ5～7mm
(性)L (緻)+ (塑)±～－ (混)礫φ30～50mm10%

ＳＫＰ3051
1 (色)10YR3/3～10YR4/2
(構)亜角塊状φ7～10mm
(性)L～SL (緻)+ (塑)±
(混)礫φ10mm1～3%
2 (色)10YR3/1～10YR2/2
(構)亜角塊状φ7mm (性)L
(緻)+ (塑)+
3 (色)10YR3/3～10YR4/2
(構)亜角塊状φ7～10mm
(性)L～SL (緻)+ (塑)±
(混)礫φ10mm1～3%

0　1m

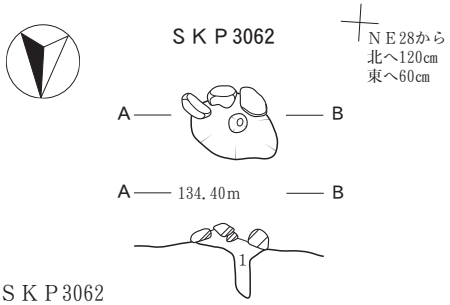
第135図　ＳＫＰ3048・3051柱穴

第136図　ＳＫＰ3048・3051柱穴出土土器

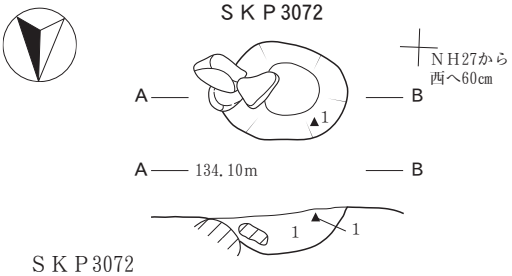


ＳＫＰ3057
1（色)10YR2/2（構)亜角塊状φ7㎜（性)L（緻)+（塑)±
(混)礫φ50～200㎜3%　Ⅻ層由来土斑状φ20～30㎜1%
Ⅻ層由来土ブロックφ20～30㎜1%（備)柱抜去
2（色)10YR2/2マトリクス 10YR3/2ブロック（構)亜角塊状
φ7㎜（性)L 1層よりC+（緻)+（塑)± 1層より+
(混)礫φ150㎜1%　Ⅻ層由来土ブロックφ10～30㎜1%
(備)柱抜去
3（色)10YR2/2 10YR3/3（構)亜角塊状φ7㎜（性)10YR2/2はL
10YR3/3はS～SL（緻)+（塑)±～－
(混)Ⅸa・Ⅻ層土ブロックφ30～50㎜50%　礫φ100㎜1%
(備)掘方埋土

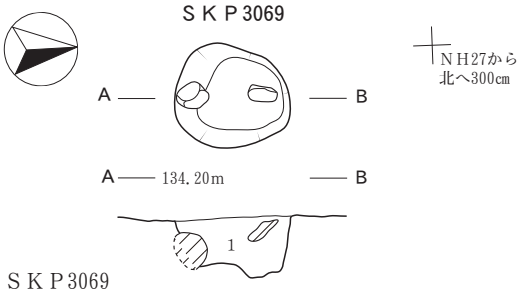
ＳＫＰ3058
1（色)10YR2/2マトリクス 10YR3/2～10YR3/3 ブロック（構)亜角塊状φ7㎜
(性)L（緻)+（塑)±（混)10YR2/2～3/3φ3～30㎜3%モヤ状
礫φ50～150㎜3%（備)柱抜去
2（色)10YR2/2マトリクス 10YR3/3～10YR4/3ブロック（構)亜角塊状φ7㎜
(性)L(Si+)（緻)+（塑)±～+（混)礫少 Ⅻ層由来土ブロック3～5%
φ5～10㎜　炭化物φ3～5㎜1%（備)柱抜去
3（色)10YR2/2マトリクス 10YR3/3～10YR4/3 ブロック（構)亜角塊状φ7㎜
(性)L(Si+)（緻)+（塑)±～+（混)Ⅻ層由来土ブロックφ10～30㎜20%
(備)柱抜去
4（色)10YR2/2マトリクス 10YR3/2～10YR3/3ブロック（構)亜角塊状φ7㎜
(性)L（緻)+（塑)±（混)礫φ150㎜30～40%（備)掘方裏込
5（色)10YR2/2マトリクス 10YR3/2～10YR3/3ブロック（構)亜角塊状φ7㎜
(性)L（緻)+（塑)±（混)礫φ150㎜30～40%（備)掘方裏込



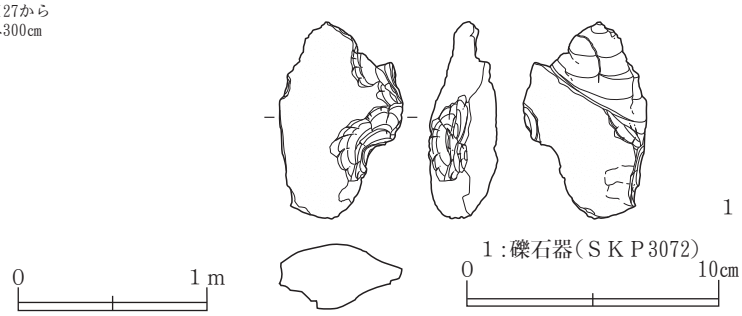
ＳＫＰ3062
1（色)10YR3/2～10YR3/3（構)亜角塊状φ7㎜
(性)SL（緻)+（塑)－



ＳＫＰ3072
1（色)10YR3/2（構)亜角塊状φ7㎜（性)SL～S（緻)+（塑)－
(混)礫φ10～30㎜1%　Ⅻ層由来土φ10㎜斑状5%



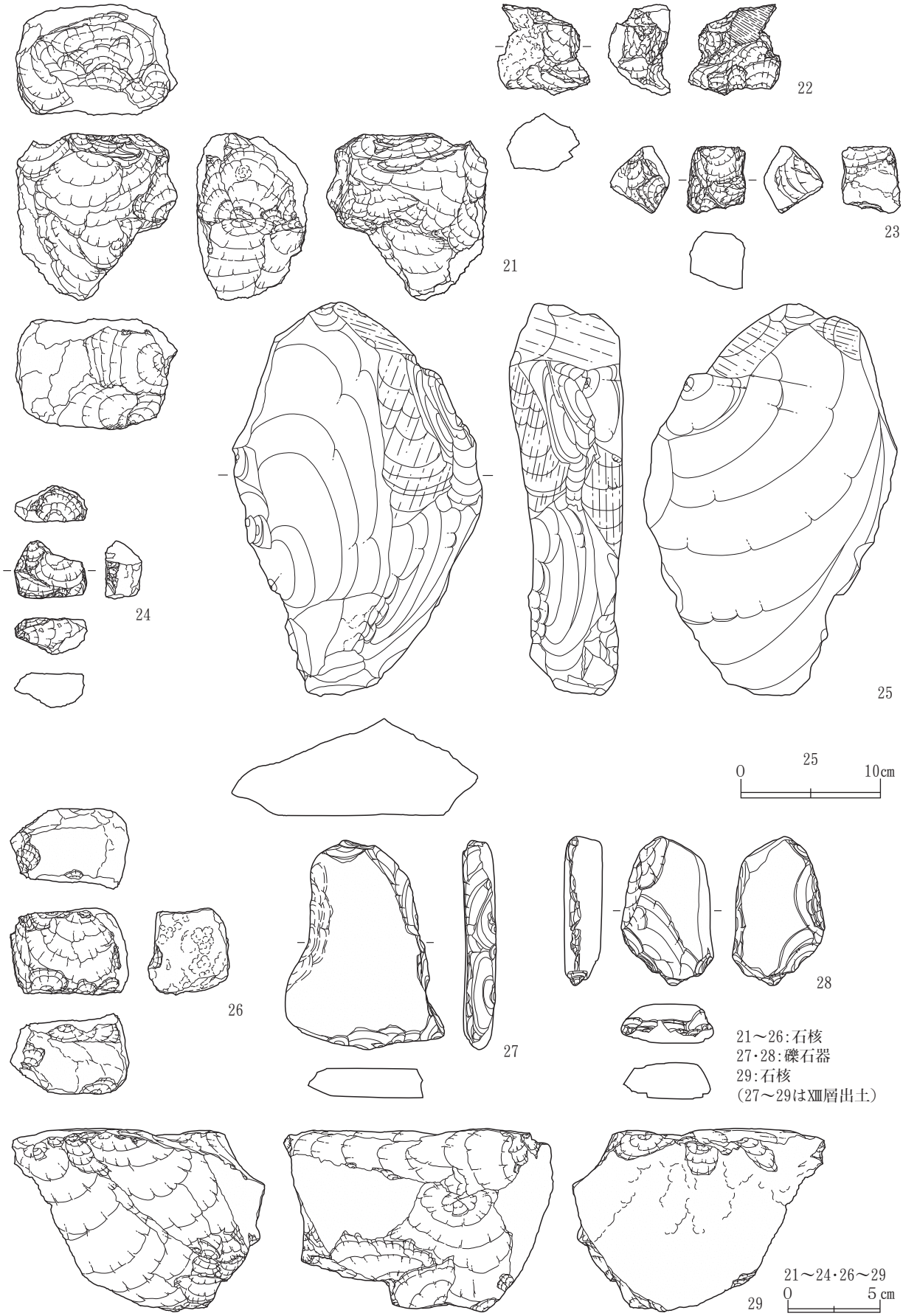
ＳＫＰ3069
1（色)10YR3/3マトリクス 10YR3/4～10YR4/3ブロック
(構)亜角塊状φ7㎜（性)SL～S（緻)+（塑)－
(混)Ⅻ層由来土φ30㎜10% 礫φ100～200㎜3%



第137図　ＳＫＰ3057・3058・3062・3069・3072柱穴、ＳＫＰ3072柱穴出土石器

第138図　遺構外出土石器

第139図　遺構外出土石器



第140図　遺構外出土石器

第19表　縄文土器観察表（１）

挿図	遺構	時期	器種	部位	備考
18図1	SKI1075	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土砂多　焼成軟質
18図2	SKI1075	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土砂多　焼成軟質　内面ミガキ
19図4	SKP1054	晩期	深鉢	胴	粗製　無文　外面と割れ口にアスファルト付着
22図1	SKI1078	大洞C1	鉢	口	内外面及び割れ口にアスファルト付着
22図2	SKI1078	大洞C1	鉢	口	焼成良好　内外面ミガキ
22図3	SKI1078	大洞C1	鉢	口	単節RL　胎土やや砂混質　焼成やや軟
22図4	SKI1078	大洞C1	鉢	胴	単節LR　焼成良好　内外面ミガキ
22図5	SKI1078	晩期	深鉢	口	粗製　単節RL　胎土やや砂混　海綿状骨針ごく僅かに混
22図6	SKI1078	晩期	深鉢	口	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好
22図7	SKI1078	晩期	深鉢	口	粗製　単節RL　胎土砂含む　焼成良好　内面ミガキ
22図8	SKI1078	晩期	深鉢	口	粗製　単節RL　焼成やや軟質　内外面におこげ状の付着物
22図9	SKI1078	晩期	深鉢	口	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ
22図10	SKI1078	晩期	深鉢	底	単節RL　焼成やや軟質
22図11	SKI1078	晩期	深鉢	底	無文　胎土砂多い　焼成通有　内面ミガキ
22図12	SKI1078	晩期	深鉢	底	単節RL　胎土砂多い
25図1	SB3071	晩期	深鉢	胴	P2出土　粗製　単節RL　焼成良好　内面ミガキ
25図2	SB3071	大洞C1	浅鉢or皿	胴	P3出土　単節LR　胎土精緻　焼成良好　内外面ミガキ
25図3	SB3071	晩期	深鉢	胴	P4出土　粗製　単節LR　胎土やや砂多い　焼成やや軟質　内面ミガキ
25図4	SB3071	晩期	深鉢	胴	P4出土　粗製　単節LR　胎土砂多い
27図1	SA1038	晩期	深鉢	口	P2出土　粗製　胎土砂目立つ　焼成良好　内面横方向ミガキ　1～3同一個体
27図2	SA1038	晩期	深鉢	胴	P2出土　粗製　胎土砂目立つ　焼成良好　内面横方向ミガキ　1～3同一個体
27図3	SA1038	晩期	深鉢	底	P2出土　粗製　胎土砂目立つ　焼成良好　内面横方向ミガキ　1～3同一個体
27図4	SA1038	晩期	深鉢	胴	P1出土　粗製　単節LR　焼成軟質
27図5	SQ1037	晩期	深鉢	胴	粗製　無節か　胎土砂多い　焼成軟質
27図6	SQ1039	大洞C1	浅鉢	口	単節LR　胎土良好　焼成軟質
27図7	SQ1073	晩期	深鉢	胴	粗製　焼成良好　地文施文後に削り　内面ミガキ
36図1	SA3030	大洞BC	鉢	口	P1出土　胎土精緻　焼成硬質　内外面ミガキ　内面にはおこげ付着
36図2	SA3030	大洞BC	深鉢	口	P1出土　胎土精緻　焼成良好　内外面ミガキ
36図3	SA3030	大洞BC	深鉢	口	P1出土　胎土砂多い　焼成良好
36図4	SA3030	大洞	壺	胴	P1出土　単節LR　胎土砂多い　焼成良好　内面ナデ
36図6	SA3030	大洞C1	鉢	口	P2出土　単節RL　胎土精緻　焼成硬質　内面ミガキ
36図7	SA3030	晩期	深鉢	口	P2出土　粗製　胎土砂目立つ　焼成硬質　地文施文後　外面ナデ　内面ミガキ
36図8	SA3030	大洞BC	注口	胴	P2出土　胎土精緻　焼成良好　外面ミガキ　内面ナデ
36図9	SA3030	大洞C1	鉢	胴	P2出土　胎土精緻　焼成やや軟質　帯縄文施文　外面摩滅　内外面ミガキ
38図1	SA3031	大洞BC	鉢	口	P1出土　単節LR　胎土良好　焼成硬質　内面ミガキ　内外面におこげ付着
38図2	SA3031	大洞C1	鉢	口	P1出土　単節RL　胎土やや砂多い　焼成良好　口縁上端内側に沈線1条　内面ミガキ　おこげ付着
38図3	SA3031	大洞C1	鉢	口	P1出土　胎土良好　焼成軟質　口縁上端内側に沈線1条　内外面ミガキ
38図4	SA3031	大洞BC	鉢	胴	P1出土　内外面ミガキ
38図5	SA3031	大洞BC	注口	胴	P1出土　胎土やや砂多い　焼成硬質　外面ミガキ　内面ナデ　胴部上半と下半の接合部に指頭圧痕残る
38図6	SA3031	大洞BC	浅鉢	胴	P1出土　単節LR　胎土良好　焼成良好　外面おこげ付着　内面ミガキ
38図7	SA3031	大洞BC	壺	胴	P1出土　胎土良好　焼成良好　外面おこげ付着　内面ミガキ　指頭圧痕残る
38図8	SA3031	大洞BC	鉢	胴	P1出土　胎土精緻　焼成良好　内外面ミガキ
38図9	SA3031	大洞C1	鉢	胴	P1出土　単節LR　胎土良好　焼成硬質　内面ミガキ
38図10	SA3031	大洞C1	深鉢	胴	P1出土　単節LR　胎土精緻　焼成硬質　内面ミガキ　内外面におこげ付着
38図11	SA3031	大洞C1	深鉢	胴	P1出土　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ
38図12	SA3031	大洞C1	壺	胴	P1出土　単節RL　胎土砂目立つ　焼成硬質　内面ナデ
38図13	SA3031	晩期	深鉢	口	P1出土　単節LR　胎土砂多い　焼成軟質　内外面おこげ付着
38図14	SA3031	晩期	深鉢	口	P1出土　単節RL　胎土砂目立つ　焼成良好　内面ミガキ
38図15	SA3031	晩期	深鉢	底	P1出土　単節RL　地文を横方向に幅2～3cmで施文を繰り返し羽状とする　胎土良好　砂目立つ　焼成良好　内面ミガキ　おこげ付着
38図16	SA3031	晩期	深鉢	底	P1出土　単節RL　胎土良好　焼成良好
39図22	SA3031	大洞BC	深鉢	口	P2出土　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ
39図23	SA3031	大洞C1	鉢	口	P2出土　口縁上部内側に沈線1条　内外面ミガキ
39図24	SA3031	晩期	深鉢	口	P3出土　胎土砂含む　焼成軟質
39図25	SA3031	大洞BC	深鉢	口	P3出土　単節RL　胎土砂目立つが良　焼成良好　内面ミガキ
39図26	SA3031	晩期	深鉢	口	P3出土　粗製　単節RL　胎土砂目立つ　焼成軟質
39図27	SA3031	晩期	深鉢	口	P3出土　粗製　単節LR　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ
39図28	SA3031	晩期	深鉢	口	P3出土　粗製　単節RL　胎土砂目立つが良　焼成良好　内面ミガキ
39図34	SA3031	大洞C1	鉢	口	P5出土　単節RL　口唇1条、口縁部上部1条の沈線　胎土砂目立つ　焼成良好　内面頸部屈曲部下から胴部上半に幅2cmの帯状におこげ付着　第39図35・36と同一個体
39図35	SA3031	大洞C1	鉢	口	P5出土　単節RL　口唇1条、口縁部上部1条の沈線　胎土砂目立つ　焼成良好　内面頸部屈曲部下から胴部上半に幅2cmの帯状におこげ付着　第39図34・36と同一個体
39図36	SA3031	大洞C1	鉢	口	P5出土　単節RL　口唇1条、口縁部上部1条の沈線　胎土砂目立つ　焼成良好　内面頸部屈曲部下から胴部上半に幅2cmの帯状におこげ付着　第39図34・35と同一個体
39図37	SA3031	大洞C1	鉢	口	P6出土　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ
39図38	SA3031	大洞C1	深鉢	口	P6出土　単節RL　胎土砂目立つ　焼成良好だが被熱により器面粗れる　内外面おこげ付着
39図39	SA3031	大洞BC	浅鉢or皿	胴	P6出土　胎土精緻　焼成硬質　内外面ミガキ
39図40	SA3031	大洞BC	注口	胴	P6出土　胎土精緻　焼成硬質　内外面ミガキ　壺か

第20表　縄文土器観察表（２）

挿図	遺構	時期	器種	部位	備考
39図41	SA3031	大洞BC	注口or壺	胴	P6出土　胎土砂多い　焼成やや軟質　内外面風化
39図42	SA3031	大洞BC	注口or壺	胴	P6出土　単節LR　胎土精緻　焼成硬質　内外面ミガキ
39図43	SA3031	大洞	台付鉢	台	P6出土　胎土精緻　焼成やや軟質　透かし入る
39図45	SA3031	大洞	鉢	口	SN1出土　無節Lを施文後ナデ　胎土砂目立つ　焼成良好　内面ナデ
40図1	SKP3079	大洞BC	鉢	口	外面おこげで覆われ文様不明　胎土砂目立つ　焼成良好　内面ナデ
40図2	SKP3079	大洞BC	鉢	口	胎土精緻　焼成硬質　内外面ミガキ　口唇部におこげ付着
40図3	SKP3079	大洞BC	壺	胴	胎土海綿状骨針含む　焼成硬質　内外面ミガキ
41図1	SR1067	大洞C1	鉢	口	単節LR　幅3cmで条の向きを逆転し羽状とする　胎土良好　僅かに海綿状骨針含む　焼成良好　内面ミガキ
41図2	SR1067	晩期	深鉢	胴	粗製　無文　胎土通有　焼成軟質　外面風化
41図3	SR1067	晩期	鉢	胴	粗製　無文　胎土精緻　焼成軟質　内外面ミガキ　浅鉢か
42図1	SR3081	晩期	深鉢	口	粗製　単節RL　胎土砂多い　焼成やや軟質　外面おこげ付着　内面ミガキ
42図2	SR3081	晩期	深鉢	胴	粗製　単節LR　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ
42図3	SR3081	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ
42図4	SR3081	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ
42図5	SR3081	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土砂目立つ　焼成軟質
42図6	SR3081	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土砂目立つ　焼成良好
42図7	SR3081	晩期	深鉢	胴	粗製　地文施文後ナデ　胎土砂目立つ　焼成良好
42図8	SR3081	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ
42図9	SR3081	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ
42図10	SR3081	晩期	深鉢	胴	粗製　胎土砂目立つ　焼成やや軟質　外面剥落　内面ミガキ
42図11	SR3081	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土砂目立つ　焼成良好　内面ミガキ
46図1	SQ1006	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土砂目立つ　焼成やや軟質　内面ミガキ
46図2	SQ1006	晩期	深鉢	胴	単節RL　胎土精緻　焼成硬質　内面ミガキ
48図1	SQ1007	晩期	深鉢	口	粗製　単節RL　胎土やや砂混　焼成良好　内面ミガキ
54図1	SQ1010	晩期	深鉢	胴	粗製　地文施文後ナデ　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ
54図2	SQ1010	晩期	鉢	胴	単節RLとLRの羽状　胎土良好　焼成硬質　内面ミガキ　おこげ付着
58図1	SQ1013	大洞C1	浅鉢	口	単節RL　胎土精緻　焼成硬質　内面ミガキ
58図2	SQ1013	大洞C1	浅鉢	口	胎土砂多い　被熱のため器壁の粗れが著しい　内面ミガキ
58図3	SQ1013	晩期	深鉢	胴	粗製　無節L　胎土砂目立つ　焼成良好　内面ミガキ　おこげ付着
60図1	SQ1014	大洞C1	浅鉢	口	単節LR　胎土精緻　僅かに海綿状骨針含む　焼成良好　内面ミガキ
60図2	SQ1014	晩期	深鉢	口	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ　輪積痕跡を残す
62図1	SQ1015	大洞C1	浅鉢or皿	口	胎土精緻　焼成やや軟質　内外面ミガキ
62図2	SQ1015	晩期	深鉢	口	粗製　胎土良好　焼成良好　口唇部外削ぎ　内外面横ナデ
64図1	SQ1016	晩期	深鉢	口	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ　輪積痕跡を残す
64図2	SQ1016	晩期	深鉢	胴	粗製　胎土砂目立つ　焼成良好　外面は先端平坦な棒状工具を2本1組として条線を格子状に施文　内面ナデ
64図3	SQ1016	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土砂目立つ　焼成良好　内面ミガキ
64図4	SQ1016	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ
64図5	SQ1016	晩期	香炉	取手	無文　胎土砂目立つ　焼成良好　ナデ　指頭圧痕目立つ
69図1	SQ1018	大洞BC	深鉢	口	胎土良好　やや砂目立つ　焼成やや軟質　内面ミガキ
69図2	SQ1018	大洞BC	深鉢	口	胎土やや砂目立つ　焼成軟質　内面ミガキ
69図3	SQ1018	大洞C1	鉢	口	単節LR　胎土精緻　焼成良好　内面ミガキ
69図4	SQ1018	大洞C1	鉢	口	単節RL　胎土良好　焼成良好　内外面おこげ付着
69図5	SQ1018	大洞C1	浅鉢	口	胎土砂多く海綿状骨針目立つ　焼成軟質
69図6	SQ1018	大洞BC	鉢	胴	胎土良好　焼成良好　内外面ミガキ
73図58	SQ1018	晩期	壺	胴	SB1P1　赤彩　胎土良好　焼成軟質　外面ミガキ　内面ナデ
73図59	SQ1018	晩期	壺	胴	SB1P1　赤彩　胎土良好　焼成軟質　外面ミガキ　内面ナデ
73図60	SQ1018	晩期	深鉢	口	SB1P1　粗製　単節RL　胎土良好　砂目立つ　焼成良好　内面ミガキ　補修孔１か所
73図61	SQ1018	晩期	深鉢	胴	SB1P1　粗製　単節RL　胎土良好　焼成やや軟質　内面ミガキ
73図62	SQ1018	晩期	深鉢	胴	SB1P1　粗製　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ
73図63	SQ1018	晩期	深鉢	胴	SB1P1　粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ
73図64	SQ1018	晩期	深鉢	胴	SB1P1　粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ
73図65	SQ1018	晩期	深鉢	胴	SB1P1　粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ
73図66	SQ1018	晩期	深鉢	胴	SB1P1　粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ケズリ
73図67	SQ1018	晩期	深鉢	胴	SB1P1　粗製　胎土良好　焼成軟質　内面ミガキ
73図68	SQ1018	晩期	深鉢	胴	SB1P1　粗製　無文　胎土良好　焼成良好　外面ナデ　内面ミガキ
73図69	SQ1018	晩期	深鉢	胴	SB1P1　粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ
73図70	SQ1018	晩期	深鉢	底	SB1P1　粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ
74図73	SQ1018	十腰内４～５	深鉢	胴	SB1P2　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面おこげ付着
74図74	SQ1018	晩期	深鉢	胴	SB1P2　粗製　単節RL　胎土良好　焼成軟質　被熱によりヒビ　内面ミガキ
74図75	SQ1018	晩期	深鉢	胴	SB1P2　粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ
74図76	SQ1018	晩期	深鉢	胴	SB1P2　粗製　単節RL　胎土砂多い　焼成軟質
74図77	SQ1018	晩期	深鉢	胴	SB1P2　粗製　単節RL　胎土砂目立つ　焼成軟質
74図78	SQ1018	晩期	深鉢	胴	SB1P2　粗製　単節RL　胎土砂多い　焼成やや軟質　被熱によりヒビ
76図1	SQ1019	晩期	深鉢	胴	粗製　胎土砂多い　焼成通有　外面風化　内面ミガキ
81図1	SQ1024	大洞C1	鉢	口	単節RL　口縁部上端内側に沈線1条　胎土良好砂含む　焼成良好　内面ミガキ　内外面おこげ付着
81図2	SQ1024	大洞C1	鉢	口	単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ
81図3	SQ1024	大洞C1	浅鉢	口	単節LR　胎土良好　海綿状骨針含む　焼成やや軟質　内面ミガキ

第21表　縄文土器観察表（３）

挿図	遺構	時期	器種	部位	備考
81図4	SQ1024	大洞	皿	底	胎土良好　細かい砂多い　海綿状骨針含む　焼成良好　内外面ミガキ
81図5	SQ1024	大洞	鉢	胴	内側沈線1条　胎土良好　細かい砂多い　海綿状骨針含む　内外面ミガキ
81図6	SQ1024	大洞	鉢	胴	単節RL　胎土良好　焼成やや軟質　内面ミガキ
81図7	SQ1024	晩期	深鉢	口	粗製　単節RL　胎土良好　砂目立つ　海綿状骨針僅かに含む　焼成良好　内面ミガキ
81図8	SQ1024	晩期	深鉢	底	粗製　単節RL　胴部下端部を地文施文後に横ナデ　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ
81図9	SQ1024	晩期	深鉢	底	粗製　単節RL　胎土砂含む　焼成良好　被熱により風化進む　内面ミガキ
81図10	SQ1024	晩期	深鉢	底	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　底部中央がやや凹み周辺に白色砂が多く付着
90図1	SQ1065	大洞C1	鉢	口	単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ　内外面におこげ付着
90図2	SQ1065	大洞C1	鉢	口	単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ　内外面におこげ付着
90図3	SQ1065	大洞C1	深鉢	口	胎土良好　焼成やや軟質　内面ミガキ
90図4	SQ1065	大洞C1	鉢	口	単節RL　胎土良好　焼成良好　外面ミガキ　内面ナデ
90図5	SQ1065	大洞C1	鉢	胴	胎土良好　細かい砂多い　焼成良好　内面ナデ
90図6	SQ1065	大洞C1	壺	胴	胎土良好　焼成やや軟質　内面ミガキ
90図7	SQ1065	晩期	鉢	底	胎土良好　焼成良好　内外面ミガキ
90図8	SQ1065	晩期	深鉢	口	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　外面風化　内面ミガキ
90図9	SQ1065	晩期	深鉢	口	粗製　単節RL　胎土砂目立つ　焼成やや軟質　内面ミガキ
90図10	SQ1065	晩期	深鉢	口	粗製　単節RL　胎土砂目立つ　焼成やや軟質　内面ミガキ
90図11	SQ1065	晩期	深鉢	口	粗製　単節RL　胎土良好　焼成やや軟質　内面ミガキ
90図12	SQ1065	晩期	深鉢	口	粗製　胎土砂目立つ　焼成良好　外面風化　内面ミガキ
90図13	SQ1065	晩期	深鉢	口	粗製　単節RL　胎土砂含む　焼成やや軟質　内面ミガキ
90図14	SQ1065	晩期	深鉢	口	粗製　単節RL　胎土良好　焼成やや軟質　内面ミガキ
90図15	SQ1065	晩期	深鉢	口	15・16同一個体　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ
90図16	SQ1065	晩期	深鉢	口	15・16同一個体　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ
91図17	SQ1065	晩期	深鉢	口	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ　17～21同一個体
91図18	SQ1065	晩期	深鉢	口	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ　17～21同一個体
91図19	SQ1065	晩期	深鉢	口	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ　17～21同一個体
91図20	SQ1065	晩期	深鉢	口	粗製　胎土良好　焼成やや軟質　外面風化　内面ミガキ　17～21同一個体
91図21	SQ1065	晩期	深鉢	胴	粗製　地文施文後にナデ　胎土良好　焼成やや軟質　内面ミガキ　17～21同一個体
91図22	SQ1065	晩期	深鉢	口	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好
91図23	SQ1065	晩期	深鉢	口	粗製　胎土良好　焼成良好　外面風化
91図24	SQ1065	晩期	深鉢	口	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ
91図25	SQ1065	晩期	深鉢	口	粗製　胎土良好　焼成やや軟質　外面風化　内面ミガキ
91図26	SQ1065	晩期	深鉢	口	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ
91図27	SQ1065	晩期	深鉢	口	粗製　単節RL　胎土白色砂多い　焼成良好　内面ミガキ
91図28	SQ1065	晩期	深鉢	口	粗製　単節RL　胎土良好　焼成やや軟質　内面ミガキ
91図29	SQ1065	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ　29～35同一個体
91図30	SQ1065	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　焼成やや軟質　内面ミガキ　29～35同一個体
91図31	SQ1065	晩期	深鉢	胴	粗製　胎土良好　焼成良好　外面風化　内面ミガキ　29～35同一個体
91図32	SQ1065	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ　29～35同一個体
91図33	SQ1065	晩期	深鉢	胴	粗製　胎土良好　焼成軟質　外面風化　内面ミガキ　29～35同一個体
91図34	SQ1065	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ　29～35同一個体
91図35	SQ1065	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　焼成やや軟質　内面ミガキ　29～35同一個体
92図1	SQ1065	大洞C1	浅鉢	口	地文施文後にナデ　胎土精緻　焼成硬質
92図2	SQ1066	晩期	浅鉢	口	単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ
92図3	SQ1066	晩期	深鉢	口	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面風化
92図4	SQ1066	晩期	深鉢	口	粗製　単節RL　胎土砂目立つ　海綿状骨針僅かに含む　焼成良好　内面ミガキ
92図5	SQ1066	晩期	深鉢	口	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ
92図6	SQ1066	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ　6～13同一個体
92図7	SQ1066	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　焼成やや軟質　外面大きく剥落　内面ミガキ　6～13同一個体
92図8	SQ1066	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　焼成やや軟質　内面ミガキ　6～13同一個体
92図9	SQ1066	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ　6～13同一個体
92図10	SQ1066	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ　6～13同一個体
92図11	SQ1066	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ　6～13同一個体
92図12	SQ1066	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ　6～13同一個体
92図13	SQ1066	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ　6～13同一個体
92図14	SQ1066	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ　14～18同一個体
92図15	SQ1066	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ　14～18同一個体
92図16	SQ1066	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ　14～18同一個体
92図17	SQ1066	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ　14～18同一個体
92図18	SQ1066	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ　14～18同一個体
94図1	SKP2006	晩期	深鉢	胴	粗製　単節LR　撚りが非常に緩い　胎土良好　焼成良好　内面ケズリ
94図2	SKP2006	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ
94図3	SKP2006	晩期	深鉢	胴	粗製　胎土良好　焼成軟質　外面風化
94図4	SKP2006	晩期	深鉢	胴	粗製　無節L　胎土砂目立つ　焼成良好　内面ミガキ
94図5	SKP2006	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ

第22表　縄文土器観察表（４）

挿図	遺構	時期	器種	部位	備考
98図1	SQ3023	大洞BC	鉢	口	内外面赤彩　胎土精緻　焼成硬質
98図2	SQ3023	大洞	鉢	頸	外面黒色顔料塗布　胎土良好　焼成やや軟質　内面ミガキ
98図3	SQ3023	晩期	深鉢	胴	粗製　単節縄文　胎土良好　焼成やや軟質　外面風化　内面ミガキ
98図4	SQ3023	晩期	深鉢	胴	粗製　単節LR　胎土良好　焼成良好　外面おこげ付着　内面ミガキ
98図5	SQ3023	晩期	鉢	胴	単節LR　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ
98図6	SQ3023	晩期	深鉢	胴	粗製　単節LR　胎土砂目立つ　焼成良好　内面ミガキ
98図7	SKP3047	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ
98図8	SKP3047	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ
98図9	SKP3047	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　外面おこげ付着　内面被熱によりクレータ状に剥落
99図1	SQ3049	大洞	鉢	口	口縁上部内側に沈線1条　胎土精緻　焼成良好　内面ミガキ　内外面におこげ付着
99図2	SQ3049	大洞	鉢	口	口縁上部内側に沈線1条　胎土精緻　焼成良好　内面ミガキ
99図3	SQ3049	大洞	浅鉢	底	胎土良好　砂目立つ　焼成良好　内面ミガキ
99図4	SQ3049	大洞	壺	胴	赤彩　胎土良好　焼成軟質　外面ミガキ　内面輪積痕と指頭圧痕残る
99図5	SQ3049	大洞	浅鉢	胴	胎土精緻　焼成良好　内外面ミガキ
99図6	SQ3049	大洞	台付鉢	胴	単節LR　胴下端に沈線1条　胎土良好やや砂多い　焼成良好　内面ミガキ
99図7	SQ3049	晩期	深鉢	胴	粗製　胎土良好　焼成軟質　外面風化
100図1	SKP3053	大洞B2	深鉢	胴	胎土精緻　焼成良好　内外面ミガキ
100図2	SKP3053	大洞C1	深鉢	胴	胎土良好　焼成やや軟質　内面ミガキ
100図3	SKP3053	大洞C1	深鉢	胴	胎土砂目立つ　焼成やや軟質　外面風化
100図4	SKP3054	大洞C1	浅鉢	胴	単節LR　胎土精緻　焼成硬質　内面ミガキ
100図5	SKP3054	大洞C1	鉢	胴	単節LR　胎土精緻　焼成硬質　内面ミガキ
100図6	SKP3054	大洞C1	壺	胴	赤彩　胎土精緻　焼成良好　内面ナデ
100図7	SKP3054	大洞	壺	胴	赤彩　胎土精緻　焼成軟質　外面ミガキ
100図8	SKP3054	晩期	深鉢	口	粗製　単節RL　地文施文後ナデ　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ　内外面おこげ付着
100図9	SKP3054	晩期	深鉢	口	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ
100図10	SKP3054	晩期	深鉢	口	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ　外面輪積痕跡を残す
100図11	SKP3054	晩期	深鉢	口	粗製
100図13	SKP3060	大洞C1	鉢	口	単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ　おこげ付着
100図14	SKP3060	大洞C1	浅鉢	胴	単節LR　胎土精緻　焼成良好　内面ミガキ
100図15	SKP3060	晩期	深鉢	口	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ　内外面おこげ付着
104図1	SQ43・44	晩期	深鉢	胴	粗製　単節LR　胎土良好　砂多い　焼成良好　内面ミガキ
104図2	SQ43・44	晩期	深鉢	胴	粗製　単節LR　胎土良好　砂多い　焼成良好　内面ミガキ
104図3	SQ43・44	晩期	深鉢	胴	粗製　単節LR　胎土良好　砂多い　焼成良好　内面ミガキ
104図4	SQ43・44	晩期	深鉢	胴	粗製　無節L　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ
105図1	SQ275	晩期	深鉢	胴	粗製　単節LR　地文施文後ナデ　胎土砂目立つ　焼成良好　内面ナデ
107図1	SKP1045	大洞BC	深鉢	口	胎土良好　焼成良好　内外面ミガキ
107図2	SKP1045	大洞BC	深鉢	口	胎土良好　焼成良好　内外面ミガキ
107図3	SKP1045	大洞C1	鉢	胴	胎土良好　焼成軟質　外面地文と沈線
107図4	SKP1045	晩期	深鉢	胴	粗製　単節LR　胎土良好　焼成良好　被熱により外面粗れ　内面ミガキ
107図5	SKP1045	晩期	深鉢	胴	粗製　胎土良好　焼成軟質　外面風化
107図6	SKP1045	晩期	深鉢	胴	粗製　胎土良好　砂多い　焼成良好　被熱か　地文施文後ナデ
107図7	SKP1045	晩期	深鉢	胴	粗製　胎土砂多い　焼成軟質　外面被熱により粗れ　内面ミガキ
107図8	SKP1045	晩期	深鉢	胴	粗製　胎土良好　焼成良好　外面風化　内面ミガキ
107図9	SKP1045	晩期	深鉢	胴	粗製　胎土砂目立つ　焼成やや軟質　外面風化
107図10	SKP1045	晩期	深鉢	胴	粗製　胎土砂目立つ　焼成やや軟質　外面風化
107図11	SKP1045	晩期	深鉢	胴	粗製　胎土砂多い　焼成やや軟質　内外面ナデ
107図12	SKP1045	晩期	深鉢	胴	粗製　単節LR　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ　肩部の接合部に指頭圧痕残る
107図13	SKP1045	晩期	深鉢	底	粗製　底部中央の破片を欠く　穿孔か　胎土砂目立つ　焼成良好　外面ケズリ　内面ミガキ
108図1	SK2010	大洞C1	鉢	口	胎土良好　焼成良好　外面剥落　内面ミガキ　内外面おこげ付着
108図2	SK2010	晩期	深鉢	底	粗製　胎土良好　砂多い　焼成やや軟質　外面横ナデ　内面ミガキ
111図1	SKP1041	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　砂目立つ　焼成良好　内面ケズリ
111図2	SKP1041	晩期	深鉢	胴	粗製　胎土良好　焼成良好　外面おこげ付着　内面ナデ
111図3	SKP1041	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土砂多い　焼成やや軟質　内面ミガキ
111図4	SKP1041	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ　外面おこげ付着
111図5	SKP1041	晩期	深鉢	胴	粗製　無文　胎土砂多い　焼成やや軟質
112図1	SKP1043	大洞B2	深鉢	口	胎土良好　焼成良好　内外面ミガキ
112図2	SKP1043	大洞B2	深鉢	胴	単節RL　細身の串状工具を2本1組として斜めにごく粗く条線を施文　胎土良好　砂多い　焼成良好　内面ミガキ　外面おこげ付着
112図3	SKP1043	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ
112図4	SKP1043	晩期	深鉢	胴	粗製　無節L　胎土良好　焼成良好
114図1	SKP1064	晩期	深鉢	胴	粗製　単節LR　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ
116図1	SKP2001	大洞BC	注口	胴	単節LR　胎土精緻　焼成良好　外面ミガキ　内面ナデ
117図1	SKP2002	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　焼成やや軟質　内面ミガキ
117図2	SKP2002	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ
117図3	SKP2003	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　焼成軟質
120図1	SKP2011	大洞C1	鉢	口	単節RL　口縁上部内側に沈線1条　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ　おこげ付着
120図2	SKP2011	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ
120図3	SKP2011	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ
121図1	SKP3002	大洞C1	鉢	口	口縁上部内側に沈線1条　胎土良好　焼成軟質
123図1	SKP3018	大洞	台付鉢	底	胴部と台部の境に沈線1条　胎土良好　焼成軟質
125図1	SKP3034	大洞C1	鉢	口	単節RL　口縁上部内側に沈線1条　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ　おこげ付着
125図2	SKP3034	晩期	深鉢	口	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ナデ

第23表　縄文土器観察表（５）

挿図	遺構	時期	器種	部位	備考
125図3	SKP3034	晩期	深鉢	口	粗製　単節LR　胎土良好　焼成良好　内外面おこげ付着
125図4	SKP3034	大洞	浅鉢	胴	内外面漆塗り　胎土精緻　海綿状骨針含む　焼成良好　内外面ミガキ
125図5	SKP3034	大洞	壺	胴	単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ナデ
126図1	SKP3038	大洞	壺	胴	単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ナデ
127図1	SKP3040	大洞	鉢	胴	胎土精緻　焼成硬質　内外面ミガキ　口唇部におこげ付着
127図2	SKP3040	晩期	深鉢	胴	粗製　胎土砂多い　焼成良好　外面風化　内面ミガキ
127図3	SKP3040	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　砂多い　焼成良好　内面ナデ
127図4	SKP3040	大洞	壺	胴	胎土良好　砂目立つ　焼成良好　内面ナデ
127図5	SKP3040	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好
127図6	SKP3040	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ　おこげ付着
127図7	SKP3040	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土砂多い　焼成やや軟質　内面ミガキ　おこげ付着
127図8	SKP3040	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ　内外面おこげ付着
127図9	SKP3040	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ　9・10同一個体
127図10	SKP3040	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ　9・10同一個体
127図11	SKP3040	晩期	深鉢	底	粗製　単節LR　胎土良好　焼成良好　外面胴部下端横ケズリ　内面ミガキ
127図12	SKP3040	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　砂目立つ　焼成良好　内面おこげ付着
129図1	SKP3041	晩期	深鉢	口	粗製　単節LR　胎土良好　焼成良好　口唇平坦にケズリ　内面横ケズリ
129図2	SKP3041	晩期	深鉢	口	粗製　単節LR　胎土良好　焼成良好　口唇平坦にケズリ　外面ナデ　内面横ケズリ
129図3	SKP3041	晩期	深鉢	口	粗製　単節LR　胎土砂多い　焼成軟質　内面横ケズリ
129図4	SKP3041	晩期	深鉢	口	粗製　単節LR　胎土砂多い　焼成軟質　内面横ケズリ
129図5	SKP3041	晩期	深鉢	胴	粗製　単節LR　胎土砂多い　焼成軟質　内面横ケズリ
129図6	SKP3041	晩期	深鉢	胴	粗製　単節LR　胎土砂多い　焼成軟質　内面横ケズリ
129図7	SKP3041	晩期	深鉢	胴	粗製　単節LR　胎土砂多い　焼成軟質　内面横ケズリ
129図8	SKP3041	大洞	壺	胴	単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ナデ
130図9	SKP3041	晩期	深鉢	胴	粗製　単節LR　胎土砂多い　焼成軟質　内面横ケズリ
130図10	SKP3041	晩期	深鉢	胴	粗製　単節LR　胎土砂多い　焼成軟質　内面横ケズリ
130図11	SKP3041	晩期	深鉢	胴	粗製　単節LR　胎土砂多い　焼成軟質　内面横ケズリ
130図12	SKP3041	晩期	深鉢	胴	粗製　単節LR　胎土砂多い　焼成軟質　内面横ケズリ
130図13	SKP3041	晩期	深鉢	胴	粗製　単節LR　胎土砂多い　焼成軟質　内面横ケズリ
130図14	SKP3041	大洞	壺	胴	赤彩　胎土精緻　焼成軟質　内面ミガキ
130図15	SKP3041	晩期	深鉢	底	粗製　単節LR　胎土砂多い　焼成軟質　内面横ケズリ
131図1	SKP3042	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ケズリ
132図1	SKP3044	大洞	壺	胴	胎土良好　焼成やや軟質　内外面ナデ
132図2	SKP3044	大洞	壺	胴	胎土精緻　焼成硬質　内外面ミガキ
132図3	SKP3044	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ
132図4	SKP3044	晩期	深鉢	胴	粗製　無文　胎土良好　焼成やや軟質　内面ミガキ
132図5	SKP3044	晩期	深鉢	胴	粗製　地文施文後ナデ　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ
132図6	SKP3044	晩期	深鉢	胴	粗製　胎土砂多い　焼成軟質　外面風化
134図1	SKP3046	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ナデ
134図2	SKP3046	晩期	深鉢	胴	粗製　単節LR　胎土砂目立つ　焼成やや軟質
134図3	SKP3046	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ
134図4	SKP3046	晩期	深鉢	胴	粗製　単節RL　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ
134図5	SKP3046	晩期	深鉢	胴	粗製　絡条体Lの押圧　胎土良好　焼成良好　内面ミガキ
136図1	SKP3048	大洞C1	鉢	胴	無節R　胎土良好　砂目立つ　焼成良好　内面ナデ
136図2	SKP3051	大洞BC	皿	胴	単節LR　胎土精緻　焼成良好　内面ミガキ

第24表　石器観察表（１）

挿図番号	番号	遺構種別	遺構番号	グリッド	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	特徴
19	3	SKI	1075	MH28	石皿	流紋岩質凝灰岩	14.90	12.80	6.00	2400.0	上下が欠損　表面にくぼんだ磨り面がある
19	5	SKP	1054	MH28	磨製石斧	斑糲岩？	10.21	4.23	2.35	160.0	刃部の刃こぼれを再度研磨
22	13	SKI	1078	MH27	石核転用削器	頁岩	4.65	3.86	1.35	27.4	楔形石器としても利用か　側縁につぶれ
22	14	SKI	1078	MH27	石匙	頁岩	5.05	5.10	1.11	21.6	
23	15	SKI	1078	MH27	折断石器	頁岩	4.63	3.65	1.20	26.0	右側面を折る　縁辺に微細な剥離痕あり
23	16	SKI	1078	MH27	円盤状石製品	凝灰岩	11.00	11.14	1.94	242.6	板状礫素材　背面に一部被熱による変色
23	17	SKI	1078	MH27	折断石器	頁岩	5.14	2.42	1.01	9.4	P1出土　被熱
23	18	SKI	1078	MH27	剥片	頁岩	8.41	6.76	1.72	87.8	ヒンジフラクチャ
23	19	SKI	1078	MH27	剥片	赤玉	2.20	4.15	1.26	12.6	背面と打面は風化した節理面
23	20	SKI	1078	MH27	剥片	赤玉	2.93	1.61	1.34	5.4	P2出土　背面に一部アバタ状の自然面
23	21	SKI	1078	MH27	石核	頁岩	3.43	5.73	3.61	69.6	打面は当初自然面に設定　作業面と打面を入れ替えサイコロ状となる
27	8	SQ	1039	ML23	石核	頁岩	14.85	7.42	3.44	127.0	三角柱を呈する素材を横に用い、1面を作業面として上下方向から剥離
36	5	SA	3030	NG26・27	敲石	頁岩	5.24	6.02	3.19	137.6	P1出土　縁辺に敲打痕多くつぶれ著しい　ベンガラ付着
36	10	SA	3030	NF26	削器	頁岩	4.62	5.17	0.93	25.6	P2出土　素材剥片を中央から折る
37	11	SA	3030	NF26	台石	輝石安山岩	43.00	35.80	10.10	26800.0	P2出土　平面形は不整形で平たい　背腹両面に磨り面がある　赤色顔料？が付着している
38	17	SA	3031	NF27	剥片	頁岩	8.00	10.43	2.05	181.0	P1出土　背面に自然面
38	18	SA	3031	NF27	削器	頁岩	3.82	2.44	0.87	7.6	P1出土　腹面側にアスファルトごくわずかに付着
38	19	SA	3031	NF27	石錐	頁岩	3.83	1.63	0.93	4.8	
38	20	SA	3031	NF27	異形石器	頁岩	2.30	1.30	0.25	0.7	P1出土　ごく薄い剥片を折り小口面から背腹両面を調整
39	21	SA	3031	NF27	石核	頁岩	10.90	4.11	3.74	190.6	P1出土　分厚い大形剥片を素材として分割し、背腹両方を打面として折面を作業面とする
39	30	SA	3031	NG25	石鏃	頁岩	2.62	1.42	0.32	0.8	P3出土　赤色頁岩を使用した石鏃は北秋地域では珍しい
39	31	SA	3031	NG25	磨製石斧	輝石安山岩	6.72	4.28	2.27	114.8	P3出土　中央部から折損後、敲石に転用
39	32	SA	3031	NG25	剥片	赤玉	4.94	2.25	2.04	29.6	P3出土　直径50mmの原石を分割
39	33	SA	3031	NG25	円盤状石製品	ﾃﾞｲｻｲﾄ	6.89	4.52	1.29	68.8	P3出土　半円状扁平打製石器にも似るが縁辺を円形に調整後中央より折る
39	44	SA	3031	NG27	削器	頁岩	4.50	6.02	1.00	19.0	P6出土　大形薄手の素材剥片縁辺に刃部を作る　器体を4分割して再生
48	2	SKP	1032	MF26	石鏃	頁岩	3.05	1.65	0.70	2.0	先端と茎部僅かに欠損
50	1	SQ	1009	MF28	石核	赤玉	3.52	5.64	3.17	44.4	
60	3	SQ	1014	MH26	削器	頁岩	2.82	3.45	1.17	12.1	下部土坑出土　玉髄質
60	4	SQ	1014	MH27	UF	頁岩	10.11	7.48	2.85	154.4	
60	5	SQ	1014	MH26	削器	頁岩	10.38	5.02	1.83	78.0	下部土坑出土　素材剥片打面部被熱
62	3	SQ	1015	MG28	剥片	赤玉	2.75	2.72	1.36	10.2	自然面一部残る　ベンガラ素材だが風化していない
64	6	SQ	1016	MH28	楔形石器	玉髄	3.21	3.66	1.46	15.1	素材剥片腹面に作業面を設置
64	7	SQ	1016	MH28	石核	玉髄	5.87	4.66	2.10	52.4	石核転用削器か
64	8	SQ	1016	MH28	石核	頁岩	4.15	4.21	2.58	33.8	
64	9	SQ	1016	MH28	石核	赤玉	3.80	8.18	3.85	237.4	風化してアバタ状となる外皮を剥離　ベンガラ素材
69	7	SQ	1018	MI25 A-1	石鏃	頁岩	2.64	1.05	0.48	1.2	基部両面にアスファルト付着
69	8	SQ	1018	MI25	石鏃	頁岩	5.22	2.17	0.65	6.0	
69	9	SQ	1018	MI26	土掘具	玉髄	17.3	4.74	3.40	369.0	クラスタ10出土　大形で分厚い剥片を素材　分割後、背腹面と分割面を粗く調整
69	10	SQ	1018	MJ26	削器	頁岩	8.24	6.36	2.31	135.6	大形の楔形石器または両極石核を転用
69	11	SQ	1018	MJ25	削器	頁岩	4.89	4.66	1.40	30.8	素材剥片の腹面側に調整が進む
69	12	SQ	1018	MI25 B-3	削器	頁岩	3.86	5.81	1.37	29.6	
69	13	SQ	1018	MI26	削器	頁岩	7.01	5.64	1.16	52.8	素材剥片腹面側に調整が進む
69	14	SQ	1018	MJ26	石核転用削器	頁岩	4.66	2.91	1.84	28.8	側面を折る
69	15	SQ	1018	MJ27	石核転用削器	頁岩	5.36	3.98	1.40	31.0	側面を折り調整
69	16	SQ	1018	MJ26	石核転用削器	頁岩	9.40	7.48	3.37	209.8	素材剥片腹面側に大きく剥離　背面は自然面が残る　縁辺に刃部を設定
69	17	SQ	1018	MI24	石篦	頁岩	5.92	3.87	1.38	37.2	背面に自然面残る　縁辺を調整
70	18	SQ	1018	MJ26	礫石器	輝石安山岩	17.30	11.32	6.00	1300.0	大形の分厚い剥片の縁辺に背腹交互剥離を施して刃部とする　チョッピング・トゥール状となる
70	19	SQ	1018	MI24	礫石器	頁岩	10.90	7.64	2.45	257.8	大形剥片の縁辺に刃部を設置
70	20	SQ	1018	MI26	礫石器	無斑晶質安山岩	7.25	7.48	2.83	156.6	大形剥片の背面から腹面へ調整
70	21	SQ	1018	MI26	礫石器	頁岩	7.23	8.92	2.55	216.8	角礫の縁辺に調整を施し刃部とする
70	22	SQ	1018	MI26	台石	輝石安山岩	40.70	20.20	16.80	15400.0	平面形は不整形　横断面は三角形　背腹両面に浅くくぼんだ磨り面がある
70	23	SQ	1018	MI26	台石	輝石安山岩	20.60	21.00	19.60	11100.0	球形　全体に敲打痕？がある　腹面に小さい凹面がある
70	24	SQ	1018	MC25	台石	輝石安山岩	31.4	19.10	12.80	10900.0	平面形は不整形　横断面は三角形　背面に浅くくぼんだ磨り面がある
70	25	SQ	1018	MJ29	敲石	輝石安山岩	9.65	9.54	7.67	1000.0	やや平たい球形　背腹両面に敲打痕がある
70	26	SQ	1018	MJ26	敲石	輝石安山岩	16.50	15.80	10.90	4300.0	やや平たい球形　左側面に敲打痕？がある
70	27	SQ	1018	MJ26	石皿	石英含有輝石安山岩	(20.00)	(13.90)	8.20	2400.0	左側面から下部にかけて欠損しているため判然としないが、平面形は楕円形と推定される　背面に浅くくぼんだ磨り面がある　腹面に小さい凹面がある
70	28	SQ	1018	MJ27	石皿	輝石安山岩	32.20	26.90	9.30	9800.0	平面形は楕円形　背面にくぼんだ磨り面があり、その中央に浅く小さい凹面がある　左側面下部が欠損している
71	29	SQ	1018	MJ26	石皿	石英含有輝石安山岩	30.80	31.60	10.40	15200.0	平面形は楕円形　背面にくぼんだ磨り面がある　下部が欠損している

第25表　石器観察表（２）

挿図番号	番号	遺構種別	遺構番号	グリッド	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	特徴
71	30	SQ	1018	MJ26	磨石	輝石安山岩	24.20	11.20	9.60	4000.0	円筒形で、上下端は丸い　背面上半部が被熱により赤化　背面に磨り面がある　上端に敲打痕がある
71	31	SQ	1018	MJ24	石棒	斑糲岩？	11.37	2.75	2.25	117.0	被熱により変色
71	32	SQ	1018	MK23	円盤状石製品	輝石安山岩	8.64	7.83	2.98	337.0	板状礫素材　背腹両面に自然面残る
71	33	SQ	1018	MI24	RF	玉髄	7.61	5.54	2.61	121.6	背面に自然面残る　腹面側に調整
71	34	SQ	1018	MI25	折断石器	頁岩	6.13	5.00	2.53	62.4	
71	35	SQ	1018	MJ25 D-3	RF	頁岩	4.90	4.06	1.31	17.6	クラスタ11・12出土　縁辺に微細な剥離痕が多い
71	36	SQ	1018	MJ26 D-4	折断石器	頁岩	2.60	5.04	1.10	16.6	炭化物ラミナ出土
71	37	SQ	1018	MI25 A-1	UF	頁岩	3.63	4.49	0.90	12.0	
71	38	SQ	1018	MJ26 D-4	剥片	赤玉	1.90	3.71	1.51	12.4	ベンガラ素材　風化は進んでいない
71	39	SQ	1018	MJ26 D-4	剥片	頁岩	2.35	3.58	0.89	8.6	中央より折れる　剥離方向は背面→腹面
71	40	SQ	1018	MJ27	石核	赤玉	8.30	4.80	4.23	202.2	ベンガラ素材
71	41	SQ	1018	MI26	石核	赤玉	3.40	3.45	2.15	34.2	ベンガラ素材　風化は進んでいない
71	42	SQ	1018	MJ25 D-3	石核	赤玉	4.95	3.50	3.60	74.6	クラスタ11・12出土　ベンガラ素材
72	43	SQ	1018	MI25 B-3	石核	頁岩	2.81	5.35	3.53	61.6	扁平な円礫を分割　分割面を作業面とする
72	44	SQ	1018	MJ25 D-3	石核	赤玉	4.59	2.67	2.77	43.8	クラスタ11・12出土　ベンガラ素材
72	45	SQ	1018	MJ26	石核	頁岩	8.16	8.25	4.60	440.8	内部に節理が発達　打面につぶれが目立つ
72	46	SQ	1018	MJ27	石核	頁岩	7.48	5.70	2.65	119.6	扁平礫の縁辺に作業面を設置　作業面と打面を交互に入れ替える
72	47	SQ	1018	MJ25	有孔石製品	緑色凝灰岩	(1.84)	(1.60)	0.80	2.0	下半部欠損　穿孔は背面→腹面の1方向から　貫通せず
72	48	SQ	1018	MJ25	石刀	?	8.86	3.23	1.19	58.4	47～57は同一個体　1点に打ち付けて壊す　SB1P4上部に埋納
72	49	SQ	1018	MJ25	石刀	?	3.95	2.19	0.57	7.0	47～57は同一個体　1点に打ち付けて壊す　SB1P4上部に埋納
72	50	SQ	1018	MJ25	石刀	?	3.70	2.17	0.71	6.7	47～57は同一個体　1点に打ち付けて壊す　SB1P4上部に埋納
72	51	SQ	1018	MJ25	石刀	?	3.20	1.43	0.39	1.9	47～57は同一個体　1点に打ち付けて壊す　SB1P4上部に埋納
72	52	SQ	1018	MJ25	石刀	?	3.89	1.36	0.26	1.7	47～57は同一個体　1点に打ち付けて壊す　SB1P4上部に埋納
72	53	SQ	1018	MJ25	石刀	?	2.48	2.60	0.45	4.0	47～57は同一個体　1点に打ち付けて壊す　SB1P4上部に埋納
72	54	SQ	1018	MJ25	石刀	?	13.95	3.24	1.28	87.0	47～57は同一個体　1点に打ち付けて壊す　SB1P4上部に埋納
72	55	SQ	1018	MJ25	石刀	?	10.00	3.15	1.19	48.2	47～57は同一個体　1点に打ち付けて壊す　SB1P4上部に埋納
72	56	SQ	1018	MJ25	石刀	?	3.06	1.11	0.77	3.4	47～57は同一個体　1点に打ち付けて壊す　SB1P4上部に埋納
72	57	SQ	1018	MJ25	石刀	?	1.65	1.40	0.30	1.0	47～57は同一個体　1点に打ち付けて壊す　SB1P4上部に埋納
73	71	SQ	1018	MI25	削器	頁岩	5.95	4.68	1.27	28.1	SB1P1出土　刃部縁辺にアスファルト付着　素材剥片の側面と末端を折って整形
73	72	SQ	1018	MI25	剥片	赤玉	3.40	5.54	1.30	20.0	SB1P1出土　ベンガラ素材　蜂の巣状の石英脈内にベンガラが残る
74	79	SQ	1018	MI24	石核	赤玉	4.73	7.41	3.96	182.8	SB1P2出土　ベンガラ素材
82	11	SQ	1024	MJ30	石箆	頁岩	4.87	2.18	1.28	12.0	
82	12	SQ	1024	MJ27	敲石	輝石安山岩	13.60	8.69	7.84	1200.0	平面形は楕円形で、表面上部、左側面に敲打痕がある
82	13	SQ	1024	MJ30	剥片	頁岩(赤)	1.74	2.50	0.47	2.0	
82	14	SQ	1024	MJ29	石核	赤玉	9.35	6.11	4.04	266.0	ベンガラ素材
82	15	SQ	1024	MJ29	石核	赤玉	2.18	2.55	1.92	23.4	自然面をほぼ残す　風化が進んでいない
85	1	SQ	1036	MH29	台石	輝石安山岩	49.90	41.20	15.00	48700.0	平面形は楕円形で平たい　表面に浅く小さい凹面、腹面に被敲打痕がある　衝立状に立って出土
85	2	SQ	1036	MH29	石皿	多孔質輝石安山岩	29.30	23.90	10.20	9200.0	平面形は楕円形　表面にくぼんだ磨り面がある　衝立状に立って出土
85	3	SQ	1036	MG28	石核	頁岩	5.54	4.73	2.23	65.0	大形剥片を分割し、素材剥片の腹面側へ作業面を設定　背面は自然面
85	4	SQ	1036	MG28	石核	頁岩	2.61	4.12	1.63	19.0	大形剥片を分割し、素材剥片の背腹両面に剥離が進行する
87	1	SKP	1060	MJ26	土掘具	頁岩	13.83	6.91	5.70	428.0	亜角柱状の礫を長軸方向の節理面で斜めに分割 尖った側の腹面から背面へ向かって調整を施し先端とする
91	36	SQ	1065	MI26	石鏃	頁岩	4.40	2.46	0.65	4.0	
91	37	SQ	1065	MJ26	台石	輝石安山岩	35.40	25.50	12.10	17700.0	平面形は楕円形で平たい　背面に浅く小さい磨り面がある
91	38	SQ	1065	MJ26	石皿	砂岩	(31.20)	(20.60)	8.20	4600.0	左側面から下部にかけて欠損しているため判然としないが、平面形は隅丸長方形と推定される　背面に浅くくぼんだ磨り面があり、その中央に浅く小さい凹面がある　腹面に浅く小さい凹面がある
92	19	SQ	1066	MI26	石鏃	頁岩	3.21	1.52	0.53	2.0	茎部両面にアスファルト付着　先端と茎部末端を欠損　衝撃剥離か
92	20	SQ	1066	MI26	削器	頁岩	4.36	5.09	1.50	36.0	
92	21	SQ	1066	MI26	削器	頁岩	4.40	2.22	1.16	12.0	刃部抉入する　楔形石器を転用
92	22	SQ	1066	MI26	折断石器	頁岩	6.74	3.25	1.35	30.0	素材剥片の打面側を折る
92	23	SQ	1066	MI26	折断石器	頁岩	4.29	3.09	1.12	19.0	折面に微細な剥離痕
92	24	SQ	1066	MI26	石皿	多孔質輝石安山岩	22.40	15.30	6.70	2900.0	平面形は長円形　背面に浅くくぼんだ磨り面がある 上端と下部が欠損している
94	6	SQ	2007	MQ23	石棒	粘板岩	20.80	3.23	2.23	233.0	器体中央の折面に微細な剥離痕あり　折損後楔として利用か
95	1	SQ	2009	MT29	折断石器	頁岩	5.28	3.56	0.77	16.8	素材剥片を4分割　折面に微細な剥離痕
99	8	SQ	3049	NE26	磨製石斧	変質流紋岩	3.67	1.65	0.66	8.0	小形
99	9	SQ	3049	NE26	削器	頁岩	3.25	3.10	0.71	7.6	折面を再調整
99	10	SQ	3049	NE26	石皿	輝石安山岩	29.70	38.10	10.20	14700.0	平面形は楕円形　背面に浅くくぼんだ磨り面がある 下半部は欠損している
100	12	SKP	3054	NE26	削器	頁岩	7.13	6.27	1.81	71.0	
100	16	SKP	3061	NE26	折断石器	頁岩	3.24	3.92	0.87	11.2	折取過程で器体が縮小

第26表　石器観察表（３）

挿図番号	番号	遺構種別	遺構番号	グリッド	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	特徴
102	1	SQ	3055	NC27	礫石器	輝石安山岩	13.13	7.95	4.20	406.0	分厚い大形剥片の縁辺に作業面を設定し、素材剥片の腹面を打面とする
114	2	SKP	1064	MG27	剥片	赤玉	2.33	3.45	1.02	12.0	ベンガラ素材　風化は弱い
118	1	SKP	2005	MP23	削器	頁岩	2.95	6.41	1.69	25.0	折面からも調整剥離を行う
121	2	SKP	3002	NA25	石核転用削器	玉髄	2.50	5.00	1.58	18.8	素材剥片の側面から背腹両面へ剥離
121	3	SKP	3002	NA25	石核	赤玉	12.44	7.30	4.51	493.6	ベンガラ素材　風化は弱い
123	2	SKP	3018	NC27	礫石器	輝石安山岩	9.00	8.31	2.66	224.0	ベンガラ素材　風化は弱い
125	6	SKP	3034	NA24	石錐	頁岩	6.05	3.2	0.83	13.0	素材剥片を三角形になるように折り、尖端部を錐とする　背面に大きく自然面が残る
125	7	SKP	3034	NA24	UF	頁岩	4.11	7.59	1.98	44.0	
125	8	SKP	3034	NA24	剥片	赤玉	2.42	2.84	2.02	9.0	ベンガラ素材
128	13	SKP	3040	NA24	削器	頁岩	7.18	4.62	1.26	39.8	
128	14	SKP	3040	NA25	削器	頁岩	5.63	3.61	2.02	35.2	刃部は鋸歯縁となる　素材剥片の背面側から腹面へ向かって剥離する
132	7	SKP	3044	NC26	削器	頁岩	5.28	7.87	1.84	95.2	
132	8	SKP	3044	NC26	石核転用削器	頁岩	4.74	4.81	2.36	50.0	縁辺に微細な剥離痕
132	9	SKP	3044	NC26	石核転用削器	頁岩	4.76	2.68	2.55	24.0	
132	10	SKP	3044	NC26	楔形石器	頁岩	3.42	3.99	0.92	13.0	
133	1	SKP	3045	NC29	折断石器	頁岩	2.89	3.49	1.26	18.8	素材剥片を4分割し折れ面を調整　水磨されておりⅩⅢ層出土の石器と似る
137	1	SKP	3072	NH27	礫石器	輝石安山岩	7.85	4.89	2.49	89.8	
138	1	－	－	MJ30	石鏃	頁岩	3.22	0.87	0.46	1.0	
138	2	－	－	MH24	土掘具	安山岩(新第三紀)	15.4	6.28	3.38	4.4	分厚い大形横長剥片の打面部と末端に粗い調整を施して撥形に整形する
138	3	－	－	MG27	削器	頁岩	7.37	5.60	1.10	49.6	
138	4	－	－	ND24	石核転用削器	頁岩	6.65	7.00	3.25	203.0	表面は水磨される　縁辺に微細な剥離痕やつぶれが目立つ
138	5	－	－	MF28	礫石器	頁岩	9.84	5.54	2.52	148.4	板状礫の縁辺に作業面を設定する
138	6	－	－	MP23	礫石器	頁岩	12.10	10.22	3.85	653.0	扁平な礫の縁辺に作業面を設定する
138	7	－	－	ND23	礫石器	頁岩	8.70	4.47	2.46	108.0	分厚い剥片を分割
138	8	－	－	MG27	石皿	輝石安山岩	26.40	16.20	9.40	5800.0	欠損が多いため判然としないが、平面形は隅丸長方形と推定される　背面に浅くくぼんだ磨り面がある　右側面から下部にかけて欠損している
138	9	－	－	NB27	石皿	多孔質輝石安山岩	24.90	13.80	5.50	2700.0	平面形は長円形　背面にくぼんだ磨り面がある　表面右半が被熱により赤化している　下端が欠損している
138	10	－	－	MF27	石皿	輝石安山岩	16.70	13.20	9.00	2800.0	左側面から下部にかけて欠損しているため判然としないが、平面形は楕円形と推定される　背面にくぼんだ磨り面がある
139	11	－	－	ML23	岩版	流紋岩質凝灰岩	9.30	11.94	5.48	529.8	3分の1が欠損　沈線文の断面は「V」字状
139	12	－	－	MJ30	剥片	赤玉	6.44	8.78	4.43	238.0	ベンガラ素材　風化面はごく一部に残る
139	13	－	－	MJ30	剥片	赤玉	3.53	6.70	2.87	108.8	ベンガラ素材　蜂の巣状の石英脈内部にベンガラが残る
139	14	－	－	MG27	剥片	頁岩	8.37	5.00	2.38	101.3	分厚い剥片を分割
139	15	－	－	MM27	石棒	斑糲岩？	9.92	3.55	0.84	49.8	
139	16	－	－	NE27	石核	頁岩	2.32	3.42	2.95	47.0	分厚い剥片素材　打面と作業面を入れ替えて剥片生産サイコロ状となる
139	17	－	－	MK28	石核	頁岩	7.35	9.84	6.35	601.0	円礫の周辺を打面と作業面を入れ替えながら剥離を進める
139	18	－	－	MJ30	石核	赤玉	8.32	5.67	4.09	215.6	ベンガラ素材　風化面はほとんど残らず
139	19	－	－	NB27	石核	頁岩	3.57	5.32	5.93	144.0	
139	20	－	－	NC24	石核	赤玉	10.42	9.98	7.52	875.0	ベンガラ素材　風化部を一部残す
140	21	－	－	NG25	石核	赤玉	8.00	8.68	5.89	579.4	ベンガラ素材　風化部を一部残す
140	22	－	－	MK29	石核	赤玉	4.43	4.68	2.91	27.0	ベンガラ素材　風化部を一部残す
140	23	－	－	ML28	石核	赤玉	3.16	3.06	2.76	46.4	ベンガラ素材　風化部を一部残す
140	24	－	－	MK29	石核	赤玉	3.06	3.84	1.86	74.0	ベンガラ素材　風化部を一部残す
140	25	－	－	NA26	石核	頁岩	27.60	17.20	8.10	3500.0	平面形は不整形で平たい　母岩から剥離された後、素材剥片が取られている
140	26	－	－	ML28	石核	赤玉	4.22	6.05	3.81	184.2	ベンガラ素材　風化部を一部残す
140	27	－	－	MI26	礫石器	頁岩	11.48	8.00	1.73	244.2	ⅩⅢ層出土　縁辺を粗く剥離する
140	28	－	－	MK26	礫石器	頁岩	8.13	4.78	2.06	118.6	ⅩⅢ層出土　縁辺を粗く剥離する　水磨されている
140	29	－	－	MF24	石核	変質流紋岩	11.90	16.20	11.00	2170.0	ⅩⅢ層出土　ベンガラ素材か　ほとんど風化していない

第27表　土製品・アスファルト塊観察表

挿図番号	番号	遺構種別	遺構番号	グリッド	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	特徴
39	29	SA	3031	NG25	垂飾	土製	1.1	1.1	1.1	1.2	P3出土　穴の直径2.5mm　焼成良好　胎土良好
82	16	SQ	1024	MJ29	アスファルト塊	アスファルト	15.0	13.2	8.2	532.1	上面平坦、底面丸くカーブ　鏡餅状に丸めている
－	－	SKI	1078	MH27	アスファルト塊	アスファルト	10.2	4.2	2.4	30.9	大洞C1式土器（第22図1）内面に塊で付着

第５章　自然科学的分析

第１節　放射性炭素年代測定

パレオ・ラボAMS年代測定グループ
小林紘一・丹生越子・伊藤茂・山形秀樹・瀬谷薫
Zaur Lomtatidze・Ineza Jorjoliani・佐々木由香・野村敏江

１　はじめに

北秋田市向様田Ａ遺跡より検出された試料８点について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。試料の観察と抽出は野村、試料調製は山形、瀬谷、Lomtatidze、Jorjolianiが、測定は小林、丹生、伊藤が行い、本文は佐々木、伊藤が作成した。また年代測定試料と同試料で樹種同定が行われている。

２　試料と方法

測定試料の情報、調製データは第28・29表のとおりである。試料は遺構内出土の炭化材片である。試料８点中３点が配石遺構（ＳＱ1018）中の炭ラミナ、１点が配石遺構（ＳＱ1066）、２点が柱列跡（ＳＡ1038P2、ＳＡ3031P1）、２点が柱穴（ＳＫＰ3053、ＳＫＰ3054）からの出土である。測定試料が出土した遺構の想定年代はいずれも縄文時代晩期中葉である。

試料にはいずれも複数個体の炭化材が含まれていたため、まず樹種同定が可能な破片を選び出し、さらに放射性炭素年代測定が可能な大きさのものを測定試料とした。材の大きさは１㎤前後で、部位は最外年輪以外で不明であった。樹種はクリが多かった（樹種同定の詳細は別項参照）。また測定試料の年輪数が観察出来た場合は、その数を第28・29表に示した。

試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクト AMS：NEC製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた^{14}Ｃ濃度について同位体分別効果の補正を行い、^{14}Ｃ年代、暦年代を算出した。

第28表　測定試料及び処理（１）

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理	測定
PLD-6943	位置：MI26 A-4 遺構：SQ1018 試料No：１ 層位：３層 その他：RC 炭ラミナ	試料の種類：炭化材（クリ：１年輪） 試料の性状：最外以外部位不明 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 （塩酸1.2N，水酸化ナトリウム0.5N，塩酸1.2N）	PaleoLabo： NEC製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-6944	位置：MI26 B-4 遺構：SQ1018 試料No：２ 層位：３層 その他：RC 炭ラミナ	試料の種類：炭化材（スギ：５年輪） 試料の性状：最外以外部位不明 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 （塩酸1.2N，水酸化ナトリウム0.5N，塩酸1.2N）	PaleoLabo： NEC製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-6945	位置：MI26 D-4 遺構：SQ1018 試料No：３ その他：RC 炭ラミナ	試料の種類：炭化材（クリ：１年輪） 試料の性状：最外以外部位不明 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 （塩酸1.2N，水酸化ナトリウム0.3N，塩酸1.2N）	PaleoLabo： NEC製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-6946	遺構：SQ1066 試料No：４ 層位：３層 その他：RC	試料の種類：炭化材（針葉樹：５年輪） 試料の性状：最外以外部位不明 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 （塩酸1.2N，水酸化ナトリウム0.2N，塩酸1.2N）	PaleoLabo： NEC製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-6947	遺構：SA1038P2 試料No：５ その他：RC RP4～RP6の内側	試料の種類：炭化材（クリ：２年輪） 試料の性状：最外以外部位不明 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 （塩酸1.2N，水酸化ナトリウム1N，塩酸1.2N）	PaleoLabo： NEC製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-6948	遺構：SA3031P1 試料No：６ その他：RC	試料の種類：炭化材（クリ：１年輪） 試料の性状：最外以外部位不明 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 （塩酸1.2N，水酸化ナトリウム1N，塩酸1.2N）	PaleoLabo： NEC製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-6949	遺構：SKP3053 試料No：７ その他：RC1	試料の種類：炭化材（クリ：２年輪） 試料の性状：最外以外部位不明 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 （塩酸1.2N，水酸化ナトリウム1N，塩酸1.2N）	PaleoLabo： NEC製コンパクト AMS・1.5SDH

第29表　測定試料及び処理（２）

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理	測定
PLD-6950	遺構：SKP3054 試料No：８	試料の種類：炭化材（ガマズミ属：４年輪） 試料の性状：最外以外部位不明 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 （塩酸1.2N，水酸化ナトリウム0.5N，塩酸1.2N）	PaleoLabo： NEC製コンパクト AMS・1.5SDH

３　結果

第30表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（δ^{13}C）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した^{14}C年代、^{14}C年代を暦年代に較正した年代範囲を、第141図に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は、誤差を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C年代（yrBP）の算出には、^{14}Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した^{14}C年代誤差（±１σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の^{14}C年代がその^{14}C年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示すものである。なお、暦年較正の詳細は以下の通りである。

暦年較正

暦年較正とは、大気中の^{14}C濃度が一定で半減期が5568年として算出された^{14}C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}C濃度の変動、及び半減期の違い（^{14}Cの半減期5730±40年）を較正することで、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C年代の暦年較正には0xCal4.0（較正曲線データ：INTCAL04）を使用した。なお、１σ暦年代範囲は、0xCalの確率法を使用して算出された^{14}C年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に２σ暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は^{14}C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。それぞれの暦年代範囲のうち、その確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示してある。

第30表　放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果

測定番号	δ^{13}C (‰)	暦年較正用年代 (yrBP±１σ)	^{14}C年代 (yrBP±１σ)	^{14}C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				１σ暦年代範囲	２σ暦年代範囲
PLD-6943 試料No.1	-27.14±0.14	2776±24	2775±25	975BC(17.5%)954BC 944BC(48.8%)896BC 864BC(1.9%)860BC	998BC(80.2%)890BC 881BC(15.2%)845BC
PLD-6944 試料No.2	-27.35±0.20	1213±25	1215±25	775AD(43.9%)830AD 837AD(24.3%)869AD	712AD(9.8%)746AD 766AD(85.6%)889AD
PLD-6945 試料No.3	-27.89±0.14	2726±25	2725±25	896BC(68.2%)838BC	917BC(95.4%)817BC
PLD-6946 試料No.4	-29.06±0.34	1967±26	1965±25	5AD(68.2%)66AD	41BC(95.4%)83AD
PLD-6947 試料No.5	-27.94±0.13	2804±25	2805±25	995BC(7.7%)986BC 980BC(60.5%)921BC	1026BC(95.4%)896BC
PLD-6948 試料No.6	-28.06±0.13	2791±24	2790±25	976BC(68.2%)907BC	1009BC(92.1%)894BC 871BC(3.3%)851BC
PLD-6949 試料No.7	-27.63±0.14	2983±25	2985±25	1267BC(54.1%)1192BC 1177BC(7.1%)1162BC 1144BC(7.0%)1132BC	1310BC(95.4%)1126BC
PLD-6950 試料No.8	-29.99±0.20	2936±26	2935±25	1212BC(61.1%)1112BC 1100BC(5.3%)1087BC 1063BC(1.7%)1059BC	1261BC(95.4%)1047BC

４　考察

試料について、同位体分別効果の補正および暦年較正を行った。得られた暦年代範囲のうち、その確率の最も高い年代範囲に着目すると、それぞれより確かな年代値の範囲が示された。

ＳＱ1018から出土した炭化材３点の年代のうち、２点（試料No.１・３）がほぼ同じ年代範囲を示した。暦年較正の結果、２σ（95.4％）の確率で試料No.１（PLD-6943）が1000-840calBC（95.4％）、試料No.３（PLD-6945）が920-810calBC（95.4％）の年代範囲を示した。また同様な年代値は、ＳＡ1038P2から出土した炭化材（試料No.５、PLD-6947）とＳＡ3031P1から出土した炭化材（試料No.６、PLD-6948）からも得られ、試料No.５が２σの確率で1030-890calBC（95.4％）、試料No.６が２σの確率の高い範囲で1010-890calBC（92.0％）であった。国立歴史民俗博物館によって実施された向様田ＡおよびＤ遺跡出土の大洞Ｃ１式６点の土器付着炭化物の測定結果では、較正年代の高い確率範囲をみると前1320～920年の結果が得られており、前1100～1000年を含む年代が多い（西本編，2006）。得られた年代範囲は大洞Ｃ１式よりは新しく、秋田県美郷町中屋敷Ⅱ遺跡出土の大洞Ｃ２式の土器付着物２点の前830～735年よりは古い年代範囲であることから（西本編，2006）、この４点の年代範囲は縄文時代晩期中葉、大洞Ｃ１～Ｃ２式頃の年代範囲と考えられる。

ＳＫＰ3053（試料No.７、PLD-6949）とＳＫＰ3054（試料No.８、PLD-6950）もほぼ同じ年代範囲を示し、試料No.７が1310-1120calBC（95.4％）、試料No.８が1260-1040calBC（95.4％）であった。この２点の年代範囲は向様田ＡおよびＤ遺跡出土の大洞Ｃ１式の土器付着炭化物の年代とほぼ一致した（西本編，2006）。

ＳＱ1018から出土した炭化材（試料No.２、PLD-6944）は、２σの確率が高い範囲で760-890calAD（85.6％）で、古代の年代範囲であった。ＳＱ1066から出土した炭化材（試料No.４、PLD-6946）は２σの確率で40calBC-90calAD（95.4％）であり、弥生時代後期頃の年代範囲であった。この２点はいずれも炭素含有率が50％を超えており、測定に必要な充分な炭素を得られたが、想定年代より新しい年代範囲が示された。樹種をみると、縄文時代晩期中葉の年代範囲を示した試料はすべてクリであったのに対し、想定年代が新しい試料２点はスギと針葉樹で、樹種においても差がみられた。今回の炭化材試料(註)は、すべて最外年輪以外の部位不明の年輪を測定試料としており、古木効果の影響を考慮する必要がある。

（註）

以上の木材の^{14}C年代が示すのは、その部分の年輪が形成された年代である。最外年輪を試料とした場合、その年代が示すのは枯死あるいは伐採の年代であり、木材が利用された年代に近いと考えることができる。一方、最外年輪より内側の部位を試料とした場合、その年代が示すのは枯死あるいは伐採の年代よりも年輪数分古い年代である。これは古木効果と呼ばれる。

参考文献

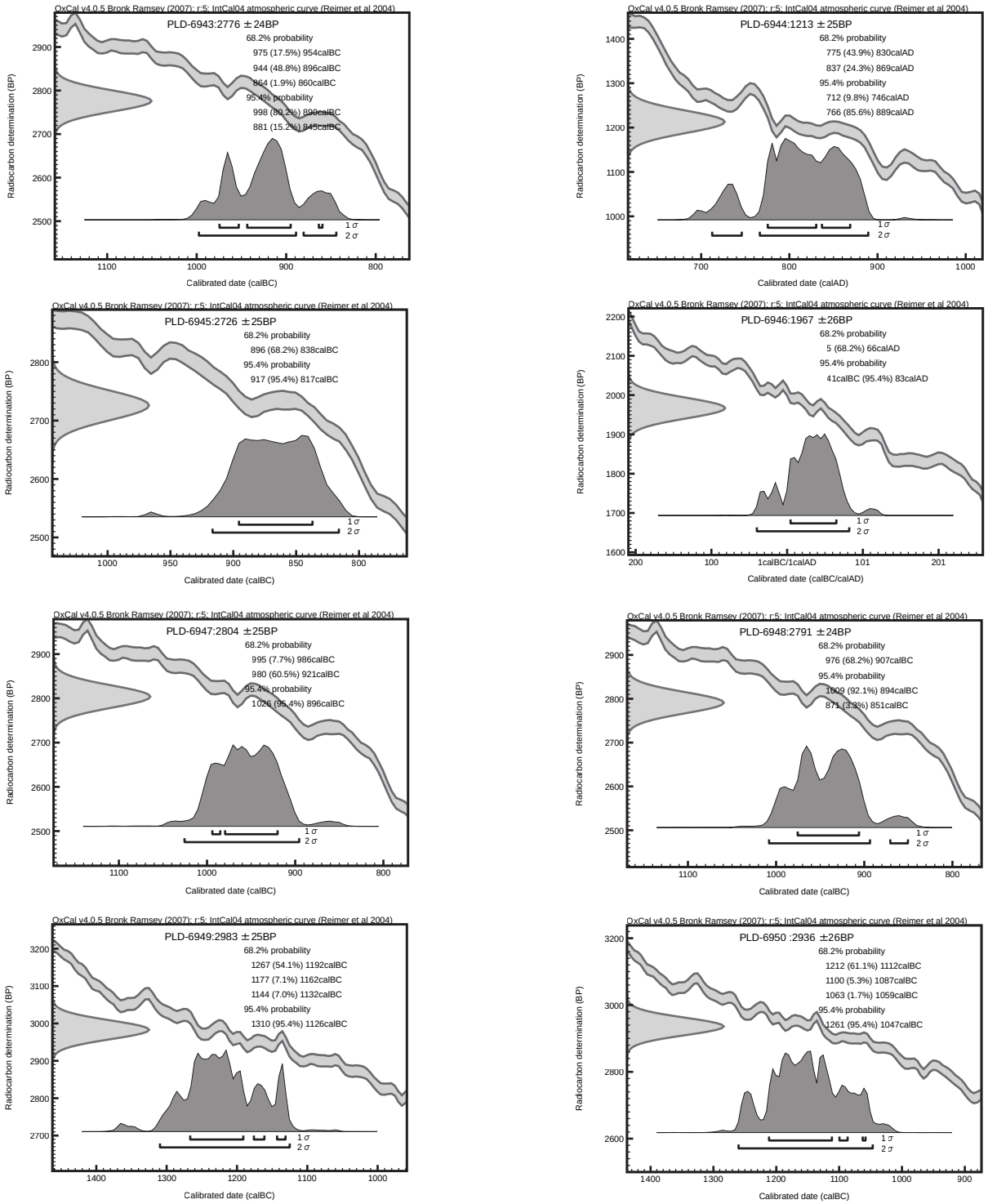
Bronk Ramsey C.（1995）Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy: The OxCal Program, Radiocarbon, 37, 425-430.

Bronk Ramsey C.（2001）Development of the Radiocarbon Program OxCal, Radiocarbon, 43, 355-363.

中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎．日本先史時代の14C年代，3-20.

西本豊弘編（2006）弥生時代の新年代．p.143．雄山閣.

Reimer, P.J., Baillie, M.G.L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Bertrand, C.J.H., Blackwell, P.G., Buck, C.E., Burr, G.S., Cutler, K.B., Damon, P.E., Edwards, R.L., Fairbanks, R.G., Friedrich, M., Guilderson, T.P., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., McCormac, G., Manning, S., Bronk Ramsey, C., Reimer, R.W., Remmele, S., Southon, J.R., Stuiver, M., Talamo, S., Taylor, F.W., van der Plicht, J. and Weyhenmeyer, C.E. (2004) IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26 cal kyr BP, Radiocarbon, 46, 1029-1058.



第 141 図　暦年較正結果

第２節　炭化材樹種同定

野村敏江（パレオ・ラボ）

１　はじめに

向様田Ａ遺跡は秋田県北秋田市森吉字向様田にあり、森吉山の北側の麓を西流する小又川右岸の段丘上に位置する。ここでは、向様田Ａ遺跡の配石遺構中の炭ラミナ、土坑、柱穴から出土した炭化材８点の樹種同定の結果を報告する。

２　炭化材樹種同定の方法

樹種同定用の炭化材を選び出す際には、材の３方向の断面（横断面・接線断面・放射断面）を作成が可能な大きさの炭化材を選び出した。このとき実体顕微鏡下で観察を行い、横断面の道管配列が異なる複数種の炭化材片が認められた試料番号１と３については、枝番号を付し１-１、１-２および３-１、３-２と分けて同定を行なった。このため、総試料数は10点となった。なお、クリは実体顕微鏡で同定が可能なためこの時点で同定を行なった。

次に、走査電子顕微鏡写真を撮影するため、材の３方向の断面を作成し材組織を観察、撮影した。走査電子顕微鏡用の試料は３断面を５㎜角程度の大きさに整形したあと、直径１㎝の真鍮製試料台に両面テープで固定し試料台を作成した。この後試料台を乾燥させ、金蒸着を施し走査電子顕微鏡（日本電子㈱製　ＪＳＭ-Ｔ100型）で撮影を行った。同定を行った試料のうち、各分類群を代表する試料については第142図を添付し、同定結果を記載した。なお、同定を行なった残りの炭化材片は秋田県埋蔵文化財センターに保管されている。

３　結果と考察

各試料の樹種同定結果の一覧を第31表に示した。同定の結果、針葉樹であるスギ、落葉広葉樹であるクリとガマズミ属の３分類群が認められた。このうち保存状態が悪く、科以下の同定を行なうことができなかった針葉樹が１点認められた。クリが最も多く産出し５点、次いでスギが３点、ガマズミ属と針葉樹が１点同定された。

別報による放射性炭素年代測定の結果をみると、スギ・針葉樹各１点を除くクリ５点とガマズミ属１点は、縄文時代晩期中葉にあたる年代測定結果が得られている。クリは、縄文時代において東日本で広く用いられており（千野1991)、こうした既存の報告とも調和的な結果であった。クリとともに産出したスギは降水量の多い地域に生育する樹種であることから、当時でも遺跡周辺にふつうに分布していたと考えられる。ガマズミ属も山野に普通に見られる樹種であることから、同定点数は少ないが、これらの樹種の産出は遺跡周辺の近隣の森林資源に依存した材利用を示していることが考えられた。

次に同定された樹種の材組織について記載を行なう。

（１）スギ　Cryptomeria japonica (L.fil.)D.Don　スギ科　第142図(１a-１c)　試料番号No.２

仮道管および樹脂細胞、放射柔細胞によって構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行はやや急で、放射組織は２～15細胞高になる。放射断面(柾目)の放射組織と仮道管との間の分野壁孔

は孔口の大きく開いたスギ型で、１分野に２～３個存在する。スギは高さ30～40ｍになる常緑高木である。自生状態では山地の沢沿いに多く生育する。

（２）クリ　Castanea crenata Sieb. et Zucc.　ブナ科　第142図（２a-２c）　試料番号No.５

大型の道管が年輪界で一列に並び、それ以外の部分では径を減じた道管が火炎状に配列する環孔材である。放射組織は単列で同性である。道管の穿孔は単穿孔であり、放射組織と道管の壁孔は柵状である。クリは北海道（石狩・日高地方以南）・本州・四国・九州の丘陵から山地に分布する落葉高木で高さ20mほどになる。

（３）ガマズミ属　第142図（３a-３c）試料番号No.８

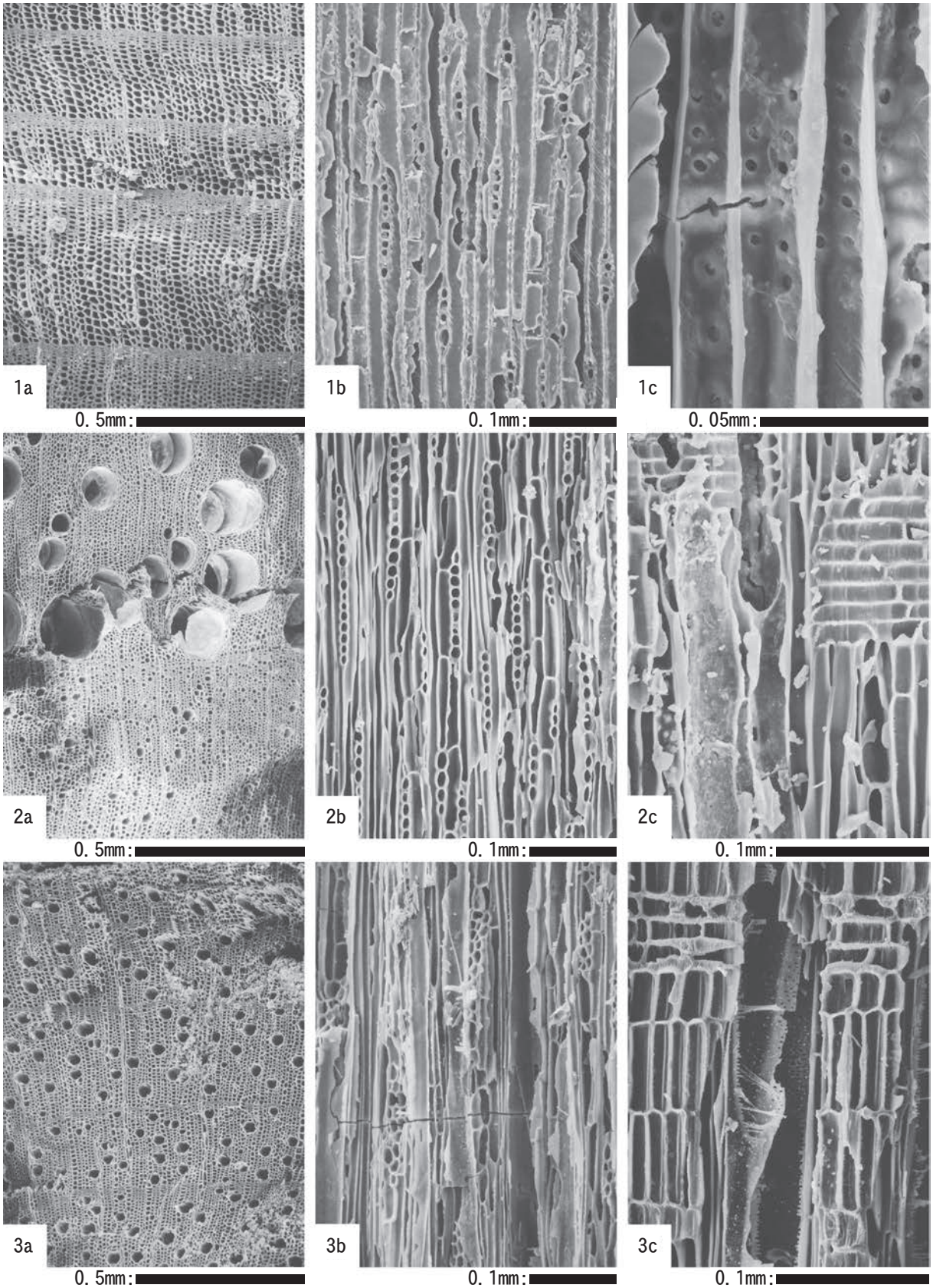
小型の道管がほぼ単独で横断面に均一に散在する散孔材である。道管は階段穿孔であり、階段数はきわめて高い。放射組織は異性で１～２列となり、直立細胞がさや状に並ぶことがある。ガマズミ属には、オオカメノキやガマズミなど16種類がある。

引用文献

千野裕道（1991）縄文時代に二次林はあったか－遺跡出土の植物遺物からの検討－.「東京都埋蔵文化財センター研究論集Ｘ」:215-249,東京都埋蔵文化財センター.

第31表　向様田Ａ遺跡出土炭化材の樹種同定結果

遺構名	グリッドNo.	層	ナンバー	備考	樹種	PLD番号
SQ1018	MI26 A-4	3層	RC	炭ラミナ	クリ	PLD-6943
					スギ	-
SQ1018	MI26 B-4	3層	RC	炭ラミナ	スギ	PLD-6944
SQ1018	MI26 D-4		RC	炭ラミナ	クリ	PLD-6945
					スギ	-
SQ1066		3層	RC		針葉樹	PLD-6946
SA1038P2			RC	RP4～RP6の内側	クリ	PLD-6947
SA3031P1			RC		クリ	PLD-6948
SKP3053			RC1		クリ	PLD-6949
SKP3054		底面			ガマズミ属	PLD-6950



第142図　出土炭化材の材組織の走査電子顕微鏡写真

１a-１c：スギ（№.２）２a-２c：クリ（№.５）３a-３c：ガマズミ属（№.８）

a：横断面　b：接続断面　c：放射断面

第３節　岩石肉眼鑑定

パリノ・サーヴェイ株式会社

１　はじめに

秋田県北秋田市向様田Ａ遺跡からは、縄文時代晩期の配石遺構群が多数検出されている。配石遺構は、段丘礫が散在する段丘面上に造られており、配石遺構に使用されている礫が周囲の段丘礫を使用しているかどうかについて関心が持たれている。

今回は、これらの配石遺構の礫について肉眼による石材鑑定を行い、石材組成を把握すると共に、周囲の段丘礫との組成の比較を行った。また、配石遺構の周囲や土坑より出土した石器類についても肉眼鑑定を行い、石質についての資料を作成し、その産地を検討した。以下にその結果を報告する。

２　試料

肉眼鑑定を行った試料は、４基の配石遺構より検出された礫116点、偽配石（自然の礫配置）２基を構成する52点および周囲の段丘礫３区画分395点の計563点、および、石器類272点である。

各配石遺構を構成する礫の数量は、ＳＱ1018(38点)、ＳＱ3049(43点)、ＳＱ3003(21点)およびＳＱ3023(14点)であり、偽配石では偽ＳＱ3011(31点)、偽ＳＱ3052(21点)となっている。鑑定対象とした礫は、径20cm以上のものである。偽ＳＱ3011については、構成礫の粒径が小さいため、径５cm以上のものを対象としている。いずれの遺構も、縄文時代晩期の小礫層において検出されている。

配石遺構の礫と比較を行う段丘礫は、縄文時代晩期の小礫層の下に無遺物層の砂層を挟んで、その下位に分布する礫層であり、径20～50cm程度のものが卓越する。この礫層中には、水磨された石器が僅かに入ることから、6,000～9,000年前という年代が想定されている。段丘礫は４ｍ×４ｍの正方形に区画し、径20cm以上の礫を対象として、ＮＥ27(124点)、ＮＧ24(167点)およびＭＪ25(104点)を鑑定している。ＮＥ27の区画はＳＱ3049、ＳＱ3003、ＳＱ3023などの遺構に近くに、ＭＪ25の区画はＳＱ1018の近くに設定されている。ＮＧ24は調査区の最西端部に位置し、段丘礫層のなかでも下部にあたる。配石遺構および段丘礫の調査区の状況写真は第143図に掲載した。

石器類の器種別の数量は、平基有茎石鏃２点、柳葉形石鏃１点、削器８点、石核19点、折断石器７点、土掘具１点、石棒１点、配石１点、岩版１点、円盤状石製品１点、石皿・台石14点、磨石１点、敲石２点、自然礫22点、自然礫(被熱)２点、ＲＦ15点、ＵＦ14点、剥片108点および不明52点となっている。各試料の遺構名、グリッド、No、器種等の詳細は第33・34表に示す。

３　分析方法

当社技師１名が平成18年９月６日から８日まで現地に赴き、肉眼鑑定を実施した。野外用のルーペを用いて構成鉱物や組織の特徴を観察し、肉眼で鑑定できる範囲の岩石名を付す。個々の石材のより正確な岩石名は、薄片作製観察、Ｘ線回折試験、全岩化学組成分析等を併用することにより調べることができるが、今回は肉眼鑑定のみに留めるため、鑑定された岩石名は概査的な岩石名である。

４　結果

配石遺構および段丘礫の鑑定結果を第32表に、石器の鑑定結果を第33・34表に示す。配石遺構に使用

れる石材および段丘礫は、深成岩類として花崗閃緑岩５点、半深成岩類としてドレライト２点、火山岩類として流紋岩２点、デイサイト２点、輝石安山岩206点、石英含有輝石安山岩３点、石英含有安山岩１点、かんらん石含有輝石安山岩５点、安山岩35点、安山岩(流理構造あり)１点、多孔質安山岩20点、無斑晶ガラス質安山岩１点、無斑晶質安山岩15点、安山岩(新第三紀)124点、輝石安山岩(新第三紀)87点および玄武岩16点、火山砕屑岩類として火山礫凝灰岩13点、流紋岩質凝灰岩１点、安山岩質凝灰岩２点および凝灰岩１点、堆積岩類として砂岩１点、頁岩８点および頁岩(古期)１点、変質岩類として変質安山岩９点および珪化岩２点と鑑定された。段丘礫の礫種組成は、第144図に示した。

石器類は、火山岩類として流紋岩１点、安山岩１点、安山岩(新第三紀)２点、輝石安山岩(新第三紀)１点、石英含有輝石安山岩１点、ガラス質安山岩１点、無斑晶質安山岩４点、多孔質輝石安山岩３点、輝石安山岩12点および玄武岩１点、火山砕屑岩類として流紋岩質凝灰岩４点、砂岩１点、頁岩85点、頁岩(古期)１点および珪質頁岩134点、変成岩類として粘板岩１点、変質岩類として変質流紋岩２点、鉱物として石英１点、玉髄９点および赤玉11点が鑑定された。器種別の石材組成の集計結果を第35表に示す。

５　考察

(１)配石の礫および段丘礫

向様田Ａ遺跡は、小又川右岸の低位段丘面上に立地しており、基盤となる段丘礫は小又川水系の地質に由来していると考えられる。小又川水系において広い分布面積をもつ地質は、小又川の北側に分布する新第三系中新統(以下、新第三系)および小又川の南側に分布する第四紀火山の森吉火山である。新第三系は、安山岩溶岩および同質火砕岩が主要な構成岩石となっており、各種の堆積岩類や火山砕屑岩類を伴う。森吉火山は、更新世中頃から活動した複合成層火山であり、輝石安山岩を主要構成岩石とし、無斑晶質デイサイト、玄武岩質安山岩などを伴っている(中川,1983)。その他の地質としては、森吉ダム北方の竜ヶ森周辺に分布する白亜紀の竜ヶ森花崗岩体(藤本,1970)、竜ヶ森花崗岩体周辺に分布する中古生層の粘板岩を主とする堆積岩類、太平湖一体に分布する鮮新世末～更新世初期にかけて活動したデイサイト～流紋岩質凝灰岩を主とする玉川溶結凝灰岩類(佐藤ほか,1981)などである。このような小又川水系の地質に基づき、鑑定された各岩種に対応する地質を第32表に示す。

段丘礫の肉眼観察からは、第144図１～３に示される結果が得られた。これらの図に示されるように、主要岩石は安山岩類であり、いずれの区画においても90％程度を占めている。その他の岩石としては、新第三系に由来する玄武岩、変質安山岩、火山砕屑岩類など、および、竜ヶ森花崗岩体に由来する花崗閃緑岩を伴っている。一方の配石遺構の礫も、同様に安山岩類が主要な石材となっている。配石遺構の礫は、遺構単位で14～43個と少ないため、段丘礫の礫種組成との詳細な比較はできないが、使用されている礫の岩相や粒径が段丘礫の礫と酷似していることなどから、遺構周辺に散在する段丘礫が利用されたことは確実である。

配石の礫には、このように段丘礫の安山岩類が多用されていることは明らかであるが、配石遺構の礫には安山岩類の中でも森吉火山に由来する安山岩が多く使用される傾向が認められる(第32表)。森吉火山の安山岩類は、時代的に古い新第三系に由来する安山岩と比較し、構成鉱物の変質が少なく、礫表面部の風化もほとんど認められないという特徴があり、新鮮な岩相を示す。安山岩以外の石材も含め、森吉火山と新第三系石材のおおよその比率を第32表の最下段に示した。

ＳＱ1018、ＳＱ3003、ＳＱ3023、およびＳＱ3049の遺構においては森吉火山の安山岩類が多く含まれており、

特にＳＱ1018、ＳＱ3003およびＳＱ3049においては顕著である。段丘礫の礫種組成も、森吉火山と新第三系の割合に顕著な違いがある。ＭＪ25においては森吉火山の礫の割合が高いのに対し、ＮＥ27では同程度、ＮＧ24では新第三系の石材の割合が多くなる。ＭＪ25は、ＳＱ1018に近い区画であり、ＮＥ27はＳＱ3003、ＳＱ3023およびＳＱ3049に近い区画である。いずれの遺構も、近くの段丘礫に対し、森吉火山の礫が多く使用される傾向があり、何らかの理由で森吉火山の安山岩を選んで使用していた可能性が考えられる。

森吉火山に由来するとみられる安山岩は、新第三系の安山岩と比較し、外観的に淡白灰色の色調を示すものが多く、風化が少ないため、風化による剥がれが少なく、表面が滑らかで球形度が高いという特徴がある。配石遺構のＳＱ3049においてこれは顕著である（第143図２）。このような外観的な面から、好んで森吉火山の礫を選択したかどうかについては不明であるが、森吉火山の礫を多く使用したことは礫種組成のデータが示しており、その理由を形態的・材質的な面から今後検討する必要がある。

（２）石器

石器に使用されている石材の産地について検討を行った。岩石のタイプ別に分類し、以下に各石材の産地について述べる。

１）火山岩類

火山岩類に属する石材としては、流紋岩、安山岩、安山岩(新第三紀)、輝石安山岩(新第三紀)、石英含有輝石安山岩、ガラス質安山岩、無斑晶質安山岩、多孔質輝石安山岩、輝石安山岩および玄武岩が使用されている。流紋岩、安山岩(新第三紀)、輝石安山岩(新第三紀)および玄武岩は、いずれも微量の変質鉱物を含む火山であり、新第三系に由来する石材と判断される。また安山岩、石英含有輝石安山岩、ガラス質安山岩、無斑晶質安山岩、多孔質安山岩および輝石安山岩は、未変質で新鮮な岩相を示す火山岩であり、第四紀火山の森吉火山に由来する石材と考えられる。いずれも、小又川の河床礫などから採取可能であり、在地性の石材と判断される。

２)火山砕屑岩類

火山砕屑岩類に属する石材としては流紋岩質凝灰岩が使用されている。これらは、新第三系の桐内層や、小又川上流部に分布する玉川溶結凝灰岩に由来していると推定される。軟質岩であるため、石皿などの大型のものは、近傍の河床からは採取困難と考えられ、これらの地質が分布する上流域より採取された可能性がある。

３）堆積岩類

堆積岩類に属する石材としては、砂岩、頁岩、頁岩(古期)および珪質頁岩が使用されている。砂岩および頁岩は、やや軟質な岩質を示すことから、小又川水系に分布する新第三系に由来する石材と推定される。頁岩(古期)は、他の頁岩とは異なり、粘板岩質な岩相を示す。このような粘板岩質な頁岩は、竜ヶ森花崗岩体周辺に分布する中古生界の堆積岩類に由来すると考えられる。珪質頁岩は女川層に対比される岩谷層の主岩相である。岩谷層は、阿仁川左岸地域の阿仁前田西方の山地に広く露出しており、小又川水系には分布していない。そのことから、珪質頁岩は、原産地または阿仁川の河床礫より採取したものと考えられる。

４）変成岩類

変成岩類に属する石材としては、粘板岩が使用されている。粘板岩は、上記の粘板岩質な頁岩と同様に竜ヶ森花崗岩体周辺に分布する中古生界の堆積岩類に由来すると考えられる。

５）変質岩類

変質岩類に属する石材としては、変質流紋岩が使用されている。変質流紋岩は、グリーンタフ地域

にしばしば認められる変質岩であり、小又川流域に分布する大又層などの新第三系に由来する石材と考えられる。

６）鉱物

鉱物としては、石英１点、玉髄９点および赤玉が出土している。これらはいずれも、SiO_2を主成分とするシリカ鉱物の集合体である。このようなシリカ鉱物は、一般に流紋岩の晶洞や、変質部に産するが、石英や玉髄は流紋岩に限らず、各種の地質に産する。また、赤玉は流紋岩に伴うことが多いが、火山の火口域にも産出することが知られている。小又川流域の地質にも産出すると考えられるが、一般的な岩石と比べ、産出はきわめて小規模であるため、河床礫として採取することは難しく、原産地または原産地近くより採取したと考えられる。特に石核などに加工された赤玉などは、搬入品の可能性も十分に考える必要がある。

６　まとめ

向様田Ａ遺跡において検出された配石遺構の礫は、肉眼鑑定による礫種組成や岩相の比較から、周囲の段丘礫を使用して造られたと考えられる。配石遺構の礫は、周囲の段丘礫の礫種組成と比較し、新第三系の石材よりも森吉火山系の石材が多く使用されており、何らかの理由で森吉火山系の安山岩が選択的に使用されたことが明らかとなった。おそらく、外観的な特徴や、形態的・材質的な面からの選択であり、このような観点からの考察も今後必要となるだろう。

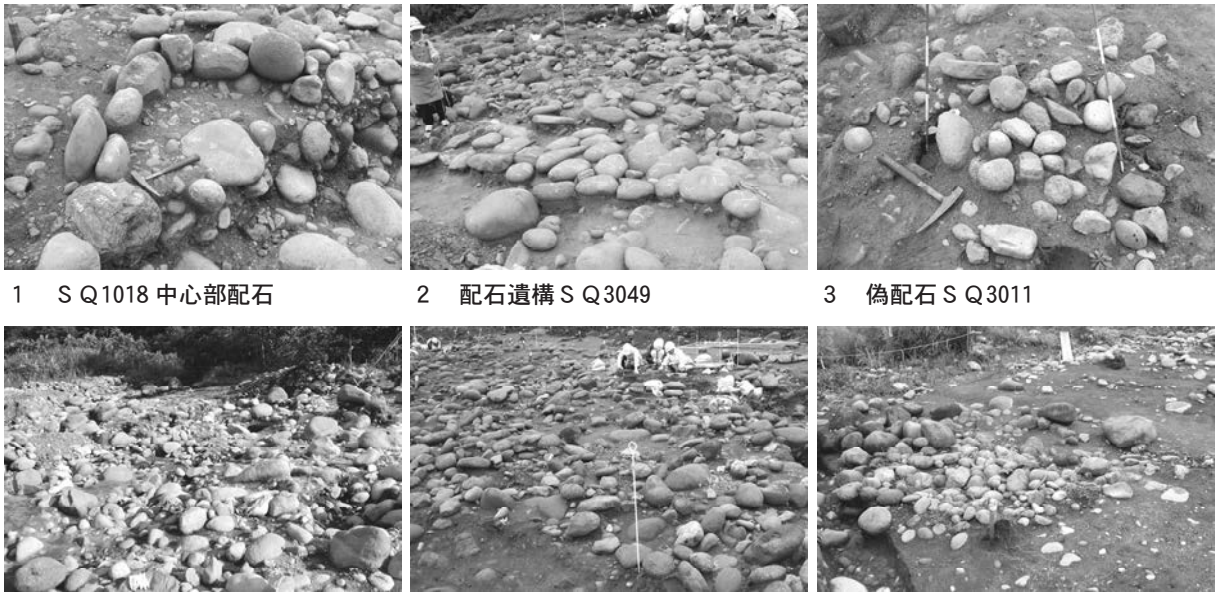
石器類は、概ね小又川流域の地質に由来する石材が使用されているが、多量に出土している珪質頁岩は、阿仁川西方地域の女川層相当層の石材と推定され、大部分はこのような近隣地域から搬入されたものと判断される。周辺の地質と照らし合わせ、明らかな遠方からの搬入石材といえるものは認められず、当時の人たちは、石器石材獲得に困ることのない地質環境にあったと理解することができる。

引用文献

藤本幸雄,1970,秋田県竜ヶ森地域の花崗岩質岩体．岩石鉱物鉱床学会誌,65,16-33.

中川光弘,1983,森吉火山の地質と岩石．岩石鉱物鉱床学会誌,78,197-210.

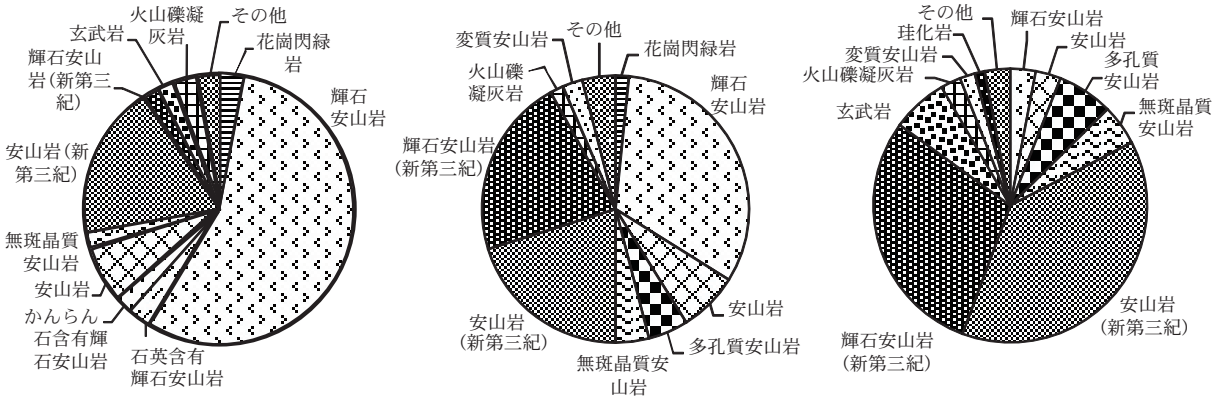
佐藤　浩・安藤重幸・井出俊夫・鷹觜守彦・斉藤清次・千葉義明・土井宣夫・岩田忠雄,1981,八幡平地域.,溶結凝灰岩類の層序．地質学雑誌,87,267-275.



1　ＳＱ1018 中心部配石　　2　配石遺構ＳＱ3049　　3　偽配石ＳＱ3011

4　段丘礫ＭＪ25　　5　段丘礫ＮＥ27　　6　段丘礫ＮＧ24

第 143 図　配石遺構、偽配石および段丘礫層



1. MJ25の礫種組成　　2. NE27の礫種組成　　3. NG24の礫種組成

第144図　各グリッドにおける礫種組成

第32表　配石遺構および段丘礫の礫種組成

岩石タイプ	岩石名	略号	遺構名				偽遺構名		4m×4mグリット内の礫			合計	対応する地質
			SQ1018	SQ3003	SQ3023	SQ3049	SQ3011	SQ3052	MJ25	NE27	NG24		
深成岩類	花崗閃緑岩	Gd							3	2		5	竜ヶ森花崗岩体
半深成岩類	ドレライト	Do				1	1					2	新第三系
火山岩類	流紋岩	Ry							1		1	2	
	デイサイト	Da								1	1	2	
	輝岩安山岩	AnP	26	17	8	36	4	12	58	40	5	206	森吉火山
	石英含有輝石安山岩	AnP(Qz)							3			3	
	石英含有安山岩	An(Qz)					1					1	
	かんらん石含有輝石安山岩	AnP(Ol)	2		1				2			5	
	安山岩	An	2	1	1	4	5	1	7	9	5	35	
	安山岩(流理構造あり)	AnF									1	1	
	多孔質安山岩	AnV	1				1		1	6	11	20	
	無斑晶ガラス質安山岩	An(AphG)								1		1	
	無斑晶質安山岩	An(Aph)							2	5	8	15	
	安山岩(新第三紀)	An(Ter)	2	2		1	7	4	19	25	64	124	新第三系
	輝石安山岩(新第三紀)	An(Ter)	3		2		3	1	2	27	49	87	
	玄武岩	Ba			1		1		2	1	11	16	
火山砕屑岩類	火山礫凝灰岩	Lt	1			1	2		3	2	4	13	
	流紋岩質凝灰岩	TfRy					1					1	玉川溶結凝灰岩類
	安山岩質凝灰岩	TfRy								1	1	2	新第三系
	凝灰岩	Tf									1	1	
堆積岩類	砂岩	Ss					1					1	
	頁岩	Sh		1	1		3	2		1		8	
	頁岩(古期)	Sh(old)	1									1	竜ヶ森花崗岩体周辺
変質岩類	変質安山岩	AnA					1	1	1	3	3	9	新第三系
	珪化岩	SiR									2	2	
新第三系の石材と森吉火山岩類の石材とのおおよその比較(%)		森吉火山	84	86	71	95	38	62	73	50	18	52	
		新第三系	16	14	29	5	62	38	27	50	82	48	
		合計	38	21	14	43	31	21	104	124	167	563	

第33表　出土石器の石材鑑定結果（１）

挿図番号	遺構名	グリッド	No	器種	石材	石材備考
第19図３	SK11075	MH28	RQ1	石皿	流紋岩質凝灰岩	
第22図13	SK11078	MH27	RQ36	石核転用削器	珪質頁岩	
第23図18	SK11078	MH27	RQ32	剥片	頁岩	
第23図21	SK11078	MH27	RQ31	石核	珪質頁岩	
	SQ1006		RQ1	剥片	珪質頁岩	
	SQ1006	MG25	RQ2	剥片	頁岩	
第50図１	SQ1009	MF28	RQ1	石核	赤玉	
	SQ1009		RQ2	ＵＦ	頁岩	
	SQ1009		RQ3	折断石器	珪質頁岩	
	SQ1010		RQ1	剥片	珪質頁岩	
	SQ1010		RQ2	剥片	珪質頁岩	
	SQ1013		RQ5	ＲＦ	頁岩	
第60図３	SQ1014	MH26	RQ25	削器	頁岩	玉髄質
	SQ1014	MG26	RQ2	剥片	頁岩	
	SQ1014		RQ26	剥片	珪質頁岩	玉髄質
	SQ1014		RQ27	剥片	珪質頁岩	
	SQ1014		RQ28	剥片	珪質頁岩	
	SQ1014		RQ29	削器	頁岩	
	SQ1014		RQ30	剥片	珪質頁岩	ラミナ有り
	SQ1014		RQ33	剥片	珪質頁岩	
	SQ1014		RQ34	剥片	珪質頁岩	
	SQ1014		RQ37	剥片	頁岩	
	SQ1014		RQ49	剥片	頁岩	
	SQ1016		RQ4	ＵＦ	珪質頁岩	
	SQ1017		RQ2	ＲＦ	珪質頁岩	
第69図８	SQ1018	MI25	RQ28	平基有茎石鏃	珪質頁岩	
第69図13	SQ1018	MI26	RQ35	削器	珪質頁岩	
第70図20	SQ1018	MI26	RQ38	礫石器	無斑晶質安山岩	
第70図22	SQ1018	MI26	RQ2	台石	輝石安山岩	
第70図23	SQ1018	MI26	RQ1	台石	輝石安山岩(新第三紀)	新第三紀
第70図24	SQ1018	MC25	RQ141	台石	輝石安山岩	

挿図番号	遺構名	グリッド	No	器種	石材	石材備考
第70図26	SQ1018	MJ26	RQ140	敲石	輝石安山岩	
第70図28	SQ1018	MJ27	RQ101	石皿	輝石安山岩	
第71図29	SQ1018	MJ26	RQ7	石皿	石英含有輝石安山岩	
第71図32	SQ1018	MK23	RQ90	円盤状石製品	輝石安山岩	
第71図41	SQ1018	MI26	RQ46	石核	赤玉	
第73図71	SQ1018P1	MI25	RQ20	削器	珪質頁岩	
第74図79	SQ1018	MI24	RQ1	石核	赤玉	
	SQ1018		RQ3	自然礫	無斑晶質安山岩	
	SQ1018		RQ5	石皿	流紋岩質凝灰岩	
	SQ1018		RQ6	ＵＦ	珪質頁岩	
	SQ1018		RQ6	磨石	輝石安山岩	
	SQ1018		RQ9	剥片	珪質頁岩	
	SQ1018		RQ10	自然礫	輝石安山岩	
	SQ1018		RQ27	剥片	頁岩	
	SQ1018		RQ28	剥片	玉髄	
	SQ1018		RQ29	ＲＦ	頁岩	
	SQ1018		RQ30	ＵＦ	珪質頁岩	
	SQ1018		RQ31	石核転用削器	珪質頁岩	
	SQ1018		RQ32	折断石器	珪質頁岩	
	SQ1018		RQ33	削器	頁岩	
	SQ1018		RQ34	削器	頁岩	
	SQ1018		RQ36	石核転用削器	珪質頁岩	
	SQ1018		RQ37	折断石器	珪質頁岩	
	SQ1018		RQ39	剥片	珪質頁岩	
	SQ1018		RQ43	—	頁岩	
	SQ1018		RQ45	ＵＦ	珪質頁岩	
	SQ1018		RQ49	—	珪質頁岩	
	SQ1018		RQ61	配石	流紋岩質凝灰岩	
	SQ1018		RQ62	自然礫	頁岩(古期)	
	SQ1018		RQ63	剥片	玉髄	
	SQ1018		RQ65	自然礫	頁岩	

第34表　出土石器の石材鑑定結果表（２）

挿図番号	遺構名	グリッド	No	器種	石材	石材備考
	SQ1018		RQ67	自然礫	安山岩(新第三紀)	新第三紀
	SQ1018		RQ81	—	珪質頁岩	
	SQ1018		RQ86	自然礫	赤玉	
	SQ1018		RQ86	ＲＦ	珪質頁岩	
	SQ1018P1		RQ12	剥片	珪質頁岩	
第82図12	SQ1024	MJ27	RQ1	敲石	輝石安山岩	
第85図１	SQ1036	MH29	RQ1	台石	輝石安山岩	
第85図２	SQ1036	MH29	RQ2	石皿	多孔質輝石安山岩	
第85図３	SQ1036	MG28	RQ1	石核	頁岩	
第85図４	SQ1036	MG28	RQ1	石核	頁岩	
	SQ1036		RQ1	自然礫	無斑晶質安山岩	
	SQ1036		RQ2	自然礫	頁岩	
	SQ1036		RQ5	ＵＦ	頁岩	
第27図８	SQ1039	ML23	RQ3	石核	珪質頁岩	
第91図37	SQ1065	MJ26	RQ12	台石	輝石安山岩	
第91図38	SQ1065	MJ26	RQ11	石皿	砂岩	新第三紀以降
第92図24	SQ1066	MI26		石皿	多孔質輝石安山岩	
第94図６	SQ2007	MQ23	RQ1	石棒	粘板岩	
第95図１	SQ2009	MT29	RQ1	折断石器	頁岩	
	SQ275		RQ1	ＵＦ	珪質頁岩	
第48図２	SKP1032	MF26	RQ2	平基有茎石鏃	珪質頁岩	
第118図１	SKP2005		RQ1	削器	珪質頁岩	
		KS23		—	安山岩	砕石?
		MB27			頁岩	
		MB28			珪質頁岩	
		MF24	RQ7	自然礫	変質流紋岩	赤玉
		MF25		ＲＦ	頁岩	
		MF26R	RP88	折断石器	珪質頁岩	
第138図10		MF27	RQ3	石皿	輝石安山岩	
		MF28	RQ90	自然礫	珪質頁岩	
		MF28	RQ91	剥片	玉髄	
		MF28	RQ92	剥片	頁岩	
		MF28-26			珪質頁岩	
		MG22		剥片	頁岩	
		MG22		剥片	頁岩	
		MG22		剥片	頁岩	
		MG22		折断石器	頁岩	
		MG22		剥片	珪質頁岩	
		MG22		剥片	珪質頁岩	
		MG22		ＲＦ	珪質頁岩	
		MG24		剥片	頁岩	
		MG26	RQ26		珪質頁岩	
		MG27	RP51	ＵＦ	珪質頁岩	
		MG27	RP52		珪質頁岩	
		MG27	RQ3		珪質頁岩	
		MG27	RQ58		頁岩	
		MG27	RQ59		珪質頁岩	
		MG27		ＲＦ	珪質頁岩	
		MG27		剥片	頁岩	
		MG27		剥片	頁岩	
		MH24	RQ	剥片	頁岩	
		MH24	RQ	剥片	頁岩	
第138図２		MH24	RQ94	土掘具	安山岩(新第三紀)	新第三紀
		MH24		剥片	珪質頁岩	
		MH29			頁岩	
		MH29			頁岩	
		MH29			頁岩	
		MH29			珪質頁岩	
		MH29			玉髄	
		MH31	RQ	自然礫	頁岩	
		MI31	RQ	剥片	頁岩	
		MI31	RQ	ＲＦ	珪質頁岩	
		MI31	RQ	ＵＦ	珪質頁岩	
		MI31	RQ	剥片	珪質頁岩	
		MI31	RQ	剥片	珪質頁岩	
		MI31	RQ	剥片	珪質頁岩	
		MI31	RQ	剥片	珪質頁岩	
		MI31	RQ	剥片	珪質頁岩	
		MJ25			珪質頁岩	
		MJ29		剥片	珪質頁岩	
第138図１		MJ30	RQ93	柳葉形石鏃	珪質頁岩	
第139図18		MJ30		石核	赤玉	
		MK28	RQ58	剥片	珪質頁岩	
		MK28	RQ58	自然礫	頁岩	
第139図17		MK28	RQ59	石核	頁岩	
		MK28	RQ60	剥片	頁岩	
		MK28		剥片	珪質頁岩	
		MK28			頁岩	
		MK28			頁岩	
		MK28			頁岩	
		MK28			頁岩	
		MK28			頁岩	
		MK28			頁岩	
		MK28			珪質頁岩	
		MK28			珪質頁岩	
		MK28			珪質頁岩	
		MK28			珪質頁岩	
		MK28			珪質頁岩	
		MK28			珪質頁岩	
		MK28			珪質頁岩	
		MK28			珪質頁岩	
		MK28			珪質頁岩	
		MK28			珪質頁岩	
		MK28			珪質頁岩	
		MK28			珪質頁岩	
第140図24		MK29	RQ71	石核	赤玉	
第140図26		ML28	RQ71	石核	赤玉	
		MK29	RP61	自然礫(被熱)	流紋岩	
		MK29	RQ21		頁岩	
		MK29	RQ21		頁岩	
		MK29	RQ21		珪質頁岩	
		MK29	RQ70	剥片	珪質頁岩	
		MK29		剥片	珪質頁岩	
		MK30	RP	—	珪質頁岩	メノウ質
		MK30	RP	—	珪質頁岩	
		MK30	RQ80		珪質頁岩	
		MK30	RQ82	剥片	珪質頁岩	
		MK30	RQ83	石核	珪質頁岩	
		MK30		自然礫	赤玉	
		MK30		剥片	頁岩	
		MK30		剥片	珪質頁岩	
		MK30		剥片	輝石安山岩	
		ML22			珪質頁岩	

挿図番号	遺構名	グリッド	No	器種	石材	石材備考
		ML22			珪質頁岩	
		ML22			珪質頁岩	
		ML22			頁岩	
		ML22			頁岩	
		ML22			頁岩	
		ML22			頁岩	
第139図11		ML23	RQ2	岩版	流紋岩質凝灰岩	
		ML23		剥片		
第140図23		ML28		石核	赤玉	
		ML28		自然礫	頁岩	
		ML28		自然礫	珪質頁岩	
		ML28		自然礫	珪質頁岩	
		ML28		剥片	珪質頁岩	
		ML28		自然礫	赤玉	
		ML28		石核	赤玉	
		ML29		剥片	珪質頁岩	
		ML29		剥片	珪質頁岩	
		ML29		剥片	珪質頁岩	
		ML29		自然礫	玄武岩	
		MN22~28		剥片	無斑晶質安山岩	
		MN22~28		折断石器	頁岩	
		MN24		剥片	珪質頁岩	
		MN24		剥片	珪質頁岩	
		MN24		剥片	頁岩	
		MN28		剥片	珪質頁岩	
		MN28		剥片	珪質頁岩	
		MN28		剥片	頁岩	
		MO24		剥片	珪質頁岩	
		MO24		剥片	珪質頁岩	
		MO28		剥片	珪質頁岩	
		MO28		剥片	珪質頁岩	
		MO28		剥片	頁岩	
		MP23	RQ11	剥片	珪質頁岩	
		MP23	RQ12	剥片	珪質頁岩	
		MP23	RQ13	剥片	珪質頁岩	
		MP23	RQ17	剥片	珪質頁岩	
		MP23	RQ25	剥片	珪質頁岩	
		MP23	RQ26	自然礫(被熱)	頁岩	
		MP23	RQ8	ＵＦ	珪質頁岩	
		MP23		石核	珪質頁岩	
		MP28		剥片	頁岩	
		MQ23	RQ28	剥片	頁岩	
		MQ23	RQ29	剥片	珪質頁岩	
		MQ24	RQ39	剥片	頁岩	
		MR23	RQ40	—	頁岩	
		MR24	RP46		珪質頁岩	
		MR24	RP46		珪質頁岩	
		MR24	RQ40		頁岩	
		MS23	RQ45	ＵＦ	珪質頁岩	
		MS23	RQ46	剥片	頁岩	
		MS24	RQ47	剥片	珪質頁岩	
		MS24	RQ48	ＵＦ	珪質頁岩	
		MS25	RQ72	剥片	珪質頁岩	
		MT25	RP76	ＵＦ	頁岩	
		MT25	RQ73	剥片	珪質頁岩	
		MT25	RQ75	剥片	珪質頁岩	
		MT25	RQ77	自然礫	玉髄	
		MT25	RQ77	ＵＦ	頁岩	
		MT25		剥片	珪質頁岩	
		MT25		剥片	頁岩	
第140図25		NA26	RQ139	石核	頁岩	
第138図９		NB27	RQ157	石皿	多孔質輝石安山岩	
		表採	RQ	剥片	頁岩	
		表採	RQ	剥片	頁岩	
		表採	RQ	剥片	頁岩	
		表採	RQ	剥片	頁岩	
		表採	RQ	剥片	珪質頁岩	
		表採	RQ	剥片	珪質頁岩	
		表採	RQ	剥片	珪質頁岩	
		表採	RQ	剥片	珪質頁岩	
		表採	RQ	剥片	珪質頁岩	
		表採	RQ	剥片	珪質頁岩	
		表採	RQ	剥片	珪質頁岩	
		表採	RQ	ＲＦ	珪質頁岩	
		表採	RQ	ＲＦ	珪質頁岩	
		表採	RQ	削器	珪質頁岩	
		表採	RQ	剥片	玉髄	
		表採	RQ	石核	変質流紋岩	
		表採	RQ	剥片	頁岩	
		表採	RQ	剥片	頁岩	
		表採	RQ	剥片	頁岩	
		表採	RQ	剥片	頁岩	
		表採	RQ	剥片	頁岩	
		表採	RQ	石核	頁岩	
		表採	RQ	石核	頁岩	
		表採	RQ	ＲＦ	頁岩	
		表採	RQ	ＲＦ	頁岩	
		表採	RQ	剥片	珪質頁岩	
		表採	RQ	剥片	珪質頁岩	
		表採	RQ	剥片	珪質頁岩	
		表採	RQ	剥片	珪質頁岩	
		表採	RQ	ＲＦ	珪質頁岩	
		表採	RQ	ＲＦ	珪質頁岩	
		表採	RQ	ＲＦ	珪質頁岩	
		表採	RQ	自然礫	玉髄	
		表採	RQ	自然礫	玉髄	
		表採	RQ	剥片	玉髄	
		表採	RQ	剥片	石英	
		表採	RQ	自然礫	ガラス質安山岩	
		表採		剥片	頁岩	
		表採	RQ	剥片	頁岩	
		表採	RQ	剥片	珪質頁岩	

第35表　出土石器の器種別石材組成

	平基有茎石鏃	柳葉形石鏃	削器	石核	折断石器	土掘具	石棒	配石	岩版	円盤状石製品	石皿・台石	磨石	敲石	自然礫	自然礫（被熱）	RF調整剥片	UF使用剥片	剥片	不明	合計
火山岩類																				
流紋岩															1					1
安山岩																			1	1
安山岩（新第三紀）						1								1						2
輝石安山岩（新第三紀）											1									1
石英含有輝石安山岩											1									1
ガラス質安山岩														1						1
無斑晶質安山岩														2				1		3
多孔質輝石安山岩											3									3
輝石安山岩										1	6	1	2	1				1		12
玄武岩														1						1
火山砕屑岩類																				
流紋岩質凝灰岩								1	1		2									4
堆積岩類																				
砂岩											1									1
頁岩			4	6	3									5	1	5	4	37	20	85
頁岩（古期）														1						1
珪質頁岩	2	1	4	4	4									3		10	10	63	30	131
変成岩類																				
粘板岩							1													1
変質岩類																				
変質流紋岩				1										1						2
鉱物																				
石英																		1		1
玉髄														3				5	1	9
赤玉				8										3						11
合計	2	1	8	19	7	1	1	1	1	1	14	1	2	22	2	15	14	108	52	272

第６章　まとめ

向様田Ａ遺跡の今回の調査では115基の遺構が検出された。平成12・13年度に調査し、平成14・15年度に報告(以下『遺構篇』[註1]・『遺物篇』[註2]とする)した遺構数に加えて最終的な遺構数は450基である（第36表)。今回の調査で、『遺構篇』のＳＸ347・348がＳＡ3030を構成する柱穴となった。

第36表　向様田Ａ遺跡遺構総数

種別＼数量	遺構篇	遺物篇	本書	合計
SI（竪穴住居跡）	3	0	0	3
SKI（竪穴状遺構）	0	0	2	2
SB（掘立柱建物跡）	0	0	1	1
SA（柱列跡）	0	0	4	4
SR（土器埋設遺構）	2	0	2	4
SQ（配石遺構）	36	0	35	71
SKF（フラスコ状土坑）	0	0	1	1
SK（土坑）	175	0	10	185
SN（焼土遺構）	4	0	0	4
ST（捨場）	2	2	0	4
SX（性格不明遺構）	6(-2)	0	0	4
SKP（柱穴）	107	0	60	167
合計	335(-2)	2	115	450

・遺構篇でSXが6(-2)となっているのは、『14年報告』のSX347・348がSA3030を構成する柱穴となったことによる。
（註1）

調査方法の課題と問題

今回の調査の主眼は、①平成12・13年の調査で課題として残されていた旧河床礫上に構築された配石遺構ＳＱ1018とＳＱ3049（『遺構篇』では東部環状配石・西部環状配石と呼称）を含めて無遺物の自然礫層まで掘り抜き遺跡を完掘すること、②他にも礫層上に配石やその他の遺構が存在する可能性が指摘されていたので、それらを検出し調査すること、③新たに検出された土坑や柱穴が建物や柱列を構成するかどうかを検証することであった。

調査にあたり配石遺構の検出には、礫層上に構築された配石遺構をどのように認定するかの問題があった。すなわち真の配石遺構と、自然礫の配列が偶然何らかの形状を呈したものをどのように峻別するかという点である。

これについては、平面形が円形など何らかの幾何学的な形状を呈する例と、周辺に比べて礫の集中度が特に高い地点を暫定的に遺構と認定した。次に上部配石を断ち割って下部遺構を探査し、さらに礫層を全面的に下げて遺構であることを確定した。

しかし、配石遺構としたものの内、礫の配列が他の遺構に比べてより規格性に欠け、下部礫層（XIII層）から連続して礫が露出している場合は、自然の営力による偶然と考え遺構から除外した。

なおＳＱ1016のように、当初人力では動かせないと考えていた巨礫の下から土坑が検出され、初めて巨礫とその周辺の礫が土坑上に集積されたものである、と判明する場合もあった。このような場合は、上面の礫を含めて配石遺構と認定した。

配石遺構の分類

配石遺構の分類は、その形態と下部土坑の有無で３形態９種類に分けた（第145図)。１・２類とも下部土坑を持つ配石遺構は墓である可能性が高い。２ｂ類とした寄せ集め形で下部土坑を持たない配石遺構では、自然の礫層が偶然意味を持ったように集合した場合と分離するのが困難ではある。３類としたのはより具象的な形態を持っている１群であり、竪穴住居跡状を呈する３ｄ類と立石を持つ３ｅ類以外は、１遺構１形態となった。